

14.7-33



• 200701623645 •

14,7

33

司法省藏版

佛國民法覆義

相續之部

第一卷 第二帙

明治十五年三月印行



始





司法省藏版

佛  
國  
民  
法  
復  
義

第二帙  
第一卷

明治十五年三月印行



147  
33x

ロムル 佛蘭西民法覆義第二帙第一卷

凡例

- 一 本書分テ三帙ト爲ス每帙一號ヨリ始ム即チ書中單ニ何號又ハ何號參觀トアルハ皆チ其帙内ノ號數ニシテ他ノ帙ニ涉ル時ハ例之ハ第一帙何號若シハ第二帙何號ト記ス
- 一 本書中字傍ニ批點或ハ圈點ヲ付シタルハ皆チ讀者ノ特ニ注意ヲ要スル者ナリ
- 一 本書中單ニ第何條ト記スル者ハ皆チ那翁列倫法典ノ箇條ナリ他ノ商法、刑法、治罪法其他ノ法律ヲ引用スル時ハ必ス第何條ノ上ニ其書名ヲ標ス

明治十五年三月

譯者 識



ロム  
ン  
氏  
佛蘭西民法覆義第二帙第一卷

目次

○第三篇 ●所有權獲得ノ方法	一
○總則	一
○第一卷 相續	二九
○第一章 相續開始及ヒ相續人ノ遺物掌握	三二
○第一節 相續開始	三二
○第二節 無遺囑相續人數種ノ階級	四九
○第三節 掌握	五二
○第二章 相續ヲ爲スニ必要ナル條件	六三
○第一節 能力	六四
○第二節 相續ノ地位ヲ失フ事	七二



○第壹 相續ノ地位ヲ失フ原因 七三

○第貳 相續ノ地位ヲ失ハシムルノ權位  
ヲ有スル人 八五

○第參 相續ノ地位ヲ失フ事ノ始マル時  
期 八八

○第肆 相續ノ地位ヲ除去セシメシ相續  
人ト除去セラレタル相續人トノ間ニ  
生スル効驗 九二

○第伍 相續ノ地位ヲ失シタル他ノ相續  
人ニ對スル効驗 九五

○第陸 相續ノ地位ヲ失シタル者ノ子ニ  
對スル其効驗 一〇〇

○第柒 無能力ノ相續人ト相續ノ地位ヲ  
失スル旨ノ宣告ヲ受ク可キ有罪ノ相  
續人トノ差異 一一〇

○第三章 相續ヲ爲スノ順序 一一三

○第一款 總則 一一三

○第二款 名代相續 一三二

○第三款 卑屬親ニ授付スル相續 一五四

○第四款及第五款 尊屬親及ヒ傍系親ニ授付  
スル相續 一六二

○附錄

○尊屬親カ自己ヨリ贈與シタル物品ヲ相續  
スル事 一七二



○第一節 贈與者タル尊屬親ノ權利ノ性質 一七三

○第二節 贈與者タル卑屬親ハ何レノ事項

ニ相續ヲ爲シ得可キカ即チ之ヲ再言ス

レハ尊屬親ヲ除却スル血屬親及ヒ尊屬

親カ除却スル血屬親ハ如何 一八一

○第三節 贈與者タル尊屬親カ相續スル財

産 一八八

○第四節 上ニ説述セシ事項ニ於テ贈與者

タル尊屬親カ代價ノ債主權ト取戻ノ訴

訟權ト相續スル權利ノ根據スル理由 一九九

○第五節 通常ノ相續ト贈與シタル尊屬親

ニ傳與スル相續トノ差異 二二三

○第四章 例外相續 二二六

○第一款 私生ノ子カ其父又ハ母ノ財産ニ有

スル權利又ハ子孫ナクシテ死去シタル私

生ノ子ノ相續 二二六

○第一節 父又ハ母ノ遺物ヲ相續スル私生

ノ子 二二六

○第二節 認了シタル私生ノ子ノ相續 二九二

○第二款 生存スル配偶者ノ權及ヒ國ノ權 三〇八

○第一節 生存スル配偶者ニ傳與スル相續 三〇八

○第二節 國ニ傳與スル相續 三一三

○第三節 配偶者國及ヒ私生子カ負擔スル

義務即チ財産所有ノ必要ナル條件 三一三



○第五章 相續ヲ承諾スル事及ヒ辭却スル事

六

○第一款 相續ヲ承諾スル事

三三一

○第一節 相續承諾ニ附テノ起原史及ヒ其義務

三三一

○第二節 相續人ノ爲ス可キ數箇ノ定斷

三四五

○第三節 相續承諾ノ効驗アルニ緊要ナル條件

三五一

○第四節 相續ノ承諾ハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ爲ス乎

三五五

○第五節 相續ノ移轉

三七一

○第六節 一度ヒ爲シタル承諾ハ改ム可カラサル原則ノ例外

三七六

○第七節 何日間ニ廢棄ノ願ヲ爲サ、ル可カラサル乎

三九九

○第八節 廢棄ノ効驗

四〇〇

○第二款 相續ヲ拋棄スル事

四〇〇

○第一節 拋棄ノ効驗アルニ必要ナル條件

四〇〇

○第二節 如何シテ拋棄ヲ爲ス可キ乎

四〇三

○第三節 拋棄ノ効驗

四〇五

○第四節 拋棄者其拋棄ヲ取消スノ權利

四一三

○第五節 相續ヲ承諾シ又ハ拋棄スル權利ノ時効

四一九

○第六節 拋棄者タル相續人ノ債主ノ權利

四二八

○第七節 拋棄ノ改ム可ラサル事ノ例外

四三四

七



○第八節 遺留財産ヲ盜取、隱匿シタル相續人ヲ罰スル刑 四三五

○第三款 目錄相續及ヒ其効並ニ目錄相續人ノ負擔ス可キ義務 四四〇

○第一節 目錄相續ヲ承諾スルニ必要ナル條件 四四一

○第二節 相續人ニ許與シタル熟考ノ期限 四四三

○第三節 法律上又ハ審判上ノ期限中相續人ノ擔任ス可キ條件 四四五

○第四節 熟考スル相續人カ他人ノ出訴ニ對抗シタル遲緩請求ノ辨白ヨリ生スル費用ハ誰レノ負擔ス可キ者ナル乎 四四八

○第五節 法律上又ハ審判上ノ期限ヲ經過シタル後相續人ノ擔任ス可キ條件 四四九

○第六節 目錄相續ヲ承諾スルノ能力ヲ失フ事情 四五一

○第七節 目錄ノ便益ノ効 四六六

○第八節 目錄相續人ノ財産管理 四七五

○第九節 目錄相續人カ債主及ヒ受遺囑者ニ仕拂ヲ爲ス方法 四八五

○目錄相續ヲ承諾スルヲ要セサル相續人 四九九

○第四款 相續人ノ知レサル相續 五〇一

○第六章 遺物分派及ヒ贈與返還 五〇九

○第一款 分派ノ訴訟及ヒ其法式 九

○第壹 遺物不分○分派ノ釋義 五〇九

○第貳 各相續人遺物不分ヲ脫スル權利 五一一

○第參 分派ノ種類 五二一

○第肆 何人カ何人ニ對シテ分派ノ訴訟  
ヲ爲シ得可キカ 五二三

○第伍 何レノ場合ニ於テ熟談ノ分派ヲ  
爲ス可キ乎又何レノ場合ニ於テ裁判  
所ニ分派ヲ爲サ、ル可カラサル乎 五三五

○第陸 分派請求ノ最初ノ方式即チ封印  
目錄ヲ作ル事 五三六

○第柒 分派ニ附キ裁判管轄及ヒ訟求ノ  
手續 五三九

○第捌 分派調度ノ手續 五四三

○第玖 分派ノ允許及ヒ分額ノ配付 五六〇

○第拾 代理セラレ又ハ補助セラレタル  
無能力者ノ法律ノ要スル定式ナク爲  
シタル分派○無能力者ノ自カラ爲シ  
タル分派 五六二

○第拾壹 遺物ノ取戻 五六五

○第二款 返還 五八〇

○第一節 總說 五八〇

○第二節 贈與者又ハ遺囑者カ受贈者又ハ  
受遺囑者ヲシテ贈與又ハ遺囑ヲ返還ス  
ルノ義務ヲ免カレシムル約束 五九三



○第三節 如何ナル人カ返還ヲ爲ス可キ乎 五九五

○第四節 何レノ相續ニ返還ヲ爲ス可キ乎 六〇六

○第五節 如何ナル物ヲ返還ス可キ乎又如 六〇七

何ナル物ヲ返還セスシテ可ナル乎 六〇七

○第六節 返還ス可キ物件又ハ金額ヨリ生 六三八

スル菓實及ヒ利息 六三八

○第七節 返還要求ノ權利ヲ有スル人及ヒ 六四一

其返還ニ附キ其利益ヲ得ルノ權利アル 六四一

人 六四一

○第八節 返還ヲ行フノ方法及ヒ其効 六五一

○第三款 負債辨濟 六八八

○第一節 通則○負債ノ割附及ヒ辨濟ノ義 六八八

務 六八九

○第二節 死者ノ負債ヲ辨濟シ且ツ之ヲ擔 六九一

任ス可キ義務ヲ有スル人 六九一

○第三節 負債ノ割附 六九九

○第四節 債主請求ノ權 七〇三

○第五節 割附ノ負債高ヨリ多キ義務アル 七〇三

例外ノ場合 七一六

○第六節 擔當ス可カラサル負債ヲ辨濟シ 七一六

又ハ擔當分外ニ辨濟シタル相續人ノ有 七一六

スル要償ノ權利 七二一

○第七節 相續遺物中ニ永代年金ノ拂方ノ 七二一

爲メ特定ノ書入トシタル一若クハ數箇 七二一

ノ不動産存在ナル時ノ處分

七三二

○第八節 死者ニ對シテ執行力アル證書ノ

相續人ニ附テ生スル効力

七三八

○第九節 家産分離

七四一

○第四款 分派ノ効

七七二

○第一節 一般ノ効

七七二

○第二節 各相續人ノ同分派人ニ對シテ負

フ所ノ擔保ノ義務

七九〇

○第五款 分派ノ取消

八〇五

○第一節 取消ノ原因

八〇五

○第二節 他ノ契約ノ形容ヲ以テ隱蔽シタ

ル分派

八一六

○第三節 取消訴權ノ性質及ヒ其効

八二一

○第四節 取消ス可キ分派ノ修正○取消訴

訟ノ期限

八二三



ロムル 佛蘭西民法覆義第二帙第一卷

第三篇 所有權獲得ノ方法

○總則

○號 讓與スルハレム物品ヲシユアムノ彼人アリエナム他人ファセレーリス  
乙譯者按スルニ甲ノ物品ヲノ意即チ甲ノ所有權ヲ獲ル所ノ乙ニ之  
ヲ移轉スルノ意ナリ

故ニ讓與ノ必要ノ對話ハ獲得ノ語ナリ然レモ獲得ノ對話ハ必シモ

讓與ト云フニ非ス蓋シ余ハ人ノ讓與スルコト無シト雖モ何人ニモ屬

セサル物品ヲ先占權ニテ獲得スルヲ得ルコト有レハナリ(九號第六方

法ノ先占權ノ論理參觀)

讓與ヲ爲サスト雖モ所有權ヲ失フコトアリ譬ヘハ余カ復取ノ意無フ

所有權獲得ノ方法 總則



岩野新平



シテ余ニ屬スル物品ヲ投棄スル時ニ余ハ何人ニモ物品ヲ移轉セス  
ト雖モ其所有權ヲ失フ而シテ其物品ハ即チ無主ノ物タルカ故若シ  
人有テ之ヲ拾取スル時ハ其人ハ先占權ノ名義ニテ所有者トナル可

賣却買取ノ語ハ讓與及ヒ獲得ノ語ト其意同シカラス讓與ト賣却ト  
ノ差異ハ猶ホ類ト種トハ譯者按スルニ類ハ廣シ種ノ差異ノコトシ何

トナレハ吾人賣却ノミチ以テ讓與スルニ非ス又贈與交換等ニテモ  
讓與スルヲ得レハナリ且又賣却アリト雖モ讓與ノ有ラサルヲ

アリ譬へハ余ハ足下ニ各箇ニ定メサル物品即チ種ノ確定物タル馬  
譯者按スルニ各箇ニ定ムル物トハ余ノ白馬、余ノ庫中ニ在ル葡萄酒

幾樽、余ノ倉中ニ在ル米、麥、幾石ト云フカ如ク物品ヲ別々ニ明示シテ  
之ヲ確定スルハ只物品ノ種ヲ稱シテ各箇ノ確定物トモ云フ各箇ニ定  
マラサル物トハ只物品ノ種ヲ稱シテ各箇ノ確定物トモ云フ各箇ニ定  
ルチ云ハス只馬ヲ賣ル種ヲ確定スル者ナリ夫然リ馬ト云ヒ葡萄酒  
カ如キ皆ナレ物品ノ種ヲ確定スル者ナリ夫然リ馬ト云ヒ葡萄酒

酒ト云ヒ又米、麥ト云フ、馬ハ獸類中ノ一種ナリ又葡萄酒、米、麥ハ飲食  
類中ノ一種ナルニ非スヤ此故ニ之ヲ種ノ確定物ト云フモ誣言ニ非  
サル可シ讀者宜シク類ト種トハ大小廣狹ノ意アルヲ辨シ且人  
中ニ亞細亞人種、歐羅巴人種等ノ別有ルガ如キヲ察セハ大ニ會得ス  
ル所ア販賣センニハ余ハ未ダ讓與ヲ爲サ、ルナリ蓋シ其販賣ハ所  
有權ヲ移轉スルニ非ス唯、足下ハ余ノ交付ス可キ馬ノ債主トナリ而  
シテ余ノ足下ニ馬ヲ移轉スルノ時足下ハ始テ其所有者ト爲ルヲ得  
可シ(八號及千百二十三號以下參觀)

(二號) 所有權ヲ獲得スルノ方法左ノ如シ

(第壹) 原始ノ方法又ハ由來ノ方法

余何人ニモ屬セサル物品ノ所有者トナル時ニハ之ヲ原始ノ方法ニ  
因テ獲ルト云フ又余ノ物品ヲ得ルヤ人有テ其所有權ヲ捨テ之ヲ余  
ニ移轉スル時ハ由來ノ方法ヲ以テ得ルト云フ其先占ノ權ハ原始ノ  
方法ナリ何トナレハ何人ニモ屬セサル物品譬へハ狩獵ニ於テ得ル



所ノ禽獸ノ如キチ先占權ニテ余ノ家産ト爲スヲ以テナリ

約束ノ契約ハ由來ノ方法ナリ何トナレハ約束ハ余ノ家産トナル可キ

物品ヲシテ他人ノ家産中ヨリ余ニ移轉セシムルヲ以テナリ

(三號) (第貳) 要償ノ原因或ハ無償ノ原因

余ハ移轉セラル、物品ニ其代價ヲ與フル時ハ要償ノ原因ヲ以テ得

ル者トス又余ノ其代價ヲ與ヘスシテ物品ヲ得ル時ニハ無償ノ原因

ニテ得ル者トス譬へハ賣却ハ要償ノ原因ニテ物ヲ得ルノ方法ナリ

何トナレハ雙方各或ル物品ヲ與へ又之ヲ受取ルヲ以テナリ而シテ

贈與ハ無償ノ原因ニテ得ルノ方法ナリ何トナレハ雙方ノ内一方ハ

代價ヲ與ヘスシテ物品ヲ受取ルニ他ノ一方ハ代價ヲ受取ラスシテ

物品ヲ與フルヲ以テナリ

此二箇ノ獲得ノ方法ノ中許多ノ差異アリ即チ左ノ如シ

第一 賣却、交換ハ雙方ノ協意ヲ以テ成ル者ナリ此故ニ公正證書、私

印證書、白狀、誓詞ヲ以テ是ヲ證明スルヲ得可シ且ツ法律ノ證人ヲ許

可スル場合ニ於テハ其證人ヲ以テモ之ヲ證明スルヲ得可シ(第千五

百八十二條、第千五百八十三條及第千七百三條參觀)○之ニ反シテ

贈與ハ公式ノ契約ナリ蓋シ贈與ハ或ル法式ニ準據スルニ非サレハ

其効ヲ有セス故ニ公證人ノ作爲スル公正證書ニ非サレハ其證據タ

ルヲ得ス(第九百三十一條)

第二 要償ノ契約ニ於テハ法律及ヒ風儀ニ違背スル未必條件ハ成

立セス而シテ其未必條件ニ關スル約束ヲシテ亦成立セサラシム(第

千百七十二條)○贈與ノ契約ニ在テハ右ニ等シキ未必條件ハ記載セ

サル者ト見做サル斯ク贈與ノ未必條件ハ成立セスト雖モ其贈與ニ

ハ効アル者トス(第九百條)



第三 要償ノ契約者ノ一方ノ意ニ關スル解除ノ未必條件ヲ以テ其契約ヲ爲スト雖モ固ヨリ未必條件ノ純粹ナル人意ニ關スル者ニ非サル時即チ未必條件ノ結約者ノ一方ノ偶然ト其意志トノ兩事ニ關スル時ハ其要償ノ契約ハ効チ生スル者トス○右ニ等シキ未必條件ハ贈與ノ効ノ發生ヲ妨害ス(第九百四十四條)

第四 概スルニ吾人ハ無償ノ原因ニテ讓與シ及ヒ獲得スルヨリモ要償ノ原因ニテ讓與シ及ヒ獲得スルニハ最モ能力有ル者トス故人其姦通ノ子又ハ其亂倫ノ子法律上ニテ結婚ヲ禁スル人ニ爲シタル贈與ハ成立セス(第七百六十二條及第九百八條參觀)又病者ノ醫師ヨリ診察ヲ受ケ其病中ニ贈與ヲ爲シ終ニ其疾病ノ爲メニ死去スル時ハ其醫師ニ爲シタル贈與ハ成立セス(第九百九條)之ニ反シテ賣却ハ此等ノ人ノ際ニ爲スト雖モ効アル者ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ

要償ノ契約ハ何レノ場合チ問ハス之ヲ爲スチ得ルト雖モ無償ノ契約ニ在テハ之ヲ爲スニ最モ制限アルト知ル可シ然レモ一二ノ場合ニ於テ右ニ反對スル法則アリ譬へハ夫ハ其妻ニ贈與ヲ爲シ妻モ亦其夫ニ贈與ヲ爲スチ得ルト雖モ(第一千九十六條)賣却ニ至テハ夫妻ノ間ニ禁止セラル、事有ル是ナリ(第一千五百九十五條)

(四號) (第參) 不○特○定○財○產○ヲ○獲○ル○ノ○原○因○或○ハ○特○定○財○產○ヲ○獲○ル○ノ○原○因○  
人有テ余ニ物品ノ彼此チ問ハス其財產ノ全部又ハ全部中ノ一部チ移轉スル時ハ余ハ不特定財產ヲ獲ルノ原因ニテ獲得スル者ナリ又人ノ余ニ一箇又ハ數箇ノ確定セル財產ヲ移轉スル時ニハ余ハ特定財產ヲ獲ルノ原因ニテ獲得スル者ナリ

無遺囑相續ハ概シテ不特定財產ヲ獲ルノ方法ナリ變例相續ト稱ス



ル者ハ特定財産ヲ獲得ノ原因ニテ財産ヲ獲得スルノ方法ナリ(第三百五十一條、第七百四十七條及第七百六十六條參觀)而シテ遺囑アル相續ハ不特定財産ヲ獲得スルノ原因及ヒ特定財産ヲ獲得スルノ原因ノ兩列ニ屬スル者トス蓋シ遺囑アル相續ニハ財産ノ全部ナルコトアリ又財産ノ一部ナルコトアリ又ハ特定ノ財産ナルコト有レハナリ(第一千三條、第一千十條及第一千十四條參觀)

不特定財産ノ相續人ハ其死者ノ負債ヲ擔當セサル可カラス(第七百二十四條、第九條及第十二條參觀)然ルニ特定財産ノ相續人ハ死者ノ負債ヲ擔當スルニ及ハス(第一千二十四條)○然レモ第三百五十一條、第七百四十七條及ヒ第七百六十六條ニ記載スル事項ニ於テハ右ノ規則ニ據ラス

第七百十一條及第七百十二條ハ所有權ヲ得ル五箇ノ方法ヲ

列記ス

第一 相續

第二 生者中ノ贈與又ハ遺囑ノ贈與

第三 義務ノ効

第四 因主併從即チ附着  
アンコルボラシヨシ

第五 時効ノ權  
プレスクリプシヨシ

此列記ヲ完全ナラシメンカ爲メ尙ホ上二條ニ記セサル他ノ四箇ノ方法ヲ加ヘサル可カラス即チ

第六 先占權

第七 交付  
トラジシヨシ

第八 良意ノ占有者、葉實ヲ收取スル事  
ベルセフシヨシ、デ、フリエイバルアン、ボセスール、ツ、ボシヌ、ホリ

第九 法律ノ効

總則



## 〔六號〕 第壹 相續。

相續ハ由來ノ獲得方法ニシテ多クハ不特定財産ヲ獲ルノ原因ナリ  
蓋シ死者ノ遺留スル總テノ財産及ヒ總テノ負債ハ相續ノ開始スル  
ヨリ當然ニ相續人ニ移轉スル者トス

## 〔七號〕 第貳 贈與。

生者中ノ贈與ヲ受ル者ハ其贈與ノ目的カ各箇ニ確定セル物ニアル  
時ニハ約東ノ効ニ因リ所有者トナル可シ又其目的唯物品ノ種ノミ  
ニテ確定シタル者ニ在ル時ニハ引渡ノ効ヲ以テ所有者トナル可シ  
〔八號及十七號參觀〕此ノ如クナルヲ以テ深ク論スル時ハ贈與ハ所有  
權ヲ得ルノ特別ノ方法ニ非スト謂フヲ得可シ

## 〔八號〕 第參 義務ノ効。

此法文ハ精確ナラサルヲ以テ之カ説明ヲ要ス

羅馬法及ヒ我カ古法ニ於テ契約ハ所有權ヲ移轉セスシテ唯義務ノ  
ミチ生セリ而シテ所有權ノ移轉ハ契約後ノ或ル所爲即チ物品ノ引  
渡ニ是レ因ル故ニ契約ハ所有權ヲ移轉スルノ義務ヲ生スルニ止マ  
リ其義務アルヲ以テ引渡ヲナサシメ引渡アリテ始テ雙方ノ目的ヲ  
ル所有權ノ移轉ヲ爲ス者トス此故ニ受贈者又ハ買取者又ハ交換者  
ハ契約ノ効ニ因リ物件ノ債主トナリ而シテ引渡ノ効ニ因リ其物品  
ノ所有者トナルナリ

民法ニ於テハ之ニ反シ契約ハ義務ヲ生スルト同時ニ所有權ヲ移轉  
ス之ヲ契約ノ効トス故ニ余カ足下ニ物品ヲ賣約スル時ニハ物品ハ  
瞬時間ニ余ノ財産中ヨリ足下ノ財産ニ轉シ買取者ハ一時ニ債主、所  
有者トナリ債主權ヲ以テ物品ノ引渡ヲ要求スルヲ得可キナリ然レ  
モ其所有權ノ移轉ハ引渡ニ因ルニ非ス引渡ノ効ハ唯買取者ヲシテ



其物品ヲ供スルノ用法ニ使用セシムルノ外他有ラサルナリ故ニ所有權ノ移轉ハ引渡ノ有無ニ拘ハラズ其以前既ニ契約ノ勢力ニ因テ成就スル者トス

然レモ契約ナル者ハ其目的唯種ニ因テ定メラル、者譬ヘハ馬ノ類又ハ某州ニ在ル若干坪ノ土地ノ如キ者ニ在ル時ハ直ニ所有權ヲ移轉スル者ニ非ス此等ノ例ニ於テハ往時ノ法理ヲ適用シ契約ハ唯債主權ヲ得ルノ方法ニ過キスシテ所有權ヲ移轉スル者ニ非ス此時ニハ契約ヨリ生シタル物品引渡ノ義務ヲ履行セハ即チ所有權ハ移轉スル者ナルカ故ニ引渡アツテ而シテ後ニ所有權ヲ得ル者ナリト言ハサル可カラス之ヲ畧説スルニ所有權ハ契約ノ目的各箇ニ確定シタル者ニ在ル時ハ契約ノ効ニ因リ移轉シ又其目的唯種類ニ因テ定メタル者ニ在ル時ハ引渡ノ効ニ因リ移轉ヲ爲シテ決シテ義務ノ効

ニ因リ移轉スル者ニ非ス○抑義務ノ自然ノ効トハ債主ナシテ要メニ應セサル負債主ニ對シ公力ノ許ス所ノ強促方法ヲ用フルヲ得セシムルノ權利是ナリ故ニ賠償ヲ命シ或ル場合ニ於テハ負債主ヲ禁錮シ財産ヲ差押ユル等ハ即チ義務ノ効ナリ然ラハ則チ所有權ノ移轉ヲ以テ義務ノ効トナスハ誤謬ナルニ非スヤ此ヲ以テ法文ヲ改正シ「所有權ハ契約ノ効ニ因リ得ル者ナリ」ト言ハサル可カラス(第千百二十三條以下參觀)

〔九號〕 第肆 因主併從ノ權即チ附著

此事項ハ第五百五十一條乃至第五百五十七條ニ説明シタリ(第一帙千四百五十四號以下參觀)  
第五 時効

余ハ此理ヲ第二千二百十九條ニ説明ス可シ(第三帙千七百五十號以



下參觀

第七百十三條

第陸 先占權

先占ノ權ハ所有權ヲ得ル原始ノ方法ニシテ無主ノ物品ニ適用ス蓋シ先占ノ權ハ無主ノ物品ヲ取有スルニ在ル者ト知ル可シ唯第五百三十九條及ヒ第七百十三條ノ法章ヲ參閱スル時ハ先占ノ權ハ獲得スル方法ニ非サルカ如シ蓋シ其法章ニハ無主ノ財產ハ總テ政府ニ屬ス可キ者トセサルカ故ナリ然レモ此無主ノ財產ハ政府ニ屬スルノ規則ノ區域甚々小狹ナルヲハ明白ナリ曾テシメナン氏ノ參議院ニ於テ辯明ヲ爲シテ曰ク無主ノ財產ハ政府ニ屬ス可シトノ法則ハ唯、不動産ノミニ適用ス可シト又其他此法則ハ相續人無キ死者ノ遺留セル動産ニモ適用ス可シトスルモ可ナリ(第五百三十九條參觀)然レモ右ノ規則ヲシテ此限界ヲ踰エシム可カラス

右ノ如クナルカ故ニ余カ指示シタル規外ノ者ヲ除キ無主ノ動産ノ物品即チ山野ノ禽獸、投棄シタル物品、河海ニ生スル草木又ハ埋藏財貨(下ニ之ヲ説ク可シ)ハ皆ナ政府ノ所屬ニ非ス此ヲ以テ先占ノ權ニテ是等ノ物品ヲ獲得スルヲ得可シ第七百十五條、第七百十六條及ヒ第七百十七條ニ此事ヲ明言セリ

第七百十五條(十號)

何人ニモ屬セス其使用ヲ各人ニ供スル物品ヲ所得トスルノ方ジユイール

法ハ警察上ノ法律ニ於テ之ヲ規定ス(第七百十四條)

〔十一號〕 捕魚及ヒ狩獵ノ權利

何人ト雖モ所有者ノ許諾無ク其園圃ヲ通行スルノ權ヲ有セサルヲ以テ狩獵ノ權ハ不動産ノ所有者ノミニ屬スルカ如シ然レモ此權利ハ一般ニ所有者ニ非サルノ人ニモ屬スルト云フヲ得可シ蓋シ其權利ハ先占權ニテ山野ノ禽獸ヲ得ルノ權ニシテ何人ヲ問ハス確實ニ

總則



一般ノ人ニ屬スル者ナレハナリ故ニ他人ノ地ヲ通行スルヲ禁スルハ狩獵ノ權利ヲ破毀スルニ非ス又人アリ余ニ其地ニ狩獵スルヲ許スコトアルモ之カ爲メ余ハ一般ノ人ニ屬ス可キ狩獵權ヲ得ルニ非ス唯、其人ハ余ヲ目シテ所有權ヲ侵害スル者ト爲サ、ルノミ若シ所有者ノ許諾ナク其地ニ狩獵權ヲ行フ時ニハ是レ余ハ其所有權ヲ侵害スルヲ以テ罰金ヲ拂ヒ其地ニ加ヘタル損害ヲ償ハサル可カラス然レモ余ノ獲得スル禽獸ハ余ノ之ヲ保有スルヤ直ニ余ニ屬ス可シ何トナレハ其禽獸ヲ取有スルハ正ニ是レ何人ニモ屬セサル物品ヲ先<sup>○</sup>占權ニテ獲レハナリ

斯ク狩獵權ニ附テ解説スル所ノ者ハ同シク捕魚ノ權ニモ適用ス可シ然レモ千八百二十九年四月十五日ノ法律ハ或ル場合ニ於テ他人ノ些少ノ權利ヲモ有セサル河川ニ於テ捕獲シタル魚類ヲ差押ヘ又ハ沒收スルヲ許可スルコト有ルヲ知ラサル可カラス  
所有者ハ何レノ時ヲ問ハス又狩獵ノ免許無ク自家ニ近接シ繞圍ヲ設ケタル自己ノ地ニ於テ狩獵ヲ爲スヲ得可シ然レモ其繞圍ヲ設ケサル地ニ於テハ定時ニ非サレハ狩獵スルヲ得ス但シ其時期ノ終始ハ毎年各州ノ州長ノ布令ヲ以テ之ヲ定ム且ツ一般ノ規則ニハ行政官ノ付與スル狩獵免許ヲ有スルニ非サレハ狩獵スルヲ得ス(千八百四十四年五月三日ノ法律)  
何レノ人ト雖モ海中ニ捕魚スルノ權ヲ有ス船筏ヲ通スル小川ノ捕魚權ハ千八百二十九年四月十五日ノ法律ニ據テ之ヲ規定シ政府ニ屬スル者トセリ但シ釣魚ハ何レノ所ト雖モ自由ナリトス船筏ヲ通セサル小川ニ在テハ捕魚權ハ沿川ノ所有者ニ屬ス何レノ場合ト雖モ政府ノ小作人又ハ沿川ノ所有者ハ自己ノ權利ヲ行フニハ官府ノ



規則ニ準據ス可シ捕魚ノ時期及ヒ其用フル捕魚器ハ官府獨リ之ヲ定ム

第七百十六條(十二號) 埋藏財貨

第七百十六條ハ埋藏財貨ヲ釋解シテ曰ク偶然ノ事ニ因テ發見シ何人モ其所有權ヲ證明スルヲ得サル總テノ密藏又ハ埋藏シタル物件ナリト

(密藏又ハ埋藏云々)○此語ニ因レハ地ノ上面ニ存在セサル物品ヲ云フナリ然レモ必シモ地中ニ埋藏スルヲ要セス唯其物品ノ垣内樹上又ハ他ノ動産等ノ内ニ密藏セラレテ是等ノ物ト別質ナルヲ以テ十分ナリトス○第七百十七條ハ地上ニ發見スル物品ノ事ヲ規定セリ蓋シ其物品ハ總テ第一番ノ先占者ノ所屬トナルナリ(十五號及十六號參觀)

(何人モ其所有權ヲ證明セサル云々)○故ニ若シ人有テ證書證人又ハ單一ノ推測(第千三百四十八條及第千三百五十三條參觀)等ヲ以テ其人又ハ先キニ其物品ヲ有シ之ヲ與ヘタル他人ノ密藏シタルヲ證明スル時ニハ此物品ハ其人ニ屬セサル可カラズ(偶然ノ事ニ因リ發見スル云々)○此要件ハ餘リ過度ナルヲ覺ユ密藏又ハ埋藏ノ物品ヲ發見スル時人ノ其所有權ヲ證明スルヲ得サル時ハ常ニ埋藏財貨ナリト云フ迄ニテ可ナリ例之ハ所有者有テ滿金ノ貨函アリト臆測シ之ヲ得ンガ爲メ其庭園ヲ穿鑿スル時ニ其發見スル貨函ハ即チ發見スル財貨ナルカ故ニ此所有者ニ屬ス可キナリ○蓋シ偶然ノ事ニ因リ財貨ヲ發見シタルト否ラサルトチ區分スルノ緊要ナルハ財貨ノ歸屬スル所ヲ知ランカ爲メナリ夫ノ財貨ヲ密藏シ又ハ埋藏スル所ノ物件ノ所有者其財貨ヲ發見ス

總則



ル時ハ其發見者ノ所屬タルヤ明カナリ然レモ若シ人アリテ他人ノ物件中ヨリ財貨ヲ發見スル時ハ下ノ如ク區別ヲナシ其所屬ヲ定ム可シ

偶然ノ事ノ外他ノ方法ニ因テ之ヲ發見スル時ハ其人ハ些少モ埋藏物ニ權利ヲ有セサルナリ如何トナレハ此發見ハ必ス左ノ條件中ノ一ニ原因スレハナリ、一ハ其人所有者ニ報知セズ其知ラサルニ財貨ヲ穿鑿シ之ヲ發見スルハ即チ是レ他人ノ所有權ヲ犯害シ犯罪ヲ爲ス者ナリ既ニ犯罪タル以上ハ決シテ獲得ノ正當ノ原因タルヲ得ズ、二ハ其人所有者ノ命令ヲ受ケ穿鑿ニ從事シ財產ヲ發見スル時ニハ其人ハ發見者ニ非ス何トナレハ彼ハ自己ノ爲メニ勞働スルニ非スシテ己レヲ雇使スル主人ノ爲メニ使役ヲナシ己レハ唯其機械タルニ過キサレハナリ此二箇ノ場合ニ於テ發見シタル財貨ハ些少ノ部分

モ之ヲ發見シタル者ノ所屬トナラズ然ラハ發見ノ財貨ハ之ヲ密藏シ又ハ埋藏スル物件ノ所有者ニ附屬ス可キ乎曰ク所有者ノ命ニ因テ之ヲ發見シタル時ニハ其所有者ニ付與ス可キハ疑ヲ容レズ何トナレハ所有者ノカ真ノ發見者ニシテ先占權ニテ之ヲ得レハナリ然レモ所有者ノ知ラサルニ他人財貨ヲ穿鑿シテ得タル時ニ於テハ問題ノ至難ナルヲ覺ユ然レモ之ヲ決スルコト前ニ同一ナリトセリ或人曰ク是レ羅馬律ノ法則ニシテ現今ノ民法ニ於テモ之ニ異ナル所無シト

又他人ノ單ニ偶然ノ事ニ因リ財產ヲ發見スル時ニハ其半分ハ發見者ニ屬シ其半分ハ財貨ノアリシ物件ノ所有者ニ屬ス○抑此分與法ハ何レノ原則ニ基ク者ナルヤ之ヲ解スル能ハズ蓋シ普通法ニ因ルニ財貨ハ總テ之ヲ發見シタル者ノ所屬タラサル可カラス夫レ埋藏



財貨ナル者ハ其存在シタル物件ノ菓實產物ニモ非ス亦物品ノ其部分ヲ爲ス者ニモ非サルカ故ニ所謂ル無主ノ物タリ故ニ法律モ亦財貨ハ何人モ所有權ヲ證明セサル物品ナリト釋解ヲ下シ無主ノ物タルヲ明カニセリ果シテ然ラハ所有者ノ知レサル物品ハ其發見者タル先占者ニ屬セサル可カラス

然レモ二箇ノ理由有テ此普通法ノ原則ヨリ生スル結果ヲ排斥セリ抑發見物ハ多分財產ノ存在シタル物件所有者ニ屬スルカ又ハ其祖先ニ屬ス可キ者ナリ是レ眞ニ單一ノ推測ニ過キスト雖モ之ニ因據セサル可カラス又所有者ハ他日財貨ヲ發見シ得テ獨リ其利益ヲ受ク可キニ今偶然ノコニ因リ此利益ヲ失ハシムルハ亦酷ナラスヤ是等ノ理由アリ安ソソ普通法ノ結果ヲ可トスルヲ得ンヤ

財貨ノ發見者トハ蓋シ著手ノ前後及ヒ觸目ノ遲速ヲ問ハス開發シ

テ財貨ヲ露出セシメタル者ヲ云フナリ

故ニ他人ノ財貨ヲ露出セシメタル時ニ既ニ初發ニ之ニ觸目シ又之ニ著手シタル者アリト雖モ財貨ノ所有者トナルニハ未タ觸目著手ヲ以テ十分ナラストス

〔十三號〕 發見ノ財產ハ前ニ云フ如ク菓實ニ非ス故ニ人ノ發見シタル財貨ノ存在シタリシ物件ノ入額所得者ハ之ニ些少ノ權利ヲモ有セス〔第一帙千五百十四號第三項參觀〕

發見ノ財貨ハ產物ニ非ス況ヤ又其存在シタリシ土地ノ部分タラサルヤ明カナリ何トナレハ満金ノ貨函ヲ老樹ノ腐穴ニ發見スルト雖モ其貨函ハ固ヨリ老樹ノ部分ヲ爲スト云フ可カラス是レ取リモ直サス無主ノ物品ナリ故ニ法律ニ於テハ其所有權ヲ獲得者ニ付與セリ眞ニ是レ貨財ノ賜モノヲ受ルト云フ可シ



此名稱ニハ

第一 海中又ハ海涯ニ生スル草木ノ如キ無主ノ物品  
第二 何人カニ屬スル物品ニシテ其所有者ノ知レサル物即チ他人ノ海底、波間又ハ海涯ニテ發見スル遺失物等、是等ノ物品獲得ノ事ハ特別ニ法律ヲ以テ之ヲ規定セリ(千六百六十九年及ヒ千六百八十一年ノ布令參觀)

〔十五號〕 民法ハ海上外ノ場所ニ於テ他人ノ發見スル遺失物獲得ノ事ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ規定セリト云フト雖モ其言ノ誤ルヤ明カナリ蓋シ是等ノ物品ノ獲得方法ハ何レノ法律ニモ之ヲ規定スル者ヲ見ス然ラハ則チ之ヲ誰レノ所屬ト爲ス可キカ國ノ所屬カ將タ發見者ノ所屬カ余ヲ以テ之ヲ見ルニ國ノ所屬タル可キカ如シ抑、總テ

無主ノ物品ハ政府ニ屬スルノ制規ニシテ其事既ニ第七百十三條ニ瞭然タリ然ルニ第七百十五條、第七百十六條、第七百十七條ハ此規則ヲ制限シテ無主ノ物品又ハ所有者ノ知レサル物品ノ所有權ヲ他人ノ所屬ト定メテ政府ノ所屬トセスト雖モ市街公道等ニ遺失スル物品ニ附テハ何等ノ法章モ之ヲ發見者ニ屬ス可シト明記スルヲ見サレハ是等ノ物品ノ國ニ屬スルヤ明カナリ

十六號) 此點ニ附テハ大藏卿ノ布達アリ(千八百二十五年八月五日)其布令ハ發見者ノ其發見シタル物品ヲ官府又ハ司法官ノ手ニ委託スルヲ要セリ而シテ若シ三箇年間所有者ヨリ何ノ請求モ爲サ、ル時ハ委託シタル物品ハ發見者ニ與ヘ發見者ハ保存ノ費用ヲ拂フテ其所有者トナルナリ蓋シ此ノ如ク大藏省ノ決議ヲ爲サシメタルハ二箇ノ理由アルヲ以テナリ



第一ノ理由ハ動産ニ附テハ占有ハ其所有權ヲ得ルノ原因ニ等シキ効アリト云フノ規則ヨリ起レルナリ然レモ此理由ヲ唱道スルノ論者ハ未タ左ノ條々ニ注意セサルカ如シ

其一 此規則ハ遺失物ニ適用セス(第二千二百七十九條)

其二 此規則ハ良意ノ占有者ヲ保護スル爲メニ設クルヲ以テ財貨ヲ發見スル者ハ他人ノ物品タルヲ知テ之ヲ有スル者ナレハ此規則ノ保護ヲ受ク可カラス

其三 若シ此規則ヲシテ發見者ニ適用ス可キ者トセハ物品ハ發見ノ日直ニ其所屬タル可クシテ所有者ノ要求無ク三年ノ經過スルヲ俟ツ可キニ非サルナリ

第二ノ理由ハ純粹ニ道義上ヨリ起レルナリ夫レ世上大藏省ヲ欺詒スルヲ意トセサル者多シ故ニ發見者ノ如キモ司法官又ハ官府ノ手

ニ託スル物品ヲ所有シ獲ルノ目途無クシハ此委託ヲ爲サ、ル可シ蓋シ發見者カ己レ所有セント冀望スルノ物品ノ政府ノ所屬ニ歸セシトテ恐レテナリ然ルニ今若シ官府ノ手ニ在ル物品ハ所有者ノ要求セサル時ハ發見者ノ所屬トナス可シトセハ人情付託ヲ爲スヲ怠ラサルハ必然ナリ果シテ然ラハ付託ハ多少公告ノ質アルカ故ニ眞ノ所有者ハ容易ニ遺失物品ヲ見出スヲ得可キナリ○此理由ハ立法上ニ於テハ可ナリト雖モ新クニ法律ヲ設立スルニハ未タ十分ナラス況ヤ又既定ノ法律ヲ變更スルニ於テオヤ且ツ大藏省ノ布達ニハ二箇相反スルノ義有ルヲ覺ユ所有者ノ知レサル時ハ付託ノ物品ハ即チ國ノ所屬タル可クシテ發見者ノ所屬タル可カラサルナリ若シ又物品ハ發見者ノ所屬タル可シトセハ發見者ハ其付託ヲ爲スニ及ハサル可シ何トナレハ付託ノ義務ハ何レノ



法律ニモ明記セサルヲ以テナリ

余ヲシテ誤謬無カラシメハ準據ス可キ論アリ請フ之ヲ説カン  
遺失物ノ發見者ハ之ヲ占有スルノ權ヲ其物品上ニ有ス而シテ眞ノ  
所有者ニ非サレハ此占有權ヲ剝奪スルヲ得ス然ラハ其所有者トハ  
誰ソヤ曰ク國ニ非サル可シ何トナレハ法律ト雖モ何人ニモ屬セサ  
ル物品ニ非サレハ其所有權ヲ國ノ所屬ト爲スヲ得ス而シテ本例ニ  
於テハ物品ヲ遺失シタル者アルモ未タ其所有權ヲ失ハス故ニ國ハ  
茲ニ關涉ス可キニ非ス此ヲ以テ發見者ハ物品ニ確然占有權ヲ有シ  
テ若シ發見ノ日ヨリ三十年間所有者之ヲ要求セサル時ニハ時効ニ  
因テ物品ノ所有者タル可シ

〔十七號〕 第柒 交付

交付トハ此人ヨリ物品ヲ彼人ノ所管ト爲サシメテ其隨意ノ需用ニ

供スルノ事ナリ之ヲ略言スレハ占有權ヲ移轉スルノ謂ヒナリ夫レ  
各箇ニ定メサリシ物品ノ所有權ヲ移轉シ契約ヲ執行スル時ニハ即  
チ交付ヲ用ヒテ之カ移轉ヲ爲ス可シ(八號參觀)  
第捌 菓實ヲ收取シテ之ヲ獲得スル事(第五百四十九條及第五百五  
十條參觀)

第玖 法律ノ効ニ因リ獲得スル事

是レ十八歳以下ノ幼者ニシテ未タ後見ヲ免カレサル者ノ財産ノ入  
額所得權ハ法律上ヨリ之ヲ其父母ノ所屬ト爲スヲ謂フナリ(第三百  
八十四條)

○第一卷

相續  
シユクセスシヨ

〔十八號〕 第壹 總論

「シユクセスシヨ」ノ語ニ二箇ノ義アリ

相續



第一、死者ノ權利ト義務ヲ相續人ト名ツクル者ニ移轉スル事  
第二、死者ヨリ相續人ニ移轉スル權利又ハ義務ヲ以テ組成スル財  
産ノ全部ヲ云フ

此第二ノ意ニ於テハ遺留財産ト同意義ナリ  
相續ニ法律上ト遺囑トノ別アリ法律上ノ相續トハ死者ノ相續人ヲ  
指示セサル時法律之ニ代リテ其遺囑ヲ爲ス時ヲ云ヒ遺囑相續トハ  
死者自カラ死前ニ財産ヲ移轉セント欲スルノ人ヲ指示シタル時ヲ  
云フ

故ニ相續人ニ法律上ノ相續人アリ即チ法律上ヨリ指示スル人ナリ  
又遺囑ノ相續人アリ即チ死者ノ指示シタル人ナリ  
法律上ノ相續人ヲ分テ正當相續人及ヒ例外相續人トス正當相續人  
トハ正當ノ法律上ニ定ムル親族ノ關係ニ因リ死者ト續キ合アル者

チ云フ例外相續人トハ相續人ト死者トノ間ニ唯天然ノ血屬ノ關係  
ノミ私生子ノ關係ヲ云フ其父母アルカ又ハ毫モ親族ノ關係ナキ者ヲ云フ故  
ニ私生子ノ親族、配耦者及ヒ國ハ皆ナ例外相續人ナリ(第七百二十三  
條參觀)

「エリチエ、レヂチーム」ト云フハ曖昧ノ稱ナリ遺囑ノ相續人ニ對シテ  
ハ凡テ法律上指示スル人ヲ云フ又例外相續人ニ對シテハ死者ノ正  
當ノ親戚中ニ就テ法律ノ指示スル者ヲ云フナリ  
余ハ相續人ノ語ヲ廣濶ノ意ニ用フ然レモ法律上ニハ無遺囑ノ正當  
親戚ノミヲ相續人ト稱ス(第七百五十六條參觀)右法律ノ意想ヲ察ス  
ルニ相續人トハ總テ死者ニ代リ其身上ヲ受ケ續ク者ヲ云フナル可  
シ然ル時ハ財産ヲ受テ死者ノ代人タラサル者ハ相續人ト云フ可カ  
ラス但シ相續人ノ語ハ法律上ニモ亦廣濶ノ意義ニ用フル事アル

相續



ナリ(第三百十七條、第七百二十九條、第七百七十八條、第七百八十條及第八百四十一條參觀)

○第一章 相續開始及ヒ相續人ノ遺物掌握セイジツ

○第一節 相續開始

〔十九號〕 相續ヲ爲スニハ先ツ第一ニ其之ヲ爲スノ人相續開始ノ時ニ生存スルヲ要ス之ヲ以テ此時既ニ死去シタル者及ヒ未タ懷胎セサル者ハ相續ヲ爲スヲ得ス

故ニ精密ニ相續開始ノ時ヲ確定スルハ太ダ必要ナリトス蓋シ纔カ一時間ノ前後有ルニ因テ財産ノ移轉順序ヲ變換スルカ故ナリ(二十一號參觀)

第七百十八條  
第七百十九條

相續ハ死去ノ時ニ開始ス  
死去ノ時ハ死去ノ證書ニ因テ之ヲ證スルヲ得可シ然レヒ

第一、オフレシエテダシレイル 民生證書ノ官吏ニ届出タル死去ノ時刻又ハ其日ノ陳述ヲ虛言ナリ又ハ不正確ナリト證明スルヲ得可シ

第二、該證書ノ官吏カ陳述ノ日又ハ其時刻ト異ナル他ノ日又ハ他ノ時刻ヲ誤記シタルヲ證明スルヲ得可シ此等ノ證明攻撃ヲ爲スニハ下ニ記スルノ理由有ルカ故ニ贗造訴ノ手續ヲ爲スニ及ハス蓋シ第一ノ場合ニ於テハ證書ヲ攻撃スルモ證書ヲ作爲シタル公ノ官吏ニ向テ攻撃ヲナスニ非ス唯、其陳述ノ公正ナラサルヲ非難スルノミ第二ニ於テハ證書ハ邑長ノ記載シタル所タリト雖モ其記載ハ公ノ官吏ノ作爲シタル者ナリト謂フ可カラサルナリ何トナレハ法律ハ邑長ニ死去ノ日又ハ時刻ヲ記載ス可シト命シタルニ非サルヲ以テ其作爲シタル證書ハ單ニ平人ノ作爲ニ係ル者トナスヲ得可ケレハナリ(但シ第一帙二百九十八號以下參觀)○然レヒ死去ノ證書ハ贗造

相續開始



ノ訴ニ非サレハ之ヲ攻撃ス可カラスト爲シ此贖造ノ訴訟ヲ爲スノ時迄ハ死去ノ時刻ヲ證明スルニ十分ノ勢力アリトセハ是レ法律ハ公ノ官吏ニ危険ナル權ヲ付與スルナリ何トナレハ前ニ云ヒシ如ク此官吏ハ死去ノ時刻ヲ前後左右シテ法律上定ムル所ノ相續ノ順序ヲ變更スルヲ得レハナリ

斯ノ如クナルカ故ニ死去ノ證書ニ記載スル死去ノ日及ヒ其時刻ハ通常ノ證明方法ヲ以テ之ヲ攻撃破毀スルヲ得ル者トス若シ死去ノ證書ニ死去ノ日又ハ其時刻ヲ記載セサル時又ハ死者ノ死セシ邑中ニ民生證書ノ帳簿有ラサル時ハ死去ノ時刻ハ他ノ證書又ハ證人ヲ以テ證セラル可シ(第四十六條參觀)

(二十號) 失踪ノ公告ハ失踪者ノ相續ヲ開始セス其失踪者ノ親戚ノ者ニシテ其失踪ノ時又ハ其最後ノ通信ヲ得タル時推測相續人タル者アフサシス エリチエ、ブレソ、ンゾチフ

ハ失踪者ノ財産ヲ保有スルノ許可ヲ得ルト雖モ是レ唯暫時ノ事タルニ過キス其後若シ失踪者ノ眞實ノ死去ノ時ヲ知り得ル時ニハ此時刻ヲ以テ財産ノ移轉ヲ規定スルノ標準ト爲サ、ル可カラス○然レモ若シ失踪者ノ死去ニ確證有ラサル時ニハ失踪ノ公告ハ即チ相續開始ノ原因トナル可シ蓋シ法律上失踪者ハ其失踪シタル日又ハ最後ノ通信受領ノ日ニ死去シタル者ト推測スレハナリ(第一帙三百九十六號及四百二號參觀)

自第七百二十條至第七百二十二條 (二十一號) 若シ互ニ相續ス可キ二個人同一ノ事變ニテ死去スル時ハ其死去ノ時ヲ確定スルハ甚タ緊要ナリトス何トナレハ其二人ノ内後死者ニ相續シ先死者ノ財産ヲ自己ノ財産ニ合併シテ其自己ノ相續人ニ移轉スルカ故ナリ

余例シテ之ヲ説明センニ茲ニ甲乙ノ兄弟アリ俱ニ妻アリテ未タ子

相續開始



無ク且ツ他ニ自己ノ相續人ト爲ス可キ親戚無シ而シテ甲乙ノ二人不幸ニシテ俱ニ火災ニ罹リ燒死シタル時甲先ニ死シタリトセハ乙ノ妻其夫ニ相續シ其夫ニ相續スルカ故ニ甲ニモ亦相續ス今又乙先ニ死シタリトセハ甲ノ妻ハ其夫ニ相續シ其夫ニ相續スルヲ以テ乙ニモ亦相續ス

吾人ハ之ヲ規定スルヲ甚タ困難ナリト臆測セルニ法律ハ同死者ノ年齢及ヒ男女ノ別ニ基キ推測ヲ立テ此困難ヲ裁決シタリ但シ裁判官ハ他ノ證據ヲ缺クノ時ニ非サレハ此推測ヲ準據トス可カラズ他ノ證據トハ

- 第一、實物検査
- 第二、事變ヲ詳知スル證人
- 第三、事變ノ前後ノ景狀又ハ同伴シタル景狀

第一 實物検査 ○警へハ醫師ハ身體ヲ檢シ負傷ヲ察シ以テ其同死者ノ孰レヲ以テ先死セシヤヲ知ルヲ得可シ

第二 人證 ○何人タリモ事變ヲ實見シ又同死者ノ一人ハ尙ホ生存スル時其他ノ一人ハ既ニ死去シタルヲ目撃シタル者ヲ證人トス

第三 事實ノ景狀 ○抑事實ノ景狀ハ之ヲ自然ノ理ニ推究シテ以テ事ノ眞實ヲ發見スルヲ得可シ警へハ一家數人夜間ニ謀殺セラレタル時ニハ我カ古法ニ於テハ幼童ハ後レテ死シタル者ト決シタリキ何トナレハ謀殺人ハ抗爭發聲ヲ憚ルカ故ニ必ス初發ニ家族ノ主長ヲ擊殺シ幼童ヲ後ニシタリト推測スルカ故ナリ又二名ノ兵士カ同一ノ戰場ニ戰死シタルニ其一人ハ前衛タリ他ノ一人ハ後衛タリシ事ノ明白ナル時ハ後衛ニアリシ者ノ前衛ニアリシ者ヨリモ後ニ死シタル事ヲ推測スルヲ得可シ



〔二十二號〕右ノ證明方法ノ全ク無キ時ニ限リ。裁判官ハ法律上ノ推測ヲ用フルヲ得可ク又之ヲ用ヒサル可カラサルナリ

人類ノ性命ヲ別テ三期トス即チ左ノ如シ

第一期ハ生誕ニ始マツテ滿十五歳ニ終ル之ヲ軟弱ノ期トス此期ニ於テハ勢力ハ日々増加スルカ故ニ最モ長シタル者最モ強シ此ヲ以テ法律ハ同死者ノ中最モ長シタル者ハ其死ニ至ラシメタル災害ニ最モ久シク堪タルナル可シト決定ス

第二期ハ滿十五歳ニ始マリ滿六十歳ニ終ル此期ニ於ハ年齢ノ差異ハ勢力ノ差異ヲ爲サス故ニ法律ハ第二期ノ同死ノ中孰レカ能ク最モ後マテ性命ヲ有ツヤノ問題ヲ判スルニハ自然ノ法ニ據ラサル可カラス蓋シ通例最モ老タル者ハ最モ若キ者ヨリモ早ク死スルヲ以テ最モ若キ者ハ最モ後マテ生活シタリト看做ス可シ○然レモ男子

ハ之ヲ女子ニ比スレハ年齢ノ大差有ラサル時ハ體力及ヒ精神ニ於テ最モ強キ者ナルヲ以テ法律ハ同死者ノ中同年齡又ハ一箇年ノ差異ノ者アル時ニハ男子ヲ以テ最モ長ク害ニ堪ユル者ト決定スルカ故ニ男子ハ最後マテ生存スル者ト推測ス○法律ハ同死者ノ齡誰モ十五歳以下或ハ六十歳以上ナル時ハ男女ノ差異ヲ論セス

第三期ハ滿六十歳ニ始マル此期ニ於テハ人ノ勢力増加セス日テ日衰弱スル者ナレハ法律ハ最モ若キ者ハ最モ強キ者ト決定ス故ニ六十歳以上ノ同死者中最モ若キ者ハ最モ後マテ生存シタルナリト推測ス

〔二十三號〕爰ニ同死者中一人ハ十五歳以下ニシテ一人ハ六十歳以上ナル時ハ孰レカ最モ後マテ生存シタル者トスルカ童子ト老人トハ軟弱ノ景況ニ於テハ概シテ同一ノ者ナレハ法律ハ自然ノ順序ヲ以

相續開始



テ此問題ヲ判セリ故ニ最モ若キ者ハ最モ後マテ生存シタリト看做サル然レハトテ赤子ハ六十歳ノ老者ヨリ最モ久シク激浪又ハ火災ニ堪ヘタルナル可シト云フヲ得ス然ラハ則チ此推測ハ甚タ不當ナリト云ハサル可カラス

〔二十四號〕同死者中一人ハ十五歳以下他ノ一人ハ十五歳以上六十歳以下ナル時ハ之ヲ以テ如何ニ判ス可キカ法律上ニハ之ヲ掲ケスト雖モ或人ノ説ニ曰ク法律ノ精神ニ因レハ十分ノ勢力アル者ハ軟弱ナル者ヨリ最モ後マテ生存シタル者ト判セサル可カラス夫レ同死者中何レモ皆ナ軟弱ノ景狀ナル十五歳以下或ハ六十歳以上ノ者ナル時ハ最モ勢力アル者ハ最モ後マテ生存スル者ト推測セサル可カラス况ヤ本例ノ如キ一人ハ十分ノ勢力ヲ有シ尙ホ他ノ一人ハ軟弱ノ景狀アルヲ以テ如何ソ斯クノ如ク判セサルヲ得ンヤ

〔二十五號〕同死者中一人ハ十五歳以上六十歳以下他ノ一人ハ六十歳以上ナル時ハ孰レカ最モ後マテ生存シタリシカ法律モ亦此點ニ於テハ黙セリ然レハ或人ノ説ニ第一ノ者ハ第二ノ者ヨリ最モ若ク且ツ強キカ故ニ最モ後マテ生存シタリト推測ス可キハ敢テ疑フ可キニ非ス

〔二十六號〕若シ同死者孿子フタゴナル時ハ死亡ノ前後ハ如何ニ決ス可キカ曰ク孿子中長小ノ順序ヲ定ムルハ懐胎ノ時ヲ以テセスシテ生誕ノ時ヲ以テ之ヲ定ム故ニ最初ニ生ル、者ヲ以テ即チ長子トナスナリ此ヲ以テ孿子者人生ノ第一期中ニ同死スル時ハ最長者ヲ以テ後存者トス而シテ其第二期又ハ第三期中ニ同死スル時ハ最小者ヲ以テ後存者トス

然レハ出產證書中ニ何レカ最初ニ生誕シタルヤヲ言ハス且ツ其他



ノ證據有ラサル時ハ如何ニ決ス可キカ曰ク先ツ學生同死者ノ中一人ハ勇猛ノ性ニシテ他ノ一人ハ柔弱ノ質ナルカ又ハ學子俱ニ死テ受ルノ害ニ相遇シ多少ノ時間抗爭セサルヲ得サリシコノ證アル時ハ是等ノ景狀ヲ裁判官ノ參考ニ供ス可シト雖モ裁判官ノ遵奉ス可キ法律上ノ推測ト爲スヲ得ス唯、裁判官ノ見込ニ放任スル單一ナル事實ノ推測ト爲スヲ得可シ若シ學子中皆ナ同一ノ勢力ヲ有スルカ或ハ其死去ノ速ニシテ抗爭ノ間無ク恰モ雷火ニ因テ一時ニ死シタルカ如クナル時ハ後存者ノ疑問ハ景狀或ハ法律ノ推測ニ據リ之ヲ解答ス可キニ非サルカ故ニ學子俱ニ同時ニ死去セシ者ト看做ス可シ然ル時ハ學子中後存スル者無ケレハ固ヨリ相續ノ間ナシ然ラハ則チ學子ノ相續ハ兄弟有ラサル時ノ相續ノ如ク規定ス可シ例之ハ現ニ二十二號ニ記スル例ヲ以テ之ヲ説明センニ爰ニ同死シタル兄

弟ノ寡婦アリ各自其夫ニ相續センニハ甲ノ寡婦ハ乙ノ相續ヲ爲サント主張スルヲ得ス乙ノ寡婦亦甲ノ相續ヲ爲サント云フヲ得ス何トナレハ此二人ノ者何レモ自己ノ夫ハ後存シタルヲ證言スルヲ得サレハナリ是レ唯、通常法ノ適用ニ過キス例之ハ甲乙丙ノ三人アリ若シ甲カ乙ノ相續者ヲラハ乙ノ丙ヨリ得可キ相續ヲ合セ甲ヨリ之ヲ得ント要求スレトモ固ヨリ甲カ求ムル所ノ丙ノ遺留財產マテヲ得ントスルニハ其丙ノ相續ヲ開始シタル時ニ乙ハ尙ホ生存シタルヲ證セサル可カラズ此證據無キ時ハ甲ノ要求ハ受理ス可カラサル者トス(第百三十五條參觀)

(二十七號) 前ニ説明シタル法律上ノ推測ハ遺囑相續ニモ適用ス可キカ例之ハ乙アリテ甲ノ不特定財産ノ受遺囑者トナリ又甲ハ乙ノ不特定財産ノ受遺囑者トナリ二人互ニ相續ス可キノ位置ニ在リテ若



シ二人同事變ニ死シタル時ニ後存者ハ誰タルヤノ疑問ハ事實ノ推測無キ時ニハ第七百二十一條及ヒ第七百二十二條ノ兩條ニ定ムル所ノ推測ヲ以テ之ヲ判斷シ得可キカ曰ク其然ラサルコトハ今日一般ノ定論タリ抑、此推測ハ無遺囑相續ニ用フ可キ者ニシテ且ツ推測ノ事ニ於テハ必ス比附援引ヲ以テ推理ス可カラズ此ヲ以テ法律上ニ定ムル證明法ハ制限シタルノ法ナレハ法律ノ特別ニ之ヲ設ケタル事件ニ非サレハ他ニ適用ス可カラズ(第千三百五十條)今本例ニ於テ第七百三十一條及ヒ第七百二十二條ノ推測ヲ適用セントスルハ比附援引ノ甚シキ者ナリ抑、遺囑相續ハ死シタル受遺囑者ノ家族ヲシテ其相續ヲ冀望スルヲ得セシメス是レ遺囑相續ヲ遇スルノ惡キニ非スヤ此故ニ事實ノ景狀ヲ以テ二人ノ遺囑者中何レカ後存シタルヤヲ證スルヲ得サル場合ニ在テハ立法官ハ第三百三十五條ニ記載ス

ル一般ノ原則ヲ以テ遺囑財産ノ移轉ヲ定ムルノ意ナルヲ見ル可シ蓋シ二人俱ニ同時ニ死去シタリト看做シ其同死者中ニ後存シタル者無キカ故ニ同死者中何人モ他ニ相續セズ此二人ノ爲シタル遺囑ハ破解トナリ其人ノ財産ハ其親戚ノ者ニ移轉ス可シ

(二十八號) 前記ノ法律上ノ推測ハ尙ホ同死者ノ互ニ相續セサル時ニモ適用ス可キカ曰ク第七百二十一條ハ互ニ相續スルノ場合ヲ規定セリ故ニ本例ニ於テハ適用ス可カラサル者ノ如シ例之ハ爰ニ甲乙丙三人ノ從弟アリ甲ハ既ニ數子ヲ有シ乙ハ其從弟ヨリ他ニ近親ノ親戚ヲ有ス故ニ甲乙ハ互ニ相續ス可キニ非ス何トナレハ若シ甲先ニ死スル時ニハ其子之カ相續人トナリ而シテ若シ乙ノ死スルニ當テ甲生存スル時ニハ乙ノ財産ノ半ヲ相續スルヲ得可シ○抑、甲乙同一ノ事變ニ死スル時ハ後存者ノ誰タルヤノ問題ハ法律上ノ推測ヲ以



テ之ヲ決スルハ一般ノ通則ナリ然レモ余ヲ以テ之ヲ察スルニ前文ノ例ノ如キハ法律上ノ推測ニ據リ之ヲ決スルヲ得可カラサルカ如シ何トナレハ法律上ノ推測ハ比附援引ヲ許ス可カラサル者ナレハ法章上揭示セサル事項ハ必ス推測ヲ用ヒスシテ通常ノ法律ヲ適施セサル可カラス果シテ然ラハ通常法ニ因リ甲ノ兒子ハ甲カ乙ヨリ後存シタルノ證據アルニ非サル以上ハ乙ニ相續スルヲ得ス(第三百十五條參觀)故ニ本例ニ於テハ甲ノ後存ニ證明無キヲ以テ乙ノ相續ハ甲ハ生存セサリシ者ト看做シテ規定シ其相續ハ甲ノ兒子ニ屬セスシテ特別ニ丙ニ屬ス可キ者トス可シ

(二十九號) 今末節ニ及ンテ法律上ノ推測ハ尙ホ同死者カ同一ノ事變ニ死去セスシテ同一ノ日ニ死去シタル場合ニモ適用ス可キカト疑問スル者有ル可シト雖モ余ノ定説ハ變セサルヲ以テ本例ハ第七百

二十一條ニ揭示スル特別ノ場合外ノ者ナレハ法律上ノ推測ハ茲ニ適用ス可カラスト云ハシ且又本例ト法律ノ揭示スル例トハ少シモ類似ノ點アラス實ニ同死者ノ間ニ年齢ノ差異男女ノ異性又ハ一人ハ他ヨリ最モ強壯ナルヤ又或ハ其抗爭シタル災害ハ同一ナリシヤニハ決シテ拘ハラサルナリ

此論説ハ一般ニ人ノ許ス所タリト雖モ說者ハ他ノ推測ヲ設ケテ之カ説明ヲ爲セリ其說ニ曰ク總テ證據ノ無キ時ニ於テハ死去ノ自然ノ順序ニ隨ハサル可カラス之ヲ以テ同死者中ノ最小者ハ後存シタリト看做ス可シト此說ノ根理トシテ共和第四年野月二十日ノ法律ヲ引證セリ抑、此法律ハ同日ニ刑死セラレタル人ノ間ニ其前後ノ明白ナル調書無キ時又ハ後存ノ誰タルヲ知ルノ方法無キ時ハ最小者後死シタリト看做ス可シト決定セシ者ナリ



余ヲ以テ之ヲ見ルニ此論說ハ至當ニ非サルカ如シ此說ハ法律中ニ在ラサルノ推測ヲ創造セル野月ノ法律ヨリ引出シタル比附援引ノ論理ナレハ明說ニ非ス例之ハ爰ニ二個ノ人アリ同日ニ刑死セララルニ其内ノ一人ハ初發ニ斬首セラレ他ノ一人ハ多少後存スルヲハ明カナリ果シテ然ラハ此二人ノ者ハ同時ニ死去シテ其相續ハ同時ニ開發スト云フヲ得サルニ非スヤ野月ノ法律ハ眞理外ニ一箇ノ假說ヲ設ケタル者ト謂フ可シ余輩ノ論スル所ノ例ニ於テハ之ニ反シテ二箇ノ相續ノ同時ニ開發シ同死者互ニ相續セサルヲ有ルノ場合ナリ

〔三十號〕 畧言スルニ事實ノ景狀ノ據テ證トス可キ者ナク又法律ノ推測訴訟ニ適用ス可カラサルノ故ヲ以テ後存ノ誰レタルヤノ問題ヲ決スル能ハサル時ニハ同死者ハ同時ニ死去スル者ト看做ス可シ故ニ各自ノ相續ハ共同死者無クシテ恰モ獨死者ニ等シク規定ス可シ

○第二節 無遺囑相續人數種ノ階級

第七百二十三條(三十一號) 無遺囑相續人ニ正當ト例外ノ別アリ

第七百二十三條ニ曰ク法律ハ正當相續人ノ相續ス可キ順序ヲ定ム其相續人無キ時ハ財產ハ私生子ニ轉シ私生子無キ時ハ後存ノ配耦者ニ轉ス若シ後存ノ配耦者無キ時ハ國ニ轉スト

此法則ニ二箇ノ不正確ナル所アリ即チ左ノ如シ

第一 若シ配耦者及ヒ國ハ親戚ノ者無キニ非サレハ相續セスト云フヲハ眞ナリト雖モ私生ノ子ニ至テハ然ラス私生ノ子ハ死者ノ正當ノ子ト俱ニ相續スルヲアリ(第七百五十七條參觀)

第二 法律ノ茲ニ記スル例外相續人ノ目次ハ未タ完全ナラス蓋シ例外相續人ハ三人ニ限ルニ非ス五名アルヲアリ即チ父又ハ母ニ相續スル私生子(第七百五十七條參觀)私生子ニ相續スル其父母(第七百



六十五條參觀互ニ相續スル私生ノ兄弟及ヒ姉妹(第七百六十六條參觀配耦者及ヒ國是ナリ)

(三十二號) 正當相續人ト例外相續人トナ三箇ノ異點ニ分別スルヲ要ス即チ左ノ如シ

第一 正當相續人ハ死者ノ身分ヲ繼續スルカ故ニ死者ノ負債ヲ自己ノ負債ノ如ク擔當セサル可カラス且又正當相續人ハ相續開始後ノ費用例之ハ葬式封印及ヒ目錄費等ヲ拂ハサル可カラス第七百二十四條ニ總テ相續ノ費用ヲ擔當セサル可カラストアルハ之ヲ云フナリ○例外相續人ハ財産ヲ相續シテ死者ノ身分ヲ繼續セスト雖モ死者ノ負債ヲ拂ハサル可カラス何トナレハ例外相續人ハ財産ノ全部ヲ保有シ而シテ其財産ノ全部ハ死者ノ負債ノ全部ヲ負擔スルヲ以テ原則ナリトスレハナリ此故ニ不真正ノ相續人ハ其受取ル所ノ

財産ノ限界ニ於テ負債ヲ擔當スル而已

第二 正當相續人ハ死者ノ遺留シタル財産ヲ拋棄シテ債主ノ訴ヲ免カル、ヲ得ス何トナレハ死者ハ自カラ其財産ヲ拋棄シ債主ノ訴ヲ避クルヲ得サルヲ以テナリ正當相續人ハ自己ノ一身ノ義務ノ如ク死者ノ財産ヲ負擔ス可ク此名義ニテ義務ヲ負擔スル相續人ハ財産ノ如何ナル種類ヲ問ハズ總テ其財産ヲ以テ其義務ヲ行ハサル可カラス(第二千九十二條參觀)○例外相續人ハ之ニ反シテ財産ヲ債主ニ拋棄シテ其訴ヲ免カル、ノ權利ヲ有ス蓋シ例外相續人ハ死者ノ身分ヲ繼續セサルカ故ニ其義務ヲ負擔スルハ自己ニ負擔スル義務ノ如クナラス此負債ヲ負擔スルハ死者ノ負債アル財産ヲ保有スルカ故ナリ且ツ物品ヲ保有スルノ故ヲ以テ義務ヲ負擔スルトセハ此物品ヲ債主ニ拋棄シテ其訴ヲ免カル、ヲ得ルハ一般ノ原則ナリ(第



二千百七十二條參觀

但シ右ノ區別ハ必要ナルニ非ス。目錄ニ據テ相續ヲ領承シタル正當相續人ハ財産ノ限界ニ於テ負債ヲ擔當スルノミニシテ死者ノ遺留シタル財産ヲ拋棄シテ債主ノ訴ヲ免カル、ヲ得可シ(第八百二條參觀)

第三 正當相續人ハ掌握ノ權ヲ有シ。例外相續人ハ之ヲ有セス(三十六號參觀)

○第三節 掌握

第七百二十四(三十三號)

掌握トハ死者ノ權利義務ヲ其死去ノ即時相續人ニ移轉セシムル法則ヲ謂フ。而シテ其相續人ハ意志ヲ述フルヲ待タス。其知ラサルニ死者ヨリ自然ニ之ヲ獲得ス可シ之ヲ一言スルニ死者ノ權利義務カ法律上ヨリ死去ノ即時ニ相續人ニ移轉スル者ナリ。

(第三十四號) 第一 正當相續人ノ掌握ノ事

法律上ノ相續人ハ假令ヒ相續ノ開始スルヲ知ラスト雖モ相續開始ヨリ遺物ヲ獲得ス。第七百二十四條ニ相續人ハ自然ニ遺物ヲ掌握スルト是ナリ。即チ左ノ格言ヲ記シタル者ナリ。曰ク死者ハ最近親ナル親戚ノ身分ヲ以テ相續スル者ニ財産ヲ保有セシムルト看做ス云々是ナリ。

然レモ掌握ハ確定ナルニ非サルヲ以テ相續ヲ拋棄スルコトニ因リ之ヲ破壊スルヲ得可シ。是レ余ノ古法ノ格言ナル。何人モ冀望無キ者ハ相續人タラスト云フノ語ヲ適用スルニ過キス(第七百八十五條參觀)故ニ相續人ハ遺物者ノ死去ノ即時ニ財産ヲ掌握スルモ確定ナルニ非ス之ヲ再言スレハ相續人ハ其知ラサルニ遺留財産ヲ得ルト雖モ其冀望有ラサル時ハ財産ヲ受ルニ及ハス(二百三號以下承諾ノ論理參

掌握



觀故ニ相續ヲ開始スレハ相續人ハ

第一 死者ハ物品ノ所有者トナリ

第二 其保有者トナリ

第三 債主トナリ

第四 負債主トナルナリ

但シ其物品ハ死者ノ存在中之ヲ所有シ或ハ保有シ又其權利義務ニ屬シタル者ナリ蓋シ相續人ハ死者ノ權利義務ヲ掌握スルノミナラス又第七百二十四條ニ明言スル如ク是等ノ權利義務ニ附テノ出訴、被訴ト雖モ之ヲ擔當セサル可カラズ故ヲ以テ掌握ノコトハ死去ノ即時ニ完全スル者トス  
相續人ハ自然死者ノ權利義務ヲ掌握スルノ原則ヨリ左ノ結果ヲ生ス

第一 相續人ハ幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ルノ者タリト雖モ遺留財産ヲ得可シ

第二 假令ヒ相續人ハ死者ヨリ僅少ノ時間後存スルト雖モ其掌握シタル財産ヲ自己ノ財産ニ混同シテ之ヲ又相續人ニ移轉スルヲ得可シ

相續人ハ自然ニ權利義務ニ就テノ出訴、被訴ヲ擔當スルノ原則ヨリ左ノ結果ヲ生ス即チ相續開始ノ時ヨリ相續人ハ死者ノ債主又ハ遺留財産ヲ保有スル者ニ對シテ訴ヲ爲シ或ハ死者ノ債主ヨリ訴訟ヲ受ルコト有ル可シ而シテ是等ノ訴訟ノ手續ハ死者ノ猶ホ生存スル時ノ如ク爲スヘシ

〔三十五號〕 抑、掌握ノ効能ノ最モ顯著ナルハ特ニ占有權ニ關スル時ニ在リ往昔羅馬ノ法律ニ據ルニ占有權ヲ得ントスルニハ自己ノ爲メ

掌握



ニ物品ヲ有スルノ意アツテ物品ヲ把握スルヲ要セリ余ノ民法第二千二百二十八條ニモ亦此意ヲ記セリト雖モ相續ノ占有權ニ於テハ右ニ反對シ相續人ハ財產ヲ把握セス又其知ラサルニ於テ死者ノ財產ヲ保有ス此ヲ以テ相續人ハ財產ヲ握有セスシテ之ヲ保有シ財產ヲ保有スルノ意ヲ現ハサスシテ之ヲ保有スルカ故ニ下ノ二箇ノ緊要ナル結果ヲ生ス

例之ハ死者ハ二十九年以來不動産ヲ保有シタリシニ其相續人ハ相續開始後一箇年ヲ經過スルニ非サレハ遺物ヲ把握セスト想像センニ是レ實際ニ在テハ相續人ハ一箇年間物品ヲ保有セス且ツ相續開始ヲ知ラス又物品ヲ保有スルノ意無シト雖モ相續人ハ一箇年中物品ヲ保有シタリト看做サル此故ニ三十年間ノ時効有ルヲ妨害セサレハ其時期ニ達スレハ時効ノ利益ヲ得可シ之ヲ以テ第一ノ結果トス

又死者ハ六箇月以來不動産ヲ保有スルニ其相續人ハ相續開始後六箇月ヲ經過スルニ非サレハ遺物ヲ把握セスト想像センニ是レ實際ニ於テハ相續人ハ未タ此六箇月間保有セサルナリ然レ此時間中ハ保有ヲナシタル者ト看做サル故ニ其相續人ノ保有ハ既ニ一箇年ヲ經過スルヲ以テ相續人ハ少クモ一箇年以上ヲ保有スルノ後ヲ爲ス可キ占有權ノ訴訟ヲ爲スノ權利アリトス(訴訟法第二十三條參觀) (三十六號) 第貳 例外相續人ノ掌握ノ事

例外相續人ハ尙ホ正當相續人ノ如ク死者ノ權利及ヒ義務ヲ自己ノ知ラサルニ自然ニ掌握ス故ニ例外相續人ハ相續開始ノ時ヨリ假令ヒ其相續開始ヲ知ラスト雖モ

- 第一 遺物ハ所有者トナリ
- 第二 其占有者トナリ

掌握



第三 其債主トナリ  
第四 其負債主トナル

但シ其遺物ハ死者ノ存在中之ヲ所有シ或ハ保有シ又ハ其債主、負債主ニ屬セシ者ナリ

之ニ因テ例外相続人ハ

第一 幼者又ハ治産ノ禁ヲ受タル者ト雖モ遺留財産ヲ得可シ

第二 例外相続人ハ死者ヨリ僅少ノ時間後存スルト雖モ其死者ヨリ掌握シタル財産ヲ自己ノ財産ニ混同シテ之ヲ又相続人ニ移轉スルヲ得可シ

然レモ例外相続人ハ自然ニ死者ノ權利、義務ニ附テノ出訴、被訴ヲ擔任セス蓋シ例外相続人ニ附テハ是等ノ訴訟ノ擔任ハ總テ裁判上ノ事タリ即チ此擔任ノ事ヲ裁判所へ請求シテ裁判官ニ其擔任ノ命ヲ

乞ハサル可カラス此ヲ以テ例外相続人ハ其擔任ノ許可ヲ得サル以上ハ死者ノ義務者ニ對シテ出訴ヲ爲スヲ得ス又死者ノ債主ヨリモ被訴ヲ受ケサルヲ以テ法トス

此故ニ正當相続人ハ自然ニ相続開始ノ時ヨリシテ左ノ件ヲ擔任ス

第一 死者ハ權利、義務

第二 死者ハ權利、義務ニ附テノ出訴、被訴

然ルニ例外相続人ハ自然ニ死者ノ權利、義務ヲ擔任スルモ其權利、義務ノ出訴、被訴ニ至テハ司法官ノ命アルニ非サレハ之ヲ負擔セス又正當相続人ノ掌握ハ全ク法律上ノ掌握ナリ例外相続人ノ掌握ハ死者ノ權利、義務ニ關シテハ法律上ノ者タリト雖モ其權利、義務ノ出訴、被訴ニ於テハ裁判上ノ者トス

〔三十七號〕 掌握ノ事ニ於テ他ノ一説アリ

掌握



或ル一二ノ論者ノ説ニ曰ク第七百二十四條ニ記載スル掌握ハ即チ  
 例外相續人ノ有セサル者ニシテ正當相續人ノ有スル掌握ハ唯、占有  
 權ニ關スルノミト云々而シテ其掌握ヲ解釋スルニ曰ク掌握トハ相  
 續人カ遺物ヲ把握スルノ前ヨリ保有シタリト看做ス法律上ノ想像  
 ヲ云フ或ハ又曰ク掌握トハ法律上ヨリ保有及ヒ其便益ヲ相續人ニ  
 把握ノ前ニ付與スルヲ云フト例之ハ保有ハ一箇保有ノ權利ニ非ス  
 シテ唯一箇保有ノ所爲ニ過キス且ツ其保有ヲ得ントスルニハ其保  
 有ヲ冀望スルノ意ヲ表スルヲ以テ必要ナリトスト雖モ正當相續人  
 ハ然ラス總テ把握ヲ待タスシテ其知ラサルニ自然ニ保有ヲ得ルニ  
 非スヤ此ノ如クナルカ故ニ三十五號ニ記載スル結果ヲ生スルナリ」  
 例外相續人ハ相續開始ノ日ヨリ其占有ヲ爲スノ日迄死者ノ存在中  
 得タル占有カ停止セラル、故ニ時効ト保有ノ訴訟トノ便益ヲ得サ

ル者トス

以上論者ノ説ニ於テハ正當及ヒ例外相續人ハ相續開始ノ時ヨリ自  
 然ニ死者ノ存在中ニ所有シタリシ物品ノ所有者トナリ或ハ其權利  
 義務ニ屬スル物品ノ權利者、義務者トナルカ故ニ第七百二十四條ハ  
 右ノ權利、義務ニ關セスト爲ス而シテ此條ハ保有ノ事ニ關スル者ト  
 爲シテ正當相續人ハ自然ニ死者ノ遺留スル物品ノ保有ヲ得ルト雖  
 モ例外相續人ハ裁判上ノ命アルニ非サレハ占有者タルヲ得サル者  
 トス

〔三十八號〕 以上論者ノ説ヲ排駁スルニハ其奇變ノ結果ヲ揭示スルヲ  
 以テ十分ナリトス抑、如何ナル目的、如何ナル利益アツテカ死者ノ利  
 益トナル可キ時効ヲ停止スルカ且又例外相續人ハ遺物ヲ保有セス  
 トスルモ遺物ハ例外相續人ヲ占有者トナシ之ニ依ルトセサルカ



余ハ言ハントス此論說ハ第七百二十四條ニ反對セリト蓋シ本條ハ唯、占有權掌握ノ事ニノミ關スルニ非スト雖モ總テ一般ニ權利訴訟ノ掌握ノヲ云ヘリ尤モ本條ニハ例外相續人ノ相續ノ時ハ裁判所ノ許可ヲ得サル可カラストアルト雖モ此句ハ例外相續人カ裁判所ノ許可ヲ得タル日ニ非サレハ死者ニ屬スル占有權ノ移轉ヲ爲ス可カラスト云フノ意ニ非ス蓋シ例外相續人ハ自己ノ權力ヲ以テ遺留財產ヲ把握シ相續人中ノ首長トナツテ遺留財產ニ屬スル權利ヲ行フヲ得スト云フノ意ニ解セサル可カラス之ヲ一言スルニ例外相續人ハ裁判上ニテ遺留財產ニ權利アルヲ確定スルニ非サレハ己レ所有者ノ如ク動作ヲ爲スノ身分ヲ有セス且又例外相續人ハ所爲タルノ保有ヲ有セスシテ權利タルノ保有ヲ有スルハ猶ホ死者ノ所有權又ハ債主權ヲ獲得スルカコトシ然リ而シテ例外相續人ハ其獲得

シタル保有ノ權利ヲ行フニハ裁判上ニ相續人ノ身分有ルヲ證明スルヲ要スト雖モ所有權又ハ債主權ニ至テハ身分ノ明證ヲ要セサルニ非スヤ

〔三十九號〕吾輩論者ニ在テハ掌握ノ釋解ハ最モ簡易ナリ蓋シ正當相續人ハ相續開始ノ時ヨリ其獲得シタル權利ヲ行ヒ且ツ死者ノ債主ヨリ爲ス訴訟ヲ擔任スルヲ得可シ然レモ例外相續人ハ之ニ反シテ第七百七十條以下ニ準據シテ裁判所へ相續人タルノ身分ヲ明證スルニ非サレハ出訴又ハ被訴ヲ擔任スルヲ得ストス

○第二章 相續ヲ爲スニ必要ナル條件

〔四十號〕此章ニハ法律ハ遺物ヲ獲得シ又ハ獲得シタル遺物ヲ保存スルニ必要ナル條件ヲ記セリ抑遺物ヲ獲得スルニ必要ナル條件ナキ者ハ之ヲ無能力者トス又獲得シタル遺物ヲ保存スルニ必要ナル條件

相續ヲ爲スニ必要ナル條件



件ヲ缺ク時ハ相續ノ地位ヲ失スル者トス

○第一節 能力

第七百二十五(四十一號) 法律上無能力者ノ列ニ入ラサル者ハ總テ相續ヲ爲スニ能力アリ

其無能力者トハ左ノ如シ

第一 相續開始ノ時既ニ死去シタル者

第二 相續開始ノ時ニ未タ懐胎セサル兒

第三 相續開始ノ時ニ懐胎セシ者ト雖モ死胎ノ兒或ハ出産後生存

シ能ハサル兒

故ニ遺物ヲ收取スルニハ必シモ相續開始ノ時ニ出産スルヲ要セス  
唯、懐胎スルヲ以テ十分ナリトス然レモ此事ハ生産ノ兒又ハ出産後  
ニモ生存シ能フ者ニ非サレハ適用ス可カラサルナリ死シテ生レタ

ル兒ハ決シテ法律上ニ於テ生存シタル者トセス生産ノ兒ト雖モ出  
産後生存シ能ハサル者ハ亦法律上ノ生活ヲ有セサル者ト定ム  
兒子ノ肢體不具カ或ハ虛弱等ニテ到底二三時間又ハ二三日ノ外生  
活シ得可カラサルノ見認アル者ハ法律上僅少時間ノ生活ヲ算入セ  
サルカ故ニ生産ノ兒ニシテ出産後生活シ能ハサルノ兒ト爲ス  
兒子ノ生産スルヲ證スルニハ出産證書ヲ以テス可シ但シ出産證書  
ニハ生存ノ兒子ヲ公ノ官吏ノ面前ニ出シタルヲ記スルヲ要ス又  
ハ證書中右ノ要件ヲ記セサル時ニハ總テ分娩ノ時ニ出會シタル人  
ノ實驗ヲ以テス可シ蓋シ出産後生存シ能フ可キヤ否ヤノ證據ヲ爲  
スハ最モ難シトス是ハ常人ノ證明シ難キ事實ニシテ醫學上其術ニ  
巧ナル者能ク身體ヲ檢察シ之ヲ決スルヲ得可キノミ  
〔四十二號〕 然ラハ則チ如何シテ生産及ヒ出産後生存シ得可キ兒子カ



相續開始ノ時懐胎シタルヤヲ證明シ得可キカ何ノ驗何ノ景狀ヲ以テ之ヲ識認スルカ

蓋シ概スルニ婦人ノ懐妊ハ通例九箇月トスルヲ以テ凡ソ懐妊ノ時ヲ推知スルニハ出産ノ日ヨリ計算シテ九箇月ノ初日ニ在ルヲ了知スルヲ得ルト云フ説有レトモ其確乎タルノ證ヲ得ルニ由ナキニ注意ス可シ蓋シ此説ハ法律上ニ非サル想像ノ推測ナレハ事ノ眞實ニ違背スル者ヲ創造スルト謂フ可シ何トナレハ懐妊ハ往々九箇月ニ非サルヲ有レハナリ

然レモ嫡出ノ子ノ問題ニ關スル第三百十二條及ヒ第三百十五條ニ定ムル推測ヲ引出シテ死者ノ死去後三百日ノ内ニ出産シタルノヲ以テ相續開始前ニ懐妊シタルト爲シ得可カラサルカ抑、此問題ヲ決スルニハ推測ヲ許可シタル法律カ目的ノ結果ヲ以テ

セサル可カラス總テ此推測ハ事ノ眞實ニ反對スルヲ有リト雖モ法律ノ之ヲ許可シタルハ母ノ榮譽ヲ救ハシメメナレハナリ此ヲ以テ余ハ左ノ如ク決言セリ

第一 此推測ハ即チ子ノ嫡出ト相續トノ二箇ノ問題ニ關シテ母ノ榮譽ヲ害スルヲ憚カル時ニハ之ヲ引出スルヲ得可シ故ニ夫ノ死去後二百九十九日又ハ三百日ニ生ル、兒ハ相續開始前ニ懐胎スルト看做ス可シ何トナレハ兒ノ嫡出ト相續トノ二箇ノ問題ニ關スルヲ以テ其子カ父ニ相續セスト爲ス時ハ實ニ母ノ榮譽ヲ害スルヲ以テナリ

第二 母ノ榮譽ヲ害セス兒子ハ相續開發ノ時ニ懐胎セサリシト決スルヲ得ル時即チ兒子ノ嫡出ノ問題ニ關セサル時ハ此推測ヲ用フルヲ得ス



〔四十三號〕 然レモ第三百十二條及ヒ第三百十五條ノ推測ハ相續ノ問題ノ時ニ適用セラレ、ノ場合アリ其場合トハ兒子ノ父死去後死シタル親戚ノ者ノ相續ニ關スル場合ヲ云フナリ例之ハ甲カ一月一日ニ死去シ其兄弟乙モ亦一月十五日ニ死シタル時ハ甲ノ寡婦ハ一月一日ヨリ算シテ三百日ニ分娩ヲ爲シタレハ兒子ハ甲ノ嫡出ト看做ス可キカ故ニ(第三百十五條)此兒子ハ父甲ノ相續ヲ爲ス可シ然ラハ乙ノ相續モ同シク爲ス可キカ曰ク然リ何トナレハ若シ然リトセサルニ於テハ眞ニ不條理ナル左ノ結果ヲ生ス蓋シ兒子ハ一月一日ニ懐胎シタリト看做サル此ヲ以テ甲ノ嫡出ノ子タルノ身分ヲ得テ甲ノ相續ヲ爲スモ未タ一月十五日ニハ懐胎セスト看做サル、カ故ニ甲ノ兄弟ナル乙ノ相續ヲ爲ス可カラスト云フニ至ル

〔附言〕 バレト氏曰ク此例ニ於テハ母ノ榮譽ハ間接ニ論題トナル

ヲ以テ必ス榮譽ヲ保全ス可キ推測ヲ爰ニ適用セサル可カラ

〔四十四號〕 若シ兒子カ相續開始ノ時ニ既ニ懐胎セシヤ否ヤノ問題ヲ決スルニ第三百十二條及ヒ第三百十五條ヲ適用スルヲ得サル時ハ醫學家ニ依頼セサル可カラス是レ其出産後生存ス可キ兒子ナルヤ否ヤノ問題ト同シク醫學上ノ事項ナレハナリ

〔四十五號〕 或ル他ノ相續カ自己ノ利益ノ爲メニ開發シタリト述フル兒子ノ相續人ハ下ノ二事ヲ證明セサル可カラス

第一 兒子カ或ル他ノ相續開始ノ時ニ既ニ懐胎シタル事

第二 兒子カ生産シタリシ事(第三百三十五條、第三百三十六條)

然レモ兒子カ出産後生存シ得タル旨ヲ證スルニ及ハス蓋シ法律ハ天地自然ニ因テ最モ尋常ノ事實ヲ確定ナル者トスルカ故ニ生産シ



タル兒子ハ通常出産後生存シ得ル者トス出産後生存シ得カラサルコトハ事物ノ常體外ナレハ之ヲ引出シテ抗論セント欲スル者ハ其證據ヲ提供セサル可カラス此故ニ出産後生存シ能ハサルノ證據ナキ以上ハ生産ノ兒子ハ必ス出産後生存シ得可キ者トナシ相續ヲ爲スヲ得ル者トス

第七百二十六條(四十六號) 民法第七百二十六條ニハ民法第十一條ニ記スル法蘭西國

ト外國ト結約上ノ規則ヲ相續ニ適用シテ曰ク凡ソ外國人ハ其親戚ノ外國人又ハ佛蘭西人タルヲ問ハス其親戚ノ佛蘭西領地内ニ於テ所有スル財産ヲ相續スルハ佛蘭西人カ其親戚ノ外國領地内ニ於テ所有スル財産ヲ相續ス可キ場合ト方法トニ據ラサル可カラスト此相互條約ノ方法ハ相續贈與及ヒ遺囑ノ事ニ附テハ千八百十九年七月十四日ノ法律ニ據テ之ヲ廢セリ故ニ今日ニ在テハ凡テ外國人ハ

佛蘭西ニ於テ尙ホ佛蘭西人ノ如ク相續贈與又ハ遺囑ニ因テ財産ヲ獲得スルヲ得可シ即チ外國人ノ有スル能力ハ佛蘭西國ト他ノ外國政府トノ間ニ規定スル所ノ相互條約ニ據ラサル者トス蓋シ本條ヲ廢シタル新法ハ十分ノ能力ヲ外國人ニ付與スル者ナリ此新法則ノ目的タルヤ佛蘭西領地内へ貨幣ヲ招集スルノ目的ナリ其意ハ若シ外國人ノ佛蘭西ニ於テ有スル財産ヲ其相續人ニ移轉スルノ權利ヲ外國人ニ拒絶スル時ニハ外國人ハ自己ノ資本金ヲ佛蘭西ノ商工業ニ投セサルヲ以テナリ然レモ若シ外國人ノ親戚ナル佛蘭西人ハ外國ノ法律又ハ慣習ニ因リ其國ニ在ル財産ヲ相續シ得サル時ニハ如何ス可キカ外國人ノ親戚カ同シク外國人ニシテ佛蘭西地内ニ在ル財産ヲ其親戚佛蘭西人ト俱ニ相續人トナリテ之ヲ分派スト雖モ外國ニ在ル財産ハ凡テ外

能力



國人ノ親戚ノミ獨リ之ヲ有スルヲ得可キカ是レ其分派ノ不正ナル  
知ル可キナリ此ヲ以テ佛蘭西法律ハ自國人民ノ利益ヲ保護セサル  
可カラサルカ故ニ同等公正ヲ目的トナシ下ノ如ク規定セリ佛蘭西  
人カ外國人ト俱ニ佛蘭西ニ在ル財産ヲ相續スル時ニハ財産分派ノ  
前佛蘭西人カ外國ノ法律ニ因リ死者ノ外國ニ遺留シタル財産ノ分  
派ヲ得サリシ所ノ部分ニ等シキ者ヲ採有スルノ權利アリト定メタ  
ル是ナリ(千八百十九年七月十四日ノ法律第二條)

○第二節 相續ノ地位ヲ失フ事

〔四十七號〕 相續ノ地位ヲ失フトハ遺物掌握ヲ無効タラシメ既ニ獲得  
シタル相續ヲ除去セラル、ノ謂ヒナリ故ニ相續ノ身分ヲ失フトニ  
於テハ必ス能力者タラサル可カラス何トナレハ相續ノ地位ヲ失フ  
者ハ既ニ能力アリテ其獲得シタル相續ヲ失フトモ未ダ獲得セサル

者ヲ失フトヲ得サレハナリ即チ相續ノ地位ヲ失フ者ハ必ス能力者  
ノミナル所以ナリ

○第壹 相續ノ地位ヲ失フ原因

第七百二十七〔四十八號〕 右ノ原因ハ往昔ノ法律ニ在テハ甚タ許多ニシテ定數無カ

リシカ今日ニ在テハ其原因ニ限り有テ裁判官ハ如何様ノ口實有リ  
トモ法章上掲記スル外ニ相續ノ地位ヲ失フトヲ宣告スルヲ得ス  
左ニ記スル者ハ相續ノ地位ヲ失フ者トス

〔四十九條〕 第一 死者ヲ殺シ、又ハ之ヲ殺サント謀試シタルトニ附キ、  
刑ノ言渡ヲ受ケシ相續人主犯又ハ從犯ト問ハス

是ヲ以テ或ル理由ニ因リ死者ヲ殺シタル者カ刑ノ言渡ヲ受ケタル  
時ニハ相續ノ地位ヲ失ハサル者トス

〔附言〕 但シ對質裁判ト抗傳裁判トヲ問ハサルナリ然レモ抗傳裁



判ニ於テハ相續ノ地位ヲ失フヨリシテ相續人ノ列ヨリ除名セラル、コハ其裁判カ確定シタル時ニ非サレハ確定セサル者トス

故ニ若シ犯罪人カ刑ノ宣告ヲ受ル前ニ死去スル時ハ相續ノ地位ヲ失ハス且ツ其犯罪人ハ主任ノ裁判官カ大罪ヲ犯シタリト認メラル、時ト雖モ相續ノ地位ヲ失フコト無シ例之ハ其犯罪人カ陪審官ノ有罪ト宣告スル時ニ死罪ト訴ヘラル、者頓死スル時ノ場合即チ是ナリ此例ニ於テハ犯罪人ハ刑ノ宣告ヲ受ケス何トナレハ死體ニ對シテ刑ノ宣告ヲ爲スヲ得サレハナリ故ニ完全ノ權利ヲ有シテ死スル者トス

若シ犯罪人カ公訴ノ免責時効ヲ得テ刑ヲ宣告シ能ハサル場合ニハ相續ノ地位ヲ失フコト無シ然レモ犯罪人カ一旦刑ノ宣告ヲ受ケタル後チ刑ノ免責時効ヲ得ルカ又ハ恩典ヲ得テ刑ノ赦宥ヲ得ルト雖モ相續ノ地位ハ失フ者トス何トナレハ其相續ノ地位ヲ失フハ原來受刑ニ原因セスシテ其刑ノ宣告ニ原因スルカ故ナリ

若シ又相續人カ死者ヲ殺シ又ハ殺サント謀試シタル時瘋癲又ハ正當防禦又ハ十六歳以下ノ幼者ニシテ辨別心無キ者ハ相續ノ地位ヲ失ハス何トナレハ是等ノ場合ニ於テハ刑ノ宣告アラサルヲ以テナリ

五十號) 過殺ハ相續ノ地位ヲ失フ原因タラス抑、犯罪ノ相續人ハ必ス刑ノ宣告ヲ受ケサル可カラス何トナレハ過殺ハ重罪ニ非サルモ輕罪ノ刑ヲ受ケサル可カラサルカ故ナリ然レモ此宣告アルモ相續ノ地位ヲ失ハス蓋シ其地位ヲ失ハシムル必要ノ原素タル惡心無キヲ以テナリ

相續ノ地位ヲ失フ事



〔五十一號〕 故殺ノ相續人ハ宥恕アリト裁判セラレタルカ故ニ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時(刑法第三百二十一條以下參觀)相續ノ地位ヲ失フ可キカ曰ク其然ル可キハ一般ノ論說タリ或人ノ說ニ宥恕ハ犯罪ノ情狀ヲ滅却スルニ非スト蓋シ宥恕ハ重罪ノ刑ヲ減シテ輕罪ノ刑トナスト雖モ死者ヲ殺シ又ハ殺サント謀試シタル以上ハ刑ノ宣告ヲ受ケサル可カラス即チ是レ法律上ニ揭示セル相續ノ地位ヲ失フ原因タリ且又故殺ノ犯罪人ヲシテ平穩ニ死者ノ遺物ヲ收取セシムルハ甚タ禮義ニ背クニ非スヤ余又謂ハントス若シ之ヲシテ相續ノ身分ヲ失ハストスルハ甚タ危難ナリト何トナレハ許多ノ遺物有ルカ爲メニ往々相續人カ死者ニ向テ挑撥心ヲ起サシメ而シテ相續人ハ挑撥ヲ受ルニ乘シ憤怒ニ堪ヘズ終ニ死者ヲ故殺スルニ至ル等ノ故アルヲ以テナリ

〔五十二號〕 第二 死者ヲ最大ノ刑ニ處ス可キ誣陷ト裁判セラレハ公訴ヲナシタル相續人

〔公訴云々〕○此語ヲ解スルハ文字ニ拘泥ス可カラス蓋シ羅馬法ニ於テハ總テ平人ニテモ公訴ヲ爲シ且ツ自カラ重罪ノ犯罪人ヲ罰センカ爲メ起訴スルヲ得タリ然レモ佛蘭西法律ニ在テハ此權利ハ檢官ニノミ屬スルカ故ニ本條第七百二十一條ニ於テハ相續人ノ告訴又ハ告發ヲ爲スヲ云フナリ告發トハ即チ被告人ニ非スシテ他人ノ事實ヲ了知スル人ノ司法官ニ重罪アリト陳述スルヲ謂フ(治罪法第三十條)

〔最大ノ刑ニ處ス云々〕○司法ニ告訴セラレタル重罪人カ死刑無期ノ徒刑又ハ流刑ニ處セラル、ヲ謂フ

〔附言〕 往時ハ流刑無期徒刑ニハ準死ヲ附加シタリシカ故ニ最大

相續ノ地位ヲ失フ事



刑中之ヲ列シタリト雖モ準死ヲ廢シタルヨリ其列中ニ在ラス唯、死刑在ルノミ然レモ本條編纂ノ時ニ死刑、流刑、無期徒刑ヲ目的トナシタリシカ故ニ余ハ最大刑中此二刑ヲ加入ス

誣○陷○ト○裁○判○セ○ラ○ル○、云々○故ニ相續ノ地位ヲ失フニハ告訴ニ誣陷ノ實有ルノミヲ以テ足レリトセズ必ズ告訴シタル相續人カ誣告者ナリト刑ノ宣告ヲ受ケサル可カラズ此ヲ以テ若シ死者カ生存中ニ無罪ノ宣告ヲ受ケタル後チ相續人ニ對シ誣陷ノ刑ヲ乞フノ訴訟ヲ爲サ、ル時ニ相續人ハ相續ノ地位ヲ失ハサル者トス

五十三號 第三 死者ノ故殺サレタルヲ知テ其事ヲ裁判所ニ告ケサル丁年ノ相續人云々○死者ノ故殺セラレタルヲ知リタル丁年ノ相續人ハ裁判所ニ告ケサル可カラズ其告ルノ義務ヲ爲サ、ル時ハ相

續人ノ地位ヲ失フノ罰アリ而シテ法律ハ相續人カ故殺ノヲ知ルハ丁年ノ前後又ハ相續開始ノ前後ニ在ルヤ否ヤチ區別セサルナリ故ニ何レノ地位ト雖モ其事ヲ告ケサル時ハ相續ノ地位ヲ失フ者トス

死者ノ故殺セラレタル云々○故ニ相續人ハ故殺ノヲ告ルノ義務ノミ有テ故殺者ヲ告ルヲ要セズ法律ハ若干日間ニ之ヲ告ケサル可カラサルヤチ定メズ若シ相續人ハ死者ノ殺害ヲ意トセス而シテ之ヲ告ケサルノ懈怠ニ因テ罪有ルヲ酌量スルハ裁判官ノ任トス

第七百二十八條 五十四號 故殺者カ相續人ノ尊屬ノ親、卑屬ノ親、配偶者、兄弟、姊妹、伯叔父母、甥、姪ナル時ハ相續人カ故殺ヲ告發セサレハトテ相續ノ地位ヲ失ハス

相續ノ地位ヲ失フ事



又相續人ノ姻族ノ親タル尊屬又ハ卑屬ノ親カ故殺人タル時ハ上ニ同シ若シ故殺人カ相續人ノ姻族ノ親タル兄弟、姉妹、伯叔、父母、甥、姪ノ地位ナル時モ亦前ニ同シキカ抑、第七百二十八條ノ法章ノミチ考フルニ其然ラサルハ疑ヒ無シ何トナレハ同等級ノ譯書ニハ姻族ノ姻族ノ親ナル語ハ直ニ尊屬ノ親又ハ卑屬ノ親ノ語ノ次ニ在ルカ故ニ尊屬、卑屬ノ親ノミチ言テ同條ノ他ノ人ニ關セサルカ故ナリ然レモ本條記載ノ由來ニ因ルニ其然ラサルヤ明カナリ蓋シ本條編纂ノ際ニ記載スルニハ直系ノ姻族ノ親ト見ヘタリ此語ハ姻族ノ尊屬又ハ卑屬ノ親ノミチ云フカ故ニ血族ノ尊屬又ハ卑屬ノ語ノ次ニ置クヲ以テ正當トセリ其後チ立法院ノ說ニ曰ク此語ハ直系ノ姻族ノ親ノミチラス又傍系ノ姻族ノ親ヲ含蓄スト此ヲ以テ直系ノ姻族ノ親ナル語ハ同等ノ姻族ノ親ナル語ニ改訂セサル可カラス而シテ同等ノ姻族

ノ親ナル語ヲ本條血族ノ傍系ノ親ノ次ニ置サル可カラサルナリ此ヲ以テ之ヲ見レハ故殺人カ相續人ノ姻族ノ傍系ノ親タル地位ト雖モ相續人ハ相續スルノ地位ヲ失ハサルニ非スヤ蓋シ最初本條ノ編纂ノ時ニ記載シタル儘ニ存スレハ是ハ謄寫ノ誤謬ト謂フ可シ且又民法編纂者ニ於ケルモ誤謬無シト謂フ可カラス即チ同等ナル語ノ現時ノ地位ニ在テハ其意ヲ解スルヲ得ス若シ故殺者カ何レノ等級タルヲ問ハス相續人ノ尊屬又ハ卑屬ノ親タル時ニハ相續人ハ死者ノ故殺セラレタルヲ告ケサルトテ相續ノ地位ヲ失ハサルカ故ニ直系ノ姻族ノ親ノ等級ノ語ヲ記スルハ無益タルヤ明カナリ

〔五十五號〕 余カ上ニ論述スル所ノ例外ノ者ハ最モ公平良善ノ者トス蓋シ故殺人カ自己ノ最親ノ血族ノ親又ハ姻族ノ親ナルヲ知ルノ相續人ハ故殺ノヲチ默止スルハ公當ノ理ナリ法律モ亦其相續人ヲシ



テ故殺ヲ告訴セシメ以テ司法官ノ注意ヲ警醒シ而シテ其親戚タル一人ノ生命ヲ損シ家族ノ榮譽ヲ害セシムルヲ得ス然レモ法律上前陳ノ目的カ往々達セサルヲアリ何トナレハ若シ相續人ハ故殺ヲ知り之ヲ司法官へ直ニ告訴セサルヲノ訴訟ヲ受ケタル時相續人ノ利益ノ爲メニ設ケタル例外即チ故殺者ハ自己ノ尊屬又ハ卑屬ノ親、兄弟、姉妹タルヲチ表明スルニ非サレハ必ス其訴訟ハ不理タル可シ故ニ相續人ハ其相續ノ地位ヲ失フコトノ不幸ヲ免カレシカ爲メニ法庭ニ於テ自己ノ親戚ノ惡事ヲ公明告訴セサル可カラサルニ至ル是レ初メニ故殺ヲ告訴スルヨリ最モ惡キカ故ニ立法者ノ意見ハ完全ナラストス○蓋シ右ノ地位ニ於テ法律上ニ定ムル例外ノ有益タルヲチ知ランニハ讀者ハ須カラシ相續人カ相續ノ地位ヲ失フコトニ附テ他ヨリ訴ヘラル、時故殺者ハ既ニ罪ヲ宣告セラレ

又ハ司法官ノ手ニ拘留セラレタリト想像ス可シ然ル時ハ既ニ宣告拘留アツテ一家ノ榮譽ヲ毀損スルカ故ニ此ニ至テ相續人カ故殺ハ自己ノ親戚ニ在リト謂フモ別ニ家名ヲ損スルナシ

〔五十六號〕爰ニ自己ノ親戚ヲ害センコトヲ恐レ故殺ノコトヲ告訴セシメテ相續ノ地位ヲ失フノ旨ヲ宣告セラレタル相續人アリ其宣告後人アツテ故殺者ハ其相續人ノ尊屬ノ親タルヲチ發見セリ此際ニ臨ミ默止スルノ理由アルカ故ニ相續ノ地位ヲ失ヒタル宣告ヲ取消シ得可キカ曰ク然リ若シ其宣告カ未タ本人ニ達セサルカ或ハ達シ得ルモ控訴期限ノ未タ經過セサル時ニハ上等裁判所へ控訴シテ其宣告ヲ取消シ得可シト雖モ右ニ反對ノ地位ニ於テハ既ニ宣告ハ確定セルカ故ニ取消シ得可カラスト然ラハ若シ相續人ニ訴訟ヲ爲シ地位ヲ失ハシメタル人カ相續人ノ默止ニ正當ノ理由アルヲ知テ惡意



ノ訴訟ヲ爲シタルコトノ明證アル時其相續人ハ敬慎願書ヲ以テ其地位ヲ復シ得可カラサルカ曰ク其復シ得可キハ疑ヒ無シ何トナレハ相續人ニ對シテ爲シタル訴訟ニハ狡計アルニ因ル狡計ハ敬慎願書ヲ爲スノ第一原因タレハナリ(訴訟法第四百八十條參觀)

〔五十七號〕 假令ヒ死者カ相續ノ身分ヲ失フノ事實ヲ宥恕シタルノ證アリト雖モ其事實アル相續人ニ對シテ事實ヲ抗言スルヲ得可シ蓋シ法律上ヨリ相續ノ地位ヲ失ヒタル者カ死者ヨリ相續ヲ得ルノ權利ヲ得セシメサルコトハ公益上肝要ナルカ故ナリ

〔五十八號〕 相續ノ地位ヲ失フト失ハサルトノ原因ハ死者ノ意ニ拘ハル地位アリ即チ第七百二十七條第二項是ナリ蓋シ生存中無罪ト宣告サレタル死者カ告發シタル親戚ノ者ニ對シテ誣告ノ刑ヲ要求セサル時ニハ告發シタル其親戚ノ者ハ相續ノ地位ヲ失ハスト前ニ開

陳シタリ爰ニ死者ハ誣告ノ訴訟ヲ拋棄スルノ明瞭ナルカ又ハ誣告ノ訴訟ノ期限ヲ經過セシムルニ因リ無遺囑相續ノ地位ヲ失フコトヲ防止スルヲ得可シ然レモ若シ死者ハ告發者ヲ誣告ノ刑ニ處シタル時ハ死者ト雖モ無遺囑相續ノ地位ヲ失フコトヲ免除スルヲ得ス○且又何レノ地位ト雖モ死者ハ遺囑ヲ以テ財產ノ全部又ハ幾部ヲ無遺囑相續ヲ得可カラサル者ニ贈與スルハ自由ナリトス

○第貳 相續ノ地位ヲ失ハシムルノ權位ヲ有スル人

〔五十九號〕 此權位ヲ有スル者トハ相續ノ地位ヲ失ヒタル者カ遺留財產ヲ相續セサリシ時ハ既ニ其利益ヲ占有シ得可キ相續人ヲ謂フ即チ相續ノ地位ヲ失フ者カ除名セラル、ニ於テハ其同等ノ相續人ノ請取ル可キ部分カ増加スルノ利益ヲ有スル者ヲ云フ若シ此同等ノ相續人ナキ時ハ次ノ等級ノ相續人之ヲ占有ス可シ蓋シ相續ノ地位

相續ノ地位ヲ失フ事



ヲ失ヒタル者カ除名セラル、時ニハ此等ノ人ハ其人ノ地位ニ立テ相續スルヲ得ル者トス

若シ又死者存留ノ財産ノ不足ニシテ受贈、受遺囑者ノ贈囑ノ財産ヲ返還スルニ際シ其存留ノ財産ヲ受ル相續人カ相續ノ地位ヲ失ヒタル時ハ受贈者及ヒ受遺囑者ハ返還ス可キ財産ヲ減少セラル、コナク全ク之ヲ有スル爲メニ其人ヲ除名セシムルヲ得可シ

〔六十號〕 相續ノ身分ヲ失ハシムル訴訟權ハ其訴訟權ヲ有スル人ノ債主之ヲ爲スヲ得可カラサルカ曰ク其得可カラサルハ一般ノ意見ナリ抑、第一千百六十六條ニ據ルニ凡テ債主ハ債主ノ有スル諸權利ヲ行フヲ得ルト雖モ負債主一身ニ屬スル諸權利ハ例外ト爲セリ是ヲ以テ或人ノ說ニハ相續ノ地位ヲ失ハシムルノ訴訟ハ一身ニ屬スル者ナレハ債主敢テ之ヲ爲スヲ得ス且又無遺囑相續ノ地位ヲ失ハ

シムル訴訟權ヲ定ムルハ金銀上ノ利益ヲ目的トスルニ非ス一家設立ニ關スル權利及ヒ死者親戚ノ身上ニ關スル者ナレハナリ  
余ハ此說ニ感服セサルナリ抑、相續ノ地位ヲ失ハシムル訴訟カ一家ノ權利ニ關スルトセハ法律ハ死者真正ノ相續人ニノミ此權利ヲ行ハシメサル可カラズ然ルニ此訴訟權ハ凡テ相續ノ地位ヲ失フ者ノ除名セラル、ニ附キ直ニ利益ヲ有スル者又ハ受贈者及ヒ受遺囑者ニモ此權利ノ屬スルハ疑ヒ無シ且又無遺囑相續ノ地位ヲ失フ法ヲ制定シタル所以ハ相續人及ヒ死者ノ利益ヲ謀ルニ非ス蓋シ一箇ノ高尚ノ目的在テ道義ト公益トヲ保護セント欲スルニ在リ故ヲ以テ死者ヲシテ相續ノ地位ヲ失ヒタル者ヲ宥恕スルヲ許サ、ルカ如キ是ナリ此ヲ以テ相續ノ地位ヲ失ハシムル訴訟ヲ行フヲ制限シ以テ債主ヲシテ之ヲ行ハシメサルハ即チ法律ノ目的ニ背馳スル者ト



謂フ可シ蓋シ此訴訟權ヲ行ヒ罪人ヲ告訴シ得ルノ人員ヲ増加スルニ隨ヒ法律ノ目的モ亦能ク達スルヲ得可キ者トス

○第參 相續ノ地位ヲ失フ事ノ始マル時期

〔六十一號〕 爰ニ左ノ二箇ノ原則ヲ設置セサル可カラズ

第一 相續ノ地位ヲ失フコトヲ宣告セラル、ハ獨リ相續ヲ掌握スル者ニ在リト何トナレハ相續ノ地位ヲ失フトハ相續人中ヨリ除名セラレ其掌握ヲ取消ス者タレハナリ故ニ相續ノ地位ヲ失フハ即チ被害○死者○者ヲ○ノ生存中之○ヲ宣告スルヲ得サル者トス  
第二 相續ノ地位ヲ失ハシムルノ訴訟ハ生存スル相續人ニ對シテ之ヲ爲ス可シ何トナレハ死シタル相續人ニ對シテ之ヲ爲スヲ得ルトセハ治罪法ノ原則ニ違犯スレハナリ蓋シ相續ノ身分ヲ失フコトハ即チ刑罰ニシテ何レノ刑ヲ乞フノ公訴タルヲ問ハス犯罪人ノ死去

ニ因テ其公訴ハ消滅スル者トス(治罪法第二條參觀)是ヲ以テ被害人ノ相續人即チ犯罪人カ公訴セラル、前ニ死去スル時ハ相續ヲ失フ公訴ハ消滅ス而シテ相續人ハ決シテ相續ノ地位ヲ失フ者ニ非サルナリ

右ノ如クナルカ故ニ死者ヨリ後存スル有罪ノ親戚ニシテ尙ホ生存スル者ニ對スルニ非サレハ相續ノ身分ヲ失フコトノ訴ヲ爲ス可カラズ  
然ラハ其親戚ニ對シテ爲シタル訴訟ハ死去ニ因テ消滅スル者カ曰ク其然ラサルハ一般ノ通説ナリ即チ曰ク爰ニハ民事ノ刑ニ關セリ而シテ其既ニ始マリタル訴訟ハ其相續人ニ對シテ繼續スルヲ得可シ且ツ之カ本件ト類似スル地位ナル第九百五十七條ノ記スル説ナリ云々○余ノ説ハ然ラス凡テ刑事ノ訴訟ハ既ニ始マリタルト然ラ

相續ノ地位ヲ失フ事



サルトヲ問ハス又刑ノ性質ノ何タルヲ論セス犯人ノ死去ニ因テ消滅スル者トス余ハ第九百五十七條ヲ説クニ當リ詳細之ヲ論ス可シ

〔附言〕 ドモロンブ氏(二百七十九號)ノ説ニ據ルニ地位ヲ失フコノ訴訟ハ管ニ繼續シ得ルノミナラス相續ノ地位ヲ失フタル死者ノ相

續人ニ對シテモ亦初發ノ訴訟ヲ爲スヲ得可シトボービー及ヒヒユイロー兩氏モ亦同説ナリ〇是等ノ著者ハ相續ノ地位ヲ失フ原因

ハ所謂ル刑罰タル者ニ非スシテ唯民事上ノ權ヲ剝奪セラル、者ト思考ス是レ治罪法第二條ヲ引出スルヲ得サル所以ナリ而シテ

民法ノ第九百五十七條ヲ以テ却テ余ヲ抗擊スルノ理由トナセリ

〔六十二號〕

上ニ述ル所ニ據レハ死者ヲ殺シタルニ附キ死刑ノ宣告ヲ受ケタル相續人アル時ハ之ヲ相續人ノ員中ヨリ除去セント欲スル者ハ其訴訟ヲ爲スヲ急カサル可カラス何トナレハ若シ相續ノ地位

ヲ失フノ宣告ヲ得ルノ前ニ死刑ニ處セラル、時ニハ其相續ヲ自己ノ相續人ニ直ニ移轉スルニ至ル是レ其急速ヲ要スル所以ナリ

〔六十三號〕

故ニ相續ノ身分ヲ失フコハ裁判宣告ヲ用ヒサル可カラス相續員中ヲ除去セラル、コハ裁判上ニ證明ヲ爲シ擬度シタル相

續ノ地位ヲ失フ原因ヨリ出ル者トス斯ク裁判上ニ於テ證明擬度ス

ルマテハ有罪ノ相續人ト雖モ相續ヲ掌握ス此證明ハ關係アル者ノ

請求ニ因テ民事裁判所之ヲ爲ス何トナレハ相續ノ地位ヲ失フコハ

純粹ノ民事上ノ刑ナルカ故ナリ

〔附言〕 然レヒドマント氏及ヒ吾輩ハ刑ノ宣告ニ因テ相續ノ地位

ヲ失フ場合ニシテ既ニ此刑ノ宣告ニ關スル公訴ヲ行フ時ニ相續

カ開發シタル時ニハ治罪法第三條ニ隨ヒ相續ノ地位ヲ失フ訴訟

ハ尙ホ損害賠償ノ訴訟ノ如ク同時ニ公訴ヲ主トル裁判官ノ面前



ニ訴フルヲ得可シト信スルナリ

○第肆 相續ノ地位ヲ除去セシメシ相續人ト除去セラレタル相續人トノ間ニ生スル効驗

第七百二十九條  
第六十四號

相續ノ地位ヲ失フニ於テハ遺物掌握ノ効ヲ消滅ス其消滅スルヤ將來ノミナラス既往ニマテ波及ス可シ即チ地位ヲ失フ者ハ曾テ相續人タラサルカ如ク看做サル可シ是ヲ以テ左ノ結果ヲ生ス

〔六十五號〕 第一

相續ノ地位ヲ失ヒタル者ハ既ニ掌握シタリシ財産或ハ相續開始ノ時ヨリ收取シタル天然上ノ果實及ヒ民法上ノ果實

ヲ死者ニ返却セサル可カラス

蓋シ假令ヒ相續ノ身分ヲ失ヒタル事故ハ死者ノ死去後ニ發起スト雖モ遺物ヲ掌握シタル日ヨリ果實ヲ計算スル者トス例之ハ相續開始後一箇年又ハ二箇年經過シ始テ死者ノ全ク毒殺セラレシヲ發

見シ直ニ之ヲ裁判所ニ報知セサル相續人ハ即チ相續ノ身分ヲ失フカ故ニ其毒殺ヲ了知セシ後ノ果實ハ勿論其以前ヨリ收取シタリシ果實ヲモ盡ク返却セサル可カラス

或人曰ク前項ノ相續人ニ於テハ罪科ナキ者トス蓋シ相續開始ノ時ヨリ死者ハ全ク毒殺セラレタルヲ承知シタリシ日迄ハ相續人モ全ク良意ヲ以テ遺物ヲ保有シタルニ非スヤ然ル時ハ其毒殺ナルヲ了知シタリシ時迄ハ果實ヲ自己ノ物ト爲シタリシナリ然ルニ何故ニ此相續人ヲ通常ノ占有者ノ如ク始ニハ良意ナリシモ後ニハ良意ナラサリシ者ノ如ク待遇セサルヤト余之ニ對テ謂ハン抑、此二箇ノ例ハ同一ナルニ非サルナリ夫レ良意ノ占有者ハ其收取スルノ果實ヲ長ク蓄置カストス可シ蓋シ其果實ヲ日々自己ノ消費ニ充ルカ故ニ若シ良意中收取シタル果實迄モ返却ス可シトスル時ハ其高ハ巨

相續ノ地位ヲ失フ事



額ニシテ非常ノ損害ヲ被ラシムルニ非サレハ返却シ得サルニ至ル  
 斯ノ如キ義務ハ過嚴ノ甚タシキ者ナリ何トナレハ斯ク返還ノ義務  
 ナ負擔スルハ其人ノ招ク所ニ非ス且ツ其地位ヲ免カル、ノ方法ナ  
 シ之ヲ通常占有者ノ果實ヲ返却セサルノ所以ト爲スナリ  
 之ニ反シテ相續ノ地位ヲ失ヒタル相續人ハ其相續開始ノ時ヨリ收  
 取シタル果實迄モ返却スルノ義務ノ不當ヲ他ニ訴フル所ナシ何ト  
 ナレハ斯ノ如キ義務アルハ己レ自カラ招クカ故ナリ故ニ法律ハ元  
 金ト果實トヲ全ク保存セシムルノ方法ヲ以テセリ即チ死者ノ毒殺  
 サレタルヲ裁判所ニ告發スル是ナリ然ルニ相續人ハ此家族ノ義務  
 タル告發ヲ爲サ、ルヲ以テ法律ハ親戚ノ恩ニ背クト云テ其親戚ノ  
 彼ニ付與スル財産ヲ相續人ニ與ヘスシテ之ヲ取上ケ以テ之ヲ罰ス  
 ルナリ

第二 死者カ相續ノ地位ヲ失ヒタル者ニ對スル負債又相續ノ地位  
 ナ失ヒタル者カ死者ニ對スル負債及ヒ相續ノ地位ヲ失フ者カ死者  
 ノ財産上ニ有スル書入ノ權及ヒ土地ノ義務、死者カ相續ノ地位ヲ失  
 フ者ノ財産上ニ有スル書入及ヒ土地ノ義務ハ蘇生スルナリ原來是  
 等ノ權利、義務ハ其混同ニ因テ消滅ス即チ己レ自カラ自分ノ債主タ  
 ルヲ得ス(第一千三百條)又自己ノ物ニ土地ノ義務ヲ有スル能ハスト(第  
 六百十七條及第七百五條)云フノ原則ニ隨ヒ權利、義務ハ其混同スル  
 ニ因テ消滅スル者トス然レモ相續ノ地位ヲ失ヒタル者ハ決シテ相  
 續人タラサリシト看做サ、ルカ故ニ此消滅モ亦有ラサリシ如ク看  
 做サル(第二千七百七十七條ノ推論)

○第五 相續ノ地位ヲ失シタル他ノ相續人ニ對スル効驗  
 (六十六號) 相續ノ地位ヲ失シタルヨリ生スル他人ニ對スル効驗ハ將



來ニ向テ遺物掌握ノ効ヲ消滅スト雖モ既往ニ向テハ其効ヲ存スル者トス

(將來ニ向テ遺物掌握ノ効ヲ消滅ス云々)○蓋シ相續ノ地位ヲ失シタル旨ヲ宣告セラル、以上ハ其他位ヲ失ヒタル者ナレハ他人ニ對シテハ既ニ相續人ノ効ヲ有セサルナリ因テ左ノ結果ヲ生ス

第一 相續ノ地位ヲ失シタル者ハ死者ノ義務者又ハ遺留財産ノ占有者ニ對シテ訴訟ヲ爲スヲ得ス而シテ其義務者及ヒ其占有者モ亦彼ト辯論スルニ及ハサル而已ナラス固ヨリ辯論スルヲ俟タサルナリ何トナレハ互ニ訴訟辯論ヲ爲シテ勝ヲ彼ニ取ルモ他ノ地位ヲ失ハシメタル相續人ニ對シテ勝訟ノ効ハアラサルカ故ナリ

第二 相續ノ地位ヲ失シタル者カ相續人ノ地位ニテ他人ヨリ掌握シタル償債ハ無効タリトス故ニ彼ノ手ニ償債シタル義務者ハ失錯

スト謂フ可シ尙ホ彼ノ席次ノ相續人ニ對シテハ義務者タリ但シ既ニ償債シタル物品ノ回復ニ至テハ地位ヲ失ヒタル者ニ對シテ要求スルヲ得可シ

第三 相續ノ地位ヲ失シタル者カ遺留財産ヲ賣却シ又ハ之ヲ書入ト爲シ或ハ土地ノ義務ヲ設クル等ノ一ハ總テ無効ト爲スナリ○然レモ遺物中確定ノ動産ヲ他人カ良意ヲ以テ買取シタル者既ニ之ヲ占有スル以上ハ相續ノ地位ヲ失シタル者ノ席次ノ相續人ト雖モ奪去スルヲ得ス是レ下ノ原理ニ因ルヲ以テナリ蓋シ動産ニ附テハ現ニ之ヲ占有スルヲ以テ其所有權ノ證書ヲ有スルニ等シ(第二千二百七十九條ノ説明ヲ參觀ス可シ)

(六十七號) (既往ニ向テハ其効ヲ存スル者云々)○是ヲ以テ相續ノ地位ヲ失シタル相續人ハ既往ニ向テ眞ニ相續人タリシカ如ク看做サル

相續ノ地位ヲ失フ事



ルカ故ニ相續開始ノ日ヨリ相續ノ地位ヲ失シタル旨ヲ宣告セラレタル日迄ハ遺留財産ノ所有者タリト看做サル可シ蓋シ相續ノ地位ヲ失却セシムルハ其過失ヲ刑罰スルノ旨趣ヲ以テ遺留財産獲得ノ權ヲ剝奪スル者トス夫レ斯ノ如ク獲得ノ權利ヲ剝奪スルハ既往ニ向テ之ヲ爲スヲ得ス唯將來ニミ此權利ヲ剝奪スルヲ得ルナリ若シ又既往ニ遡テ權利ヲ消滅スル時ハ犯罪人タル相續人ト契約シタル他人ノ正當ナル獲得ノ權ヲ消滅セシム是レ所謂罪ス可カラサル者ヲ罪スト謂フ可シ夫レ法律ハ犯罪人ニ非サレハ罰スルヲ得ス又犯罪人ヲシテ罰セサル可カラサルナリ然レモ刑罰ハ素ト一身ノ過失ヲ罰スルカ故ニ其一身ニ止マラサル可カラス故ニ相續ノ地位ヲ失シタル者ハ些少ノ利益ト雖モ遺留財産中ヨリ收取スルヲ得サルハ至當ナリトス是ヲ以テ相續ノ地位ヲ失シタル者カ眞ニ遺物ヲ

掌握シテ其所有者タリシ際ニ臨ミ他人ノ之ト契約シタル事物ニ至テハ其過失ノ害ヲ受ク可カラサルナリ然ルニ若シ其承諾シタル讓與、書入、貸地及ヒ貸家等ノ契約ヲ一朝廢棄ニ付スルトセハ是レ此過失ヲ他人ノ頭上ニ墜落セシムル者ト謂フ可シ故ヲ以テ相續ノ地位ヲ失スル旨ヲ宣告セラレタル前ニ其宣告ヲ受ケタル相續人ト契約シタル者ノ所爲ハ凡テ効アル者トセサル可カラス但シ相續ノ地位ヲ失シタル者ノ席次ノ相續人ハ其地位ヲ失シタル者ニ對シテ徵償ヲ要求スルヲ得可シ第九百五十八條ハ此論說ニ附テ確實ナル道理ヲ供スルナリ

〔附言〕 ドムロンブ氏ハ著書第一冊三百十號ヨリ三百十四號迄ニ反對ノ說ヲ記セリ即チ著者ハ第三百三十六條ニ記載スル無實相續人ノ所爲ニ係ル論理ヲ相續ノ地位ヲ失シタル者ノ所爲ニ適用セリ



○第陸 相續ノ地位ヲ失シタル者ノ子ニ對スル其効驗

第七百三十條(六十八號)

相續ノ地位ヲ失スル者ノ子ハ其父ニ代理セシテ唯自己ノ權ヲ以テ死者ノ相續ヲ爲スヲ得可ク決シテ其子ハ父ノ過失ノ爲メニ除去セラレサル者トス

(自己ノ權ニ因リ死者ノ遺物ヲ相續スルノ子ハ其父ノ過失ノ爲メニ相續員中ヨリ除去セラレス云々)○例之ハ甲乙ノ兄弟アリ甲ハ其父ノ相續ヲ拋棄シタルヲ以テ乙ハ之ヲ自己ノ部分ニ加添スルノ權アルニ因リ父ノ遺物ノ全部ヲ受取ル可シ(第七百八十六條)然リ而シテ拋棄者タル甲ノ子ハ乙ニ向テ相續ノ地位ヲ失ハシムル原因アルニ因リ乙ヲ除去スルトセハ相續ハ總テ甲ノ子ニ歸ス可キカ曰ク否ナ相續ノ地位ヲ失スル乙ノ子ハ甲ノ子ト共ニ死者ノ相續ヲ爲ス可シ如何トナレハ乙ノ子ハ甲ノ子ノ如ク死者ノ卑屬ノ親ニシテ第二級

ノ親戚ナレハナリ且ツ乙ノ過失ハ其子ヲ害ス可カラズ蓋シ乙ノ子ハ其父乙ノ等親ト權利ト借テ之ニ代替スルニ非ス自カラ自己固有ノ權利ヲ以テ相續ヲ爲スカ故ナリ(第七百四十五條第二項)

(六十九號)

(之ニ反シテ相續ノ地位ヲ失シタル者ノ子カ其父ニ代理スルノ名義ヲ以テ相續ヲ爲サント云フ時ニハ相續員中ヨリ除去セラ

ル可シ云々)○例之ハ甲乙ノ兄弟アリ乙ハ甲ノ訴ニ因テ相續ノ地位ヲ失ヘリ其乙ノ子ハ自己ノ權ヲ以テ其伯父甲ト共ニ相續スルヲ得ス何トナレハ乙ノ子ハ第二級ノ親戚ニシテ甲ハ第一級ノ親戚ナレハナリ或問ヲ設ケテ曰ク然ラハ則チ乙ノ子ハ其父ニ代理シテ伯父ト共ニ相續ヲ爲シ得可カラサルカ曰ク固ヨリ相續スルヲ得サルナリ何トナレハ本例ニ於テハ假令ヒ乙ハ相續ノ地位ヲ失スルト雖モ尙ホ實ニ親戚中ノ等親ノ名義ヲ有スルカ故ニ未タ空虛ナラサル等

相續ノ地位ヲ失フ事



親ニ代理ヲ設クルヲ得サレハナリ蓋シ第七百四十四條ニ據ルニ名代相續ハ死者ノ生存中ニ死去シタル相續人ノ爲メニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ストセリ是ヲ以テ本例ニ於テハ乙ハ未タ生存セルカ故ニ其子ハ固ヨリ代理スルヲ得サル者トス(八十九號參觀)

右ノ論點ニ於テハ同意ニ左袒スル者多シト雖モ或ハ一説ヲ設ケテ曰ク汝カ説ク所ノ例ノ如クナレハ子ノ父ニ代理スルヲ得サルハ其父カ相續ノ地位ヲ失シタルノ故ニ非ス其父ナル者ハ現今生存シテ尙ホ親戚中ノ等親ヲ有スルカ故ナリト謂フ可シ

然ラハ則チ今本例ヲ變更シテ之ヲ云ハンニ乙ハ其父ニ對シテ誣陷ト宣告セラル、死刑ニ當ツ可キ訴訟ヲ爲スカ或ハ其父ヲ殺死スルノ謀試ヲナシタルカヲ以テ殺死者ナリト罪ヲ宣告セラレ爲メニ乙ハ刑死セラレタリ然ルニ其父モ亦其男甲ト乙ノ子トヲ殘シテ數日

後ニ死シタリトセハ即チ乙ノ子ハ其父乙ニ代理スルヲ得可キカ曰ク得可カラサルナリ若シ名代相續ノ通例ノ規則ヲ按スル時ニハ其然ル可キハ敢テ疑フ可キニ非ス何トナレハ本例ニ於テハ乙ノ父ハ死者ノ生存中ニ死去シ且ツ其等級ハ空虛ナレハ何事モ名代相續ヲ爲スノ障礙タラサルカ如シ然リト雖モ第七百三十條ニ據ルニ相續ハ地位ヲ失シタル者ノ子ハ其父ノ代理タルヲ得ストアレハ其代理ヲ爲ス可カラサルヤ明カナリ

右ノ説ニ於テハ他輩ノ允許スル者トス而シテ一般ノ説ニ因ルニ第七百三十條ハ唯、有罪者カ其父死者ノ未タ生存中ニ死セシ地位ヲ記載セスシテ單ニ其有罪者カ相續ノ地位ヲ失スルノ場合ノミヲ記載スルカ故ニ有罪者ハ尙ホ其父死者ヨリ幾許カ後存セリト想像セサルヲ得ス蓋シ生存ノ有罪者ニ非サレハ相續ヲ得テ而シテ相續ノ地



位ヲ失スルコトハ有ラサルナリ(四十七號及六十一號參觀)且ツ法律ノ  
 掲クル例ニ於テハ乙カ尙ホ生存ナルヲ證ス可シトスル者ハ法律ノ  
 明カニ父母カ十八歳以下ノ子ノ財産ニ有ス可キ法律上ノ入額所得  
 權ヲ乙ニ拒絕スルコト是ナリ  
 法文ニ於テハ相續ノ地位ヲ失スル者ノ子カ代理スルニ非サレハ相  
 續ヲ爲スヲ得サル時ハ其子ハ除名セラル可シト云ヘリ此言ハ左ノ  
 如ク解ス可シ相續ノ地位ヲ失セル者ノ子ハ其地位ヲ失シタル者カ  
 尙ホ生存シテ現今親戚中ノ等親ヲ有スルカ故ニ父ノ代理タルヲ得  
 ス然レモ若シ有罪ノ相續人カ死者ノ生存中死去スル時ハ其等親ハ  
 現ニ空虛トナルカ故ニ其無罪ナル子ハ代理スルヲ得可シ即チ其父  
 ハ曾テ相續ノ地位ヲ失ハサル者ノ如ク何トナレハ相續ノ地位ヲ失  
 スルコトニハ死者ノ相續ヲ授與セラル、コト有リト想像ス可シ然ルニ

本例ニ於テハ有罪人ハ死者ノ生存中ニ死去スルカ故ニ死者ヨリ相  
 續ヲ授與セラレサレハナリ此ニ因テ之ヲ觀レハ爰ニ吾輩ノ言フ所  
 ノ例ハ第七百三十條、第七百四十四條ニ關セサル者ナルカ故ニ名代  
 相續ハ爲スヲ得可キ者トス

〔七十號〕 此說ニ附テ三箇ノ難問アリ即チ左ノ如シ

第一 第七百四十四條ニ據ルニ生存スルノ人ニ代理セサルカ如シ  
 故ニ第七百三十條ハ死者ノ生存中死去スル相續人ノコト云ヘリ然  
 ラサレハ第七百三十條ハ全ク不用ノ說ト謂フ可シ何トナレハ第七  
 百四十四條ノ一般ノ原理ヲ適用スルニ過キサレハナリ  
 此難問ハ甚タ高説ト謂フ可シ然レモ眞ニ是レ第七百三十條ハ第七  
 百四十四條ニ記スル一般ノ原理ノ適用ニ過キサルヲ以テ敢テ驚懼  
 スルニ足ラサルナリ今吾輩カ吐論スル問題ハ往古ノ法律上ノ論題



ナレハ今ノ法典ノ編纂者ハ此點ヲ明瞭ニ解釋セサル可カラザリシナリ且ツ編纂者ハ父ノ過失ハ其子ヲ害ス可カラスト云フノ原則ヲ妄用シテ遂ニ相續ノ地位ヲ失フ者カ生存スルト雖モ其子ヲ以テ代理セシムルニ至ルヲ恐レ此原則ヲ明瞭ニ制限ス可シト信シタリ○蓋シ第七百三十條ノ規則ハ不用タル可キハ信ナルカ曰ク今此ニ於テ其可否ヲ決斷ス可カラス何トナレハ法律ハ自カラ特別ノ事項ニ於テ已ニ設ケタル規則又ハ設ケントスルノ規則ヲ適用スルコト屢アリ其證據ヲ見ントスレハ第七百八十七條ニ於テ相續ヲ拋棄シタル相續人ハ其子ニ代理セシムルヲ得スト記セリ蓋シ是レ生存スル人ニ代ツテ相續ヲ爲スヲ得可カラスト云ヘル第七百四十四條ノ原則ヲ單一ニ適用シタリシナリ

第二 名代相續人ハ其本人カ死者ヨリ後存スル時ノ如ク代理セラ

レタル本人カ有ス可キ權利ヲ引援シテ之カ名代相續ヲ爲ス可シ(第七百三十九條)果シテ然ラハ本例ニ於テハ假令ヒ有罪人カ死者ヨリ後存スル時ト雖モ相續ノ權利ハ些少モ有セス故ニ有罪ノ相續人ハ固ヨリ代理セラレ、ヲ得サルナリ

此難問ニ答フルハ甚タ容易ナリトス蓋シ有罪ノ相續人カ後存スル時ニハ遺物ヲ相續スルノ權利ヲ有スル者トス何トナレハ一旦相續ヲ死者ヨリ授與セラレ其後過失アルヲ以テ其權利ヲ剝奪セラレ、カ故ナリ是ヲ以テ其子ハ其父ニ代テ權利ヲ主張シ以テ是等ノ權利ヲ保有ス可シ即チ父ノ過失ハ其子ヲ害ス可カラスト云ヘル原則ニ因テナリ

第三 第八百四十八條ヲ按スルニ父ノ名代相續ヲ爲ス死者ノ孫ハ死者ヨリ相續ノ時ニ其父カ死者ヨリ贈與ノ名義ヲ以テ過分ノ贈物



ヲ受取リタル時ハ其物品ヲ返還セサル可カラズ且又名代相續人モ其父カ生存スル時ニ有スル所ノ權利及ヒ其義務ヲ相續ス可キ者トス果シテ然ラハ其父カ受ク可キ解約モ亦受ケサル可カラサルニ至ル故ヲ以テ名代人ハ代理セラレタル者カ保有シ能ハサル所ノ物ハ凡テ其名代人モ亦保有シ能ハサル物トス然ル時ハ如何ナル影響ヲ來ス歟」或答テ曰ク然リ若シ代理セラレタル者カ死者ヨリ後存スル時ハ名代人ハ代理サレタル者ノ受ク可キ解約ヲ引受ケサル可カラズ然レモ此解約ノ時ニ於テハ刑ノ名義ヲ以テ代理セラレタル者カ引受ク可キ解約ハ名代人其解約ヲ免カル可シ

〔附言〕余カ説キ來リシ説ニ反對ノ論ハ余ノ上ニ報道スル所ノ推論ヨリ他ノ推論ヲ以テ之ヲ主張スルカ如シ○第七百三十條ニ據ルニ子カ父ノ代理ヲ爲サスシテ自己ノ權ニ因リ相續ス可キ時ニ

父ノ過失ハ其子ヲ害ス可カラスト云ヘリ此法文ニ據ルニ父ノ過失カ其子ヲ害ス可キ地位アリ然ラハ此地位ハ如何ナル地位ヲ云フカ曰ク明カニ子カ父ノ名代人ノ名義ヲ以テ相續ヲ有ス可シト主張スル地位是ナリ○余カ陳フル所ノ説ニ於テハ父ノ過失ハ決シテ子ヲ害ス可カラスト爲ス果シテ然ラハ此結果ハ法文ニ背馳スト謂フ可シ○余且ツ謂ハントスシメナン氏曾テ參議院ニ議シテ曰ク子カ憎惡ス可キ所爲ヲ爲シタル父ノ代理セスシテ唯自己ノ權ニ因リ相續スル時ハ其父ノ相續ノ地位ヲ失フコトハ其子ノ相續ヲ害ス可カラス故ニ代理ノ權ヲ禁スルハ其父カ生存スルノ故ニ非ス其憎惡ナル父ノ代理ヲ爲スカ故ナリ然ル時ハ父ノ生存スルト否トヲ問ハス其憎惡ス可キ父ハ其子ニ代理セラル、ヲ得サルナリト○相續ノ地位ヲ失フ人ナル語ニ附テノ推論アリト雖モ



余ハ之ニ感服セス故ニ爰ニ論セサルナリ蓋シ此語意ハ法律上ニ  
確定セス其之ヲ證スル者ハ古ノ學者カ此語ヲ時トシテハ相續ノ  
地位ヲ失フ原因ニ依テ其地位ヲ失フ者ニ適用シ又ハ單ニ有罪ノ  
親戚ノ者ニ之ヲ適用スルヲ有ル是ナリ

○第柒 無能力ノ相續人ト相續ノ地位ヲ失スル旨ノ宣  
告ヲ受ク可キ有罪ノ相續人トノ差異

〔七十一號〕 第一 相續ノ地位ヲ失スル旨ヲ宣告セラレスト雖モ其宣  
告ヲ受ク可キ相續人ハ惡意ノ占有者ト看做サル且又罪アラサリシ  
時モ惡意ノ占有者ノ如ク待遇セラル可シ〔六十五號參觀〕之ニ反シテ  
無能力者ニ於テハ常ニ良意ナリト看做サル可シ是ヲ以テ良意ノ占  
有者ト惡意ノ占有者トノ間ニ法律上ノ差異ヲ生スルヲ見ル可シ〔第  
五百四十九條、第五百五十五條、第一千三百七十八條及ヒ第一千三百八十

條ヲ此ニ比論ス可シ）

第二 相續ノ地位ヲ失スル旨ヲ未ダ宣告セラレサル以上ハ眞ニ是  
レ遺物ヲ掌握シタル相續人ナリ此名義ヲ以テ死者ノ權利、義務ヲ授  
與セラル、カ故ニ其相續人ハ死者ノ義務者及ヒ遺留財産ノ占有者  
ニ對シ訴訟スルヲ得可シ總テ其相續人ニ利トナル裁判又害トナル  
裁判ハ他日之ヲ相續ノ地位ヲ失スル者トナシテ除名スル時ハ其後  
ニ來ル相續人ニ利トナリ又害トナル可シ其相續人ノ爲シタル賣却  
其設ケタル書入又ハ土地ノ義務其爲シタル和解ハ總テ効アリトス  
〔六十七號參觀〕○之ニ反シテ無能力者ハ遺物ヲ掌握セス決シテ相續  
人タラサルナリ是ヲ以テ無能力者ハ死者ノ義務者又ハ遺留財産ノ  
占有者ニ對シテ訴訟ヲ爲スノ權無シ又無能力者ニ訴ヘラレタル他  
人ハ左ノ如ク謂フヲ得可シ足下ハ出訴スルノ身分ナシ余ハ足下ノ

相續ノ地位ヲ失フ事



對頭アトウレセル即チ訴訟ノタルヲ知ラス又無能力者カ相續人ノ如ク出訴セラ  
 ル時ハ之ニ答辯スルノ身分ヲ有セス若シ惡意アルカ又ハ無能力  
 者タルヲ知ラスシテ答辯スル時ハ其無能力者ニ害トナル裁判ハ相  
 續ニ權利アル他ノ相續人ノ害トナル可カラズ其承諾スル讓與其設  
 立スル書入又ハ土地ノ義務ハ所有權ノ名義無クシテ承諾シ設立シ  
 タル者ナレハ無効タリ總テ其無能力者ノ爲シタル所爲ハ其無能力  
 者タルノ證明アル時ヨリ消滅スル者トス  
 然レモ余ハ左ノ事件ヲ除却シテ其効ヲ有スル者ト爲ス可シ  
 第一 死者ノ義務者カ善意ヲ以テ無能力者ニ爲シタル償債(千三百  
 三十六號參觀)  
 第二 有形ノ動産ノ讓與但シ之ヲ得タル者ハ善意ニシテ以テ之ヲ  
 保有スルヲ要ス(第二千二百七十九條參觀)

○第三章 相續ヲ爲スノ順序

○第一款 總則

自第七百三十  
五條至第七百  
三十八條

(七十二號) 抑、真正ノ相續人カ相續ヲ爲スニ二箇ノ要件アリ

第一 相續ヲ爲ス一般ノ能力(第七百二十五條參觀)

第二 相續ニ附キ法律上定ムル所ノ順序及ヒ其等級ニ於テ死者ノ

血族タルヲ要スル事

(七十三號) 血族ト所出ノ者ト其後裔トノ直系ノ關係及ヒ其後裔ノ傍

系ノ關係ヲ謂フ

系トハ血統ノ人ノ間ニ互ニ在ル關係ヲ謂フ其系ニ宗系ト傍系トアリ

リ宗系ハ經直ニ他ノ一人ヨリ子々孫々ニ連續スルノ系ヲ謂ヒ傍系  
 ハ經直ニ連續セスシテ同出所ノ人ノ支派ノ系ヲ謂フ

宗系ニ卑屬ト尊屬トアリ卑屬ノ系ハ所出ノ者ヲ其後裔ニ相連續セ

相續ヲ爲スノ順序總則



シムル系ヲ謂ヒ尊屬ノ系ハ後裔ヲ所出ノ者ニ相連續セシムルヲ謂フ  
血族ノ親疎ハ此血族ト彼血族トヲ分ツ所ノ人ノ代數ヲ以テ之ヲ定  
ム其一代ヲ名ケテ級ト謂フ

本宗ノ系ニ於テハ其人ノ代數ニ隨テ級アリ故ニ嫡子ハ其父ニ對ス  
レハ第一級ニ在リ孫ハ祖父ニ對スレハ第二級ニ位ス  
傍系ノ系ニ於テ其級ハ同シク此人ヨリ其所出ノ者ニ至リ其者ヨリ彼  
人ニ至ル代數ニ準シテ級ノ數ヲ定ム但シ其所出ノ者ハ計算中ニ加  
入スルコト無シ故ニ兄弟ハ第二級ニ位ス何トナレハ其兄弟ニ在ル血  
族ヲ生スルニハ二箇ノ代ヲ要スルヲ以テナリ伯叔父ト甥トハ第三  
級ニ位ス何トナレハ此等ノ人ノ血族ヲ生スルニハ三箇ノ代ヲ要ス  
ルヲ以テナリ其内二箇ノ代ハ甥ヨリ所出ノ者へ上進スル者其内一  
ハ所出ノ者ヨリ伯叔父ニ下降スル者はナリ從兄弟ハ第四級ニ位ス

何トナレハ此血族ヲ生スルニハ四箇ノ代數ヲ要スレハナリ其内二  
箇ノ代ハ從兄弟ヨリ所出ノ者ニ上進シ其内二ハ所出ノ者ヨリ從兄  
弟ニ下降スル者はナリ

〔七十四號〕 血族ノ親ニ父系ノ親又ハ母系ノ親アリ或ハ父母同系ノ親  
アリ

余ノ父系ノ血族トハ即チ余ノ父ト父ノ父系、母系ヲ問ハス總テ父ノ  
血族ノ者ヲ謂フ故ニ余ノ父ノ父系ノ血族ノ親又ハ父ノ母系ノ血族  
ハ余ノ父系ノ血族ノ親タリ  
余ノ母系ノ血族ノ親トハ余ノ母ト母ノ父系ト母系トヲ問ハス余ノ  
母ノ血族ノ者ヲ謂フ故ニ余ノ母ノ血族ノ者ハ母ノ父系ノ血族ノ者  
モ皆チ余ノ母系ノ血族ノ親トナス  
甲乙二人ノ間ニ在ル血族ノ關係ハ相等シカラサルコトアリ甲ハ乙ノ



父系ノ血族ノ者ニシテ乙ハ甲ノ母系ノ血族ノ者タルコトアリ故ニ余ノ父系ノ伯母ノ嫡子ハ余ノ父系ノ從弟タリ何トナレハ其嫡子ハ余ノ父ノ甥ナレハナリ之ニ反シテ余ハ母系ノ從弟ナリ何トナレハ余ハ伯母ノ甥ナレハナリ

余ノ父○母○同○系○ノ○血○族○ノ○者○トハ余カ父ノ血族ニシテ同シク余カ母ノ血族タル者ヲ謂フ故ニ伯父カ其姪ヲ妻トスル時ニハ父母同系ノ血族トシテ其父又ハ其母ノ血族ノ者例之ハ其母ノ兄弟、姉妹ハ其間ニ生シタル子ノ父母同系ノ血族ノ者トス何トナレハ是等ノ血族ノ人ハ同シク此父ノ甥又ハ姪ナレハナリ

〔七十五號〕 異母ノ子トハ父系ノ血族ノ者ヲ謂ヒ異父ノ子トハ母系ノ血族ノ者ヲ謂フ同父母ノ子トハ同シク父母ノ血族タル人ヲ謂フ故ニ所出ノ父ヲ同フシテ母ヲ異ニスル子ヲ稱シテ異母ノ子ト謂ヒ所

出ノ母ヲ同フシテ父ヲ異ニスル子ヲ稱シテ異父ノ子ト謂ヒ又所出ノ父ト母トヲ同フスル子ヲ稱シテ同父母ノ子ト謂フ

〔七十六號〕 法律ハ血族ノ親ヲ許多ノ順序ニ分別ス而シテ相續ノ階級トハ法律ノ順序ヲ立テ相續人ト指示スル血族ノ種々ノ階級ヲ謂フナリ

第七百三十一條

法律ハ相續ノ順序ヲ三箇ニ分別ス

- 第一 卑屬親ノ順序
- 第二 尊屬親ノ順序
- 第三 傍系親ノ順序

尊屬親ノ順序ヲ細別シテ父又ハ母ノ地位ヲ有スル尊屬親ト父母外ノ尊屬親トニ分別ス其父母ノ地位ヲ有スル尊屬親ニハ法律カ他ノ尊屬親ノ有セサル二箇ノ便益ヲ許與スルヲ以テ特權有リトス

總則



其一 死者ノ父母ハ死者ノ兄弟、姉妹又ハ其卑屬ノ親ト共ニ相續ス可シ(第七百四十八條)父母外ノ尊屬ハ之ニ反シテ死者ノ兄弟、姉妹又ハ其卑屬ノ親ニ除却セラル可シ(第七百五十條)

其二 母系ノ傍系親ト共ニ相續スル父母ハ其傍系ノ親ニ歸屬スル相續物ノ三分一ノ入額所得權ヲ有ス可シ(第七百五十四條)父母外ノ尊屬親ハ其所屬ト爲シタル遺物ニ非サレハ權利ヲ有セス故ニ其尊屬親ト共ニ相續スル傍系親ハ其系ニ屬スル遺物ヲ其儘ニ有ス可シ(第七十七號)傍系親ノ順序ハ細別シテ兄弟、姉妹及ヒ其卑屬親ノ地位ヲ有スル者ト兄弟、姉妹又ハ其卑屬親外ノ傍系ノ者トニ分別ス其第一ノ者ハ法律上ヨリ第二ノ者ノ有セサル三箇ノ便益ヲ有スルカ故ニ特權アリトス

第一 兄弟、姉妹又ハ其卑屬ノ者ハ其父母ト共ニ相續ス可シ(第七百

四十八條)之ニ反シテ通常ノ傍系ノ者ハ其父母ニ除却セラル(第七百四十六條)

第二 兄弟、姉妹及ヒ其卑屬親ハ其父母外ノ尊屬ノ者ヲ除却ス而シテ其兄弟、姉妹又ハ其卑屬親ノ屬セサル系統ノ尊屬親ト雖モ亦同シトス故ニ異父ノ兄弟ハ父系ノ祖父ヲ除却シ而シテ又異母ノ兄弟ハ母系ノ祖父ヲ除却ス(第七百五十條)之ニ反シテ凡テ尊屬親ハ其同系ノ通常ノ傍系親ヲ除却ス可シ(第七百五十三條)

第三 父又ハ母ト共ニ相續スル兄弟、姉妹ハ其所屬トナシタル遺物ヲ其儘ニテ保ツ可シ之ニ反シテ母方ノ系統ノ通常ノ傍系ノ者ト共ニ相續スル父母ハ其傍系親ニ歸屬スル遺物ノ三分一ニ入額所得權ヲ有ス可シ(第七百五十四條)故ニ法律ニ於テハ三箇ノ順序アリト記載スト雖モ實際ニ在テハ血

總則



族ニ五箇ノ級アリト謂フ可シ

- 第一 卑屬親
- 第二 特權アル尊屬親即チ父又ハ母ノ地位チ有スル尊屬親
- 第三 父母外ノ尊屬親
- 第四 特權アル傍系親即チ兄弟姉妹又ハ其卑屬親
- 第五 通常ノ傍系親

第七百三十二(七十八號)條

無遺囑相續ノ順序チ傍定スルニハ死者ノ遺留スル血族ノ地位ニ據テ之チ定ム而シテ財產ノ性質及ヒ其出所ニ據ラサルナリ  
 蓋シ佛國ノ古法ニ於テハ凡テ財產傳與ノ順序ハ其性質ト其出所トニ據テ之チ定メシナリ  
 抑、財產ノ性質ニ據レハ則チ貴族ノ財產アリ賤族ノ財產アリ或ハ動產アリ不動産アリ而シテ是等ノ區別ニ隨ヒ其財產チ分付シテ適宜

ノ相續人ニ授與スルナリ  
 又財產ノ出所ニ據レハ則チ財產ニ着身物アリ獲得物アリ其着身ノ財產チ左ノ如ク區別ス  
 第一 死者カ正當ノ相續ニ因テ得タル財產  
 第二 死者カ直系ノ血族親ノ一人ヨリ贈與又ハ遺囑チ以テ得タル財產

總テ其他ノ財產ハ皆チ獲得ノ財產ト爲スナリ又着身ノ動產ニ於テハ凡テ獲得ノ財產ト看做シ以テ之チ規定セリ  
 總テ血族親ハ獲得ノ財產チ相續スルモ着身ノ財產チ相續セサルヲアリ又之ニ反シテ獲得ノ財產チ相續セサルモ着身ノ財產チ相續スルヲアリ獲得ノ財產及ヒ着身ノ動產ハ概シテ相續ノ順序ニ於テ最モ親近ナル血族親ニ屬ス可シ着身ノ不動産ハ死者ニ之チ授與セシ

總則



親族ニ歸屬ス其授與ノ本人無キ時ハ其血族ノ者ニ屬ス故ニ死者ノ父系ヨリ死者ニ傳與セシ着身ノ財產ハ父系ノ血族親ニ歸屬ス母系ヨリ傳與セシ着身ノ財產ハ母系ノ血族親ニ歸屬ス可シ因テ左ノ規則ヲ引出シ來ル即チ曰ク父系之傳與歸於父系、母系之傳與歸於母系蓋シ之ヲ名ケテ剖析即チ父系ノ傳與ニ歸ス可キ着身ノ財產ヲ指シテ分析スルヲ謂フト云フ剖析ノ次ニ再剖即チ猶ホ再別ト有リ即チ父系ノ傳與ニシテ父系ニ歸ス可キ着身ノ財產ヲ指シテ謂フカコトシ

再別ト有リ即チ父系ノ傳與ニシテ父系ニ歸ス可キ着身ノ財產ヲ二箇ニ再別ス其一ハ着身ノ財產ヲ傳與セシ者ノ父系ノ親族親ニ屬シ其二ハ其母系ノ親族親ニ屬ス斯ノ如ク再別ノ方法アルヲ以テ父母兩系ニ於テ法律上指示スル所ノ血族親カ若シ先ニ死去スル時ハ其系ニ屬ス可キ財產ヲ二箇ニ再別ス即チ其一ハ父系ノ血族親ノ等ニ屬シ其他ハ母系ノ血族親ノ等ニ屬スルノ方法トス父系之傳與歸於父系、母系之傳與歸於母系、此規則ハ其原理ニ於テハ至當ナ

リトス何トナレハ其規則アルニ因リ各血族親ハ其傳與シタル財產ヲ保存スルヲ得又ハ一旦死者ノ家産タリシ財產ヲ原トノ各親族ニ返却スルカ故ナリ然レモ之ヲ適用スルニ於テハ憂フ可キ弊害アリトス何トナレハ解ス可カラサル難事ナル世系ノ問題ヲ生スルカ故ナレハナリ

羅馬ノ立法ニ於ケル嘗テシユスチニアン帝在位ノ時ニ當リ大ニ簡易ノ方法ヲ設定セリ其規則タル凡テ死者ノ遺留財產ハ相續ノ順序ニ適當ナル最近ノ親族ニ屬スル者ト爲セリ蓋シ此方法ヲ適用スルニ於テハ甚タ簡易ナリト雖モ其結果ニ於テハ最モ不正ノ規則トス何トナレハ一家ノ財產ヲシテ盡ク他家ニ移轉セシムルニ至ルカ故ナリ例之ハ甲カ其父ヨリ相續チ爲シ得タル所ノ財產ト其父系ノ傍系親及ヒ最モ近親ナル母系ノ傍系親トチ遺留シテ死スルトセハ父系



ノ親族カ死者ノ家産ニナシタル財産ヲ母系ノ血族親獨リ之ヲ相續  
シ以テ得ル者トス是レ不正ノ極ト謂ハサル可ケンヤ

第七百三十三  
條及第七百三  
十四條

〔七十九號〕 此二箇ノ危險アルヲ以テ佛蘭西ノ法律ハ其古法ト羅馬ノ

法律ト相反シタル中庸ヲ折衷シ以テ一ノ方法ヲ設立セリ蓋シ佛蘭  
西ノ法律ハ相續ノ財産ヲ傳與スルニ財産ノ性質及ヒ其出所ヲモ區  
別セスシテ凡テ死者ノ遺留スル財産ハ同一塊ノ物トナシ敢テ論セ  
サルナリ

然リ而シテ相續者ノ最近親ノ血族親ニノミ特別ニ財産ノ全部ヲ授  
與セスシテ之ヲ二箇ニ分別ス即チ其一ハ父系ニ屬シ其他ハ母系ニ  
屬ストス蓋シ母系ヨリ由來スル處ノ財産ハ他ノ系ニ移傳スト雖モ  
唯、其半ヲ失フニ過キサルノミ(八十二號及ヒ八十三號參觀ス可  
シ)

〔附言〕

然レモ佛蘭西ノ法律カ遺物傳與ヲ規定スルニ當テヤ其財  
産ノ出所ヲ以テ之ヲ規定スルノ地位三箇アリ即チ民法第三百五  
十一條、第七百四十七條及ヒ第七百六十六條是ナリ

夫レ法律ニ於テハ父系之傳與歸於父系、母系之傳與歸於母系、此規則  
ト混同ス可カラサル剖析ノ方法ヲ設定シタルヲ見ル可シ抑、古ノ規  
則ニ據ルニ財産ノ全部ハ其由來スル系ニ歸屬スト雖モ今日ニ於テ  
ハ財産ヲ折半シ而シテ父母兩系ニ歸屬セシム故ニ父系之傳與歸於  
父系、母系之傳與歸於母系、トノ規則ハ「ドイミヂチム、パテルニス  
半屬於父系、ドイミニチム、マタルニス」半屬於母系、ノ規則ニ變換  
シタリト謂フ可シ

而シテ佛蘭西ノ法律ニ於テハ再剖ノ弊ハ跡ヲ斷チ其父母兩系ニ屬  
スル財産ハ之ヲ再別セスシテ名代相續ノ地位ヲ除キ全ク父系又ハ



母系ノ最近親ナル血族親ニ屬ス可シトス例之ハ余カ父ノ父系ノ血族親又ハ其母系ノ血族親ヲ遺留シテ死スル時ハ是等ノ血族親ハ凡テ余ニ於テハ父系ノ血族親タリ(七十四號參觀)然レモ其父系ニ屬スル財産ノ部分タリトテ新ニ之ヲ分別シ以テ其一ハ余カ父ノ父系ノ血族親其他ハ其母系ノ血族親ニ與ヘサル者トス即チ其財産ハ全ク余ノ父系ノ血族親中最近親ナル者之ヲ收取ス可キナリ

〔八十號〕凡ソ慣習ニ因レハ同父母ノ血族親ハ異父又ハ異母ノ血族親ヲ除却ス往古ハ此除却スル權利ヲ稱シテ二箇ノ血統ノ特權ト云ヒシカ今日ニ於テハ之ヲ廢絶セリ蓋シ同父母ノ血族親ハ異母、異父ノ血族親ヲ除却セスト雖モ其血族親ハ二箇ノ系ニ屬スルカ故ニ父系ニ於テハ異母ノ血族親ト共ニ相續ヲ爲シ而シテ母系ニ於テハ異父ノ血族親ト共ニ相續スルカ故ニ同父母ノ血族親ハ二箇ノ部分アリ

トス然ルニ異母又ハ異父ノ血族親ハ唯一部ノミヲ有スルノミ

〔八十一號〕死者カ數〇系ノ一ニ於テ相續ス可キ階級ノ血族親ヲ一切遺留セサル時ニハ其他〇系ノ血族親ト雖モ此地位ニ限り全部ノ遺物ヲ收取スルヲ得可シ

〔八十二號〕凡テ相續ヲ爲スニ遺留財産ヲ二箇ニ分別シ其一ハ父系ニ傳與シ其二ハ母系ニ傳與スルノ規則ハ死者ノ尊屬親又ハ傍系親ニ遺物ヲ傳與スル時ノミニ適用ス可シ(第七百三十三條)然レモ若シ死者カ兒子ニシテ相續ヲ爲ス時ハ此規則ヲ以テ適用ス可カラス蓋シ其兒子ハ凡テ所出ノ父母ヲ同フナルカ故ニ父母兩系ノ血族親ニシテ各、其兩系統ニ屬ス故チ以テ各自凡テ同等ノ權利ヲ有セルナリ又右ノ相續ノ分別タル其財産ノ父母兩系ノ傍系親ニ傳與スル地位ニモ適用ス可カラス之ヲ例セハ死者ノ遺留財産ハ凡テ父母ノ兄弟



姉妹又ハ其卑屬ノ親ニ傳與スルカ如キ是ナリ

第七百三十三條第二項ニ於テハ假令ヒ死者ハ父母兩系ニ屬セサル血族親ヲ殘スト雖モ或ル地位ニ於テハ相續ハ全ク父母兩系中ノ一系ヲ除去シ他ノ系ノ血族親ニ傳與セラル、トアリ余輩ハ既ニ父母兩系中ノ一系ノ兄弟、姉妹、甥、姪ハ尊屬ノ親ヲ除却シ(父母ノ地位ヲ有セサル尊屬親)及ヒ尊屬親ノ屬セサル系統ノ傍系ノ親トヲ除却スルトテ聞セリ(七十七號參觀)余輩ハ尙ホ之ヲ次後ニ説明ス可シ蓋シ假令ヒ死者ハ父系ニ於テ尊屬親(其父外ノ尊屬親)又ハ傍系親ヲ遺留スルト雖モ異父ノ兄弟ハ全ク遺物ヲ相續スルヲ得可シ又異母ノ兄弟ハ母系ノ尊屬親(父母外ノ尊屬親)及ヒ傍系親ヲ除却スル者トス(第七百五十二條ノ末項參觀)

(八十三號) 故ニ佛蘭西法律ニ於テハ父母兩系中一方ノ血族親ハ其他ノ血族親カ死者ノ家産中ニ傳與シタル財産ヲ全取スル地位アリト知ル可シ例之ハ爰ニ甲アリ其母ニ相續シ以テ得タル財産ノミト異母ノ兄弟及ヒ其母ノ父又ハ其兄弟即チ母系ノ祖父又ハ伯叔父ヲ遺留シテ死スルトセハ異母ノ兄弟ノミ獨リ相續ヲ爲ス可シトス故ニ母系ヨリ傳來スル財産ハ全ク父系ニ傳與スルナリ此結果ハ佛蘭西法律ノ趣旨ト背馳スルノミナラス又不公平ナシト謂フ可カラス然リト雖モ法律上此點ノ明瞭ナルヲ如何セン(第七百五十條、第七百四十六條及第七百五十二條參觀)

(八十四號) 余輩ハ前項ニ於テ法律上相續人ニ許多ノ階級ノ分別有ルヲ陳述セリ夫レ相續ノ順序ヲ論スルニ血族親ト血族親トヲ對照シテ此人ハ死者ノ最近親ナル血族親ナレハ必定其相續ヲ爲ス可シト云フヲ得ス凡ソ其順序ヲ說シハ血族親ノ階級ヲ對照ス可シ故ニ第



一級ハ第二級ヲ除去シ第一級ニ除去セラレタル第二級ハ第三級ヲ除却スル者トス然ラハ則チ第一級ノ血族親ハ假令ヒ次後ノ階級ノ血族親ヨリ最遠親ナリト雖モ第二級ノ親戚ヲ除却ス可シ此故ニ第一級ニ在ル卑屬親ハ第二級ニ在ル兄弟、姉妹ヲ除却ス即チ死者ノ二等親ナル兄弟ハ第三等親ナル血族親又ハ曾孫ニ依テ除却セラレ、者トス

〔八十五號〕 相續ヲ分別シテ二箇トナス即チ其一ヲ父系ニ傳與シ其他ヲ母系ニ傳與スル時其遺物ハ父母兩系ノ最近親ノ血族者之カ相續ヲ爲ス可キカ故ニ其一系ハ等親上最近親ノ地位ニ在リト雖モ他ノ系統ノ血族親ヲ除却スルヲ得ス故ニ母系ニ於テ第十二等親ニ位スル血族親ハ父系ノ第一等親又ハ第二等親ニ位スル血族親ト共ニ相續ス可シ

〔八十六號〕 爰ニ略言スルニ凡テ相續ハ血族親ノ地位ニ因ラサル可カラズ故ニ相續人ハ死者ノ尊屬親、卑屬親、兄弟、姉妹及ヒ兄弟、姉妹ノ卑屬親又ハ通常傍系親ナルカヲ見ル可シ又之ヲ再言スレハ相續人ハ即チ第一級、第二級、第三級、第四級又ハ第五級ナルカヲ觀察セサル可カラズ相續ス可キ血族親ノ階級ハ既ニ右ノ如シ今ヤ等親ノ階級ノ中何人カ能ク相續人タルノ特權ヲ有スルカ曰ク親近ノ血族親之カ相續人タリ

然レモ或ル地位ニ於テ卑屬親、兄弟、姉妹又ハ其卑屬親ノ地位代理ヲ許サル、トアリ抑、代理ノ効能ハ或ル血族親ヲ一級又ハ數級昇騰セシムルニ在ルカ故ニ其血族親ハ眞實又ハ代理ノ効能ニ因テ最近親ノ相續人トナルトアリ〔第七百三十九條以下參觀〕是ニ由テ之ヲ觀レハ相續人ノ特權ヲ有スルハ眞實最近親ノ者ノミナラス又代理ノ効



ニ因リ其特權ヲ占ムル者アリ

○第二款 名代相續

第七百三十九條及第七百四十四條

第八十七號 第一

語意ノ解

第七百三十九條ハ名代相續ノ語ヲ定解シテ曰ク名代相續トハ法律ノ想像ニシテ因テ以テ代理者カ被代理者ノ席位等級及ヒ其權利ヲ得ルチ云フナリト蓋シ此定解ニ附テハ許多ノ駁議アリ即チ左ノ如シ

第一 此定解タル何人カ代理者トナリ又何人カ能ク被代理者トナリ得可キカヲ確定セサル是ナリ

第二 席位及ヒ等級ノ語ハ相續ノ事項ニ於テハ同一ノ意義ヲ含有セリ然ル時ハ其二語中ノ一ハ贅語ナリト謂フ可シ

第三 其代理者ハ被代理者ノ權利ヲ得ルト云フハ甚ダ確正ナラストス蓋シ死者ノ生存中ニ既ニ死去セシ者ニ非サレハ代理スルチ得

サルチ以テ法トス(第七百四十四條)而シテ第七百二十五條ノ法文ニ據ルニ死者ノ死去ノ時ニ既ニ没シタル相續人ハ其相續ニ於テ些少ノ權利ヲモ有セサルナリ何トナレハ性命ヲ没シタル以上ハ其者ハ既ニ相續スルノ能力ヲ有セサルカ故ナリ此ヲ以テ被代理者ハ死者ノ相續ニ些少ノ權利ヲ有セスト然ラハ則チ單ニ代理者ハ被代理者ノ權利ヲ得ルトハ謂フ可カラス即チ代理者ハ被代理者ノ死者ヨリ後存スル時ニ有ス可キノ權利ハ總テ獲得スルト謂ハサル可カラ

第四 二三ノ論者ノ說ニ名代相續ヲ以テ想像ノ如ク思考スルハ甚ダ浮輕ノ思考ナリトセリ即チ其說ニ曰ク法律ハ正直ニ命令規定ス可キナリ何ソ想像ヲ俟タンヤ故ニ名代相續ハ法律ノ想像ト謂ハスシテ純直ニ法律上恩惠ナル規則ト謂フ可キナリ若シ又名代相續ニ

總則



想像アリト思考スルモ其想像ハ唯數人ノ代理者有リト雖モ一人ノ被代理者ノ爲メナル一箇ノ代理ナリトスル是ナリ  
 然レモ又想像ノ語ノ存スルヲ以テ反テ可トスルノ學士アリ其言ニ曰ク名代相續ハ既ニ死去ノ人ヲ其兒子相續人ニ代ツテ蘇生セシムルカ如キナリ故ヲ以テ名代相續ナル者ハ果シテ想像ナリト謂ハサル可カラス且又ドマント氏及ヒドモロンブ氏ハ之ヲ解シテ曰ク抑、想像ノ語ヲ此ニ用フル時ニハ一箇ノ便益有リ何トナレハ立法者ハ此語ヲ用ヒテ眞實ナラサル事實ヲ僞作スルト公言シテ簡ニ其意思ヲ吐出スルノ利有レハナリ其意思トハ右ノ事實ヲシテ眞實ナラシメハ其眞實ヨリ發出ス可キ結果ヲ此想像ノ事實ニ適用セシムル是ナリ

蓋シ名代相續ハ法律上ノ規則ナルニモセヨ亦法律上ノ想像ナルニモセヨ總テ代理者ハ被代理者ノ權利義務ヲ受ク可シ但シ其權利義務トハ被代理者カ死者ヨリ後存スル時ニ有ス可キノ權利及ヒ其負擔ス可キ義務ナル而已(第八百四十八條ノ說明參觀)  
 然ラハ則チ名代相續ヲ左ノ如ク定解シテ可ナラン蓋シ名代相續トハ死者ノ男子、女子、兄弟、姉妹ナル卑屬親カ其尊屬親ノ先死スルニ遇ヒ其家族中空虛トナレル等級ニ昇リ其尊屬親ノ席位ニ於テ其尊屬親ノ受ク可キ部分ヲ相續スル法律ノ規則ヲ謂フ但シ其卑屬親ハ尊屬親ノ後存スル時ニ受ク可キ權利ノ部分ノミヲ受ル者トス又右ノ定解ヲ簡ニ言フ時ハ名代相續トハ最近親ノ血族親ト同一ノ地位ニ他ノ疎遠ナル血族親ヲ置カンカ爲メ一級又ハ數級上騰セシムル或ル血族親ニ對シテ恩惠ナル特權ヲ謂フ

〔八十八號〕 第貳 名代相續ノ理由



何レノ事項何レノ條件ニ於テ名代相續有リヤ何レノ血族親カ代理者トナリ被代理者トナリ得可キ乎●凡ソ相續ハ順序ハ天然愛情ノ厚薄ハ次序ニ因テ之ヲ規定スル者ナリ此ヲ以テ宗系傍系ヲ問ハス各系ニ於テハ最近親ハ血族親相續ヲ爲ス可キ者トス何トナレハ死者カ他ハ遠親ハ血族親ヨリ近親ハ血族親ニ對シテ最モ活潑ナル愛情ヲ有セルカ故ト法律ハ想像スレハナリ蓋シ名代相續ハ意モ亦此意ニ根據セリ例之ハ茲ニ死者ヨリ先死スル血族親アリ死者ハ常ニ此人ニ向テ非常ノ愛情ヲ有セリ此ヲ以テ法律上ヨリ之ヲ見レハ死者ノ心中ニ於テハ必ス此人ニ相續ヲ爲サシム可シト想像セラレ故ニ法律ハ其先死者ノ血族親ニ名代相續ノ權ヲ付與スル者トス自己ノ息子ノ死亡ヲ痛悼スル父ハ其息子ヲ慈愛スルノ情ヲ以テ其兒子ノ卑屬親ニ及ホス可シ其卑屬親ハ祖父ノ心中ニ於テ其息子ト

同一ノ席位ヲ有スル者ナリ故ニ祖父ノ相續ノ時ニ若シ其父カ生存スレハ則チ其有ス可キノ權利ヲ其卑屬親ノ有スルハ正當ナリトス是ヲ以テ死者ノ男子女子ハ其卑屬親ニ代理セラレ、者トス自己ノ兄弟姉妹ヲ失フ者ハ其兄弟姉妹ノ卑屬親ニ其愛情ヲ及ホス可シ故ニ死者ノ兄弟姉妹ハ死者ノ相續ノ時其卑屬親ニ代理セラレ、者トス

凡ソ死者ノ心中ニハ其尊屬親カ先死シタル死者ノ父母ヲ代理スルトハ決シテ想像セラレ可キナリ蓋シ吾人ノ尊屬親ノ漸遠親ナルニ隨ヒ吾人之ヲ愛スルノ情モ自然輕薄ニナル可シ故ニ最近親ノ尊屬親ハ各系ニ於テ其遠親ノ尊屬親ヲハ除却ス可シ是ヲ以テ先死ノ尊屬親ハ其後存ノ尊屬親ニ代理サレサル者トス兄弟姉妹外ノ傍系親及ヒ兄弟姉妹ノ卑屬親ニ於テハ最近親ノ傍系



親ハ則チ死者ノ最モ寵愛セシ所ノ者ナルカ故ニ其人ハ各系ニ於テ最遠親ナル傍系親ヲ除却シテ獨リ相續ス可シ此ヲ以テ先死ノ傍系親カ死者ノ兄弟、姉妹ナラサル時ハ其兒子ニ代理セラレサル者トス是ニ由テ之ヲ觀レハ名代相續ノ在ル場合ハ左ノ如クナル可シ

第一 卑屬親ノ級位

第二 兄弟、姉妹又ハ兄弟、姉妹ノ卑屬親ノ級位

右ニ反シテ名代相續ノ在ラサル場合ハ即チ左ノ如シ

第一 尊屬親ノ級位

第二 兄弟、姉妹又ハ兄弟、姉妹ノ卑屬親外ノ傍系親ノ級位

故ニ卑屬親ニ代理サル、者ハ左ノ如シ

第一 卑屬親

第二 死者ノ兄弟、姉妹

〔八十九號〕 然レモ死者ノ卑屬親又ハ死者ノ兄弟、姉妹ハ死者ヨリ先死スル時ニ非サレハ他ヨリ代理セラレサル者トス何トナレハ若シ其人等ハ死者ヨリ後存スル時ニハ其等級ハ空虛ナラサルカ故ニ其卑屬親ハ固ヨリ代理スルヲ得サレハナリ是ヲ以テ生存スル人ヲ代理

セスト云フノ規則ヲ設定セリ而シテ又此規則ヨリ下ノ結果ヲ生ス可シ即チ相續ヲ拋棄シ又ハ相續ノ地位ヲ失ヒ或ハ之ヲ除却セラレタル相續人ハ他ヨリ之ヲ代理セスト云フ是ナリ例之ハ甲カ其子乙及ヒ先死シタル兒子丙ノ兒子丁ヲ遺留シテ死シタリ然ルニ乙カ甲ノ遺物ヲ相續セスシテ之ヲ拋棄シタル時ニハ丙ノ兒子丁獨リ相續チナシ乙ノ兒子戊ヲ除却ス可シ何トナレハ乙ノ兒子戊ハ現ニ生存スル父ニ代理スルヲ得サルヲ以テ第二級ニ居ルモ丙ノ子ハ名代相續ノ恩惠ヲ以テ第一級ニ昇騰スルノ差異アレハナリ〔六十九號參觀



スヘシ)

〔九十號〕 若シ死者ノ男子、女子、兄弟、姉妹ノ先死スル時ハ其先死者ノ兒子ハ總テ自己ノ權ニ因リ死者ノ相續ヲ爲スノ席位ニアラサル以上ハ名代相續ノ權無シトス蓋シ名代相續ハ唯一箇ノ補助タルニ過キサルナリ即チ補助トハ死者ノ遺物ヲ相續スル能力アル血族親ニシテ若シ法律上ヨリ之ヲ補助セサル時ニハ他ノ近親ノ血族親ノ爲メニ遺物ヲ先取セラル、ニ至ル可シ故ニ其不幸有ル血族親ニ法律上ヨリ相續ノ權ヲ許與スル者ナリ故ニ代理ヲ以テ相續ヲ爲スノ人ハ其本身ニ屬スル固有ノ相續ノ席位ヲ保有セサル可カラス(ワレット氏ノ說ニ據ル)是ヲ以テ相續ノ地位ヲ失シタル旨ヲ宣告セラレタル相續人ニハ名代相續ハ無キ者トス

〔九十一號〕 或人問テ曰ク養子ノ正出ノ兒子ハ其父ヲ代理スルヲ得可

キカ曰ク此問題ハ下ノ問題ノ解答ニ因テ之ヲ決ス可シ即チ養子ノ兒子ハ其父ノ養父ノ相續ニ本身固有ノ相續權ヲ有ス可キカ曰ク若シ此兒子カ茲ニ其相續ノ席位ヲ有スル時ハ固ヨリ名代相續ノ權アリト雖モ若シ之レ無キ時ハ名代相續ノ權モ亦無キ者トス(第七百四十五條ノ說明〇百五號參觀)

九十二號) 養子ハ養父ノ尊屬親又ハ其兄弟、姉妹ノ相續ニ代理ノ權利ヲ說出スルヲ得ス何トナレハ養子ハ養父ノ血族親ノ財產ニ對シテ自己ノ權利ヨリ相續ヲ爲スノ權ヲ有セサルヲ以テナリ(第三百五

條參觀)

九十三號) 死者ノ男子、女子、兄弟、姉妹ハ其正當ノ卑屬親ニ依ルニ非サレハ代理サル、ヲ得ス認了譯者曰ク即チ吾子トシタル私生ノ子ハ代理者タルヲ得ス何トナレハ私生ノ子ハ其父母ノ血族親ノ相續ニ

名代相續



自己ノ權利ヨリ相續スルノ席位ヲ有セサルカ故ナリ(第七百五十六條參觀)○斯ノ如ク私生ノ子ハ其父母ノ代理タルヲ得スト雖モ自己ノ正當ノ兒子ニ依テ代理セラル、ヲ得可キナリ

〔九十四號〕凡ソ人ノ代理ヲ爲スニハ其人ノ相續ヲ爲スヲ要セス唯其人ノ卑屬親タルヲ以テ可ナリトス例之ハ余ノ父死ス而シテ余ハ其相續ヲ拋棄セリ然レモ若シ此期ニ臨ミ余ハ余ノ父系ノ祖父ノ相續開始スル時ニハ余ノ父ニ代理シテ其相續ヲ爲スヲ得可キ者トス何トナレハ其代理タルヤ余カ父ノ相續中ノ部分ヲ代理スルニ非サルナリ又余ノ代理權アルハ余カ父ヨリ之ヲ受ルニ非ス法律上ヨリ之ヲ得タルナリ是ニ由テ其權利カ吾一身上ニ生シタル者ナリ然ル時ニハ余カ其權利ヲ有スル以上ハ余ノ父ノ相續人タルト否トヲ問ハス唯ニ余カ父ノ卑屬親タルノ故ヲ以テ父ヲ代理スルノ權利ヲ有ス

ルナリ是ヲ以テ一旦死者ノ相續ヲ拋棄スル者ト雖モ其死者ヲ代理スルヲ得ルノ規則アル所以ナリ

〔九十五號〕

何人ト雖モ中間ノ等級ヲ超越シテ名代相續ヲ爲スヲ得ス

ベルヤサルトム、エト、チミン、メチ

蓋シ第一級ノ等親ニ昇達シテ名代相續ヲ爲サンニハ代理者カ自己ノ等級ト第一級トノ中間ノ等級ヲ逐一經履シ得ルヲ要ス可シ故ニ若シ中間ノ等級中ノ一カ虛位ナラサル時ハ名代相續ヲ得可カラサル者トス例之ハ爰ニ甲カ乙丙ノ二人ノ子ヲ有セン然ルニ丙カ其子丁及ヒ其孫戊ヲ遺留シテ先死シタリ其後チ丙ノ父甲モ亦幾許クモ無フシテ死去シタリ儲テ丙ノ子丁ハ其父ノ代理ヲ爲シテ其伯父乙ト俱ニ甲ノ相續ヲ爲シ得可キニ之ヲ拋棄シテ相續セサルカ或ハ丁ハ相續ノ地位ヲ失フヲ以テ除却セラレタリトセン然ル時ニハ丙ノ孫戊ハ其祖父丙ヲ代理シテ其祖父乙ト共ニ相續スルヲ得ルトス

マダナシ、グラントンクル



ルカ曰ク否ナ蓋シ其父丙ヲ代理スルニハ丁ノ席位ヲ占有セサル可  
カラス然ルニ其席位ハ現今生存スル丁ノ居在スル所トナリテ未ダ  
空虛ナラサルカ故ニ戊ハ之ニ超越シテ昇級スルヲ得サレハナリ

第七百四十三(九十六號)

凡テ名代相續ニ於テ遺留財産ヲ分配スルハ何レノ場合ト  
雖モ各族ノ數ニ因テ之ヲ等分スル者トス故ニ代理者ハ數員有リト  
雖モ被代理者カ後存スル時ニ有ス可キノ權利ノミヲ收取スルヲ得  
若シ總テノ代理者カ被代理者ノ第一級親ナル時ハ各族ニ分與シタ  
ル部分ヲ各人ニ再分ス若シ然ラサル時ニハ各族ニ之ヲ分割スルノミ  
〔九十七號〕 余輩ハ名代相續ノ總理ヲ了解シ得タリ今爰ニ民法ノ法文  
ヲ假リ數例ヲ掲ケ以テ其理ヲ明カナラシメントス  
〔卑屬親ノ直系ニ於ケル名代相續ハ無限ナル可シ云々〕第七百四十條  
第一項○是ニ由テ之ヲ觀レハ死者ノ兒子ハ其兒子及ヒ孫曾孫等ニ

第七百四十條

因テ代理セララル、ヲ得可キナリ

〔名代相續ハ何レノ場合ト雖モ之ヲ允許ス可シ云々〕第七百四十條第

二項○之ヲ詳解スレハ即チ左ノ場合ニ於テ名代相續有ル可シ

第一 (或ハ代理ハ先死シタル息子又ハ息女ノ卑屬親カ死者ノ息子

又ハ息女ト共ニ相續スルノ結果ニ至ルアリ) ○例之ハ死者カ生存ノ

息子甲ト先死ノ息子乙ノ兒子丁トヲ遺シテ死センニ乙ノ兒子丁ハ

其伯父甲ト俱ニ相續スルカ爲メニ乙ノ代理タルヲ得可シ然レモ乙

ノ兒子ハ其父乙カ生存スル時ニ有ス可キ部分ニ非サレハ收取スル

ヲ得ス何トナレハ遺物ノ收取ニ於テハ乙カ先死スレハトテ乙ノ部

分ヲ甲カ收取スルノ利ヲ受クルヲ得ス又甲ノ部分ヲ乙ノ兒子カ奪

却シ及ヒ損害ヲ甲ニ被ラシムルヲ得サレハナリ故ニ財産分派ハ各

族ニ因テ之ヲ爲スモ各人ニ因テ之ヲ爲サ、ルナリ即チ甲ト乙ノ兒



子丁トニ財産ヲ等分スル者トス  
 第二(或ハ代理ハ同等親ヲ有セル卑屬親ニシテ俱ニ相續ヲ爲サシムル結果ニ至ルアリ)○例之ハ甲カ二人ノ兒子乙丙ヲ有セリ其中乙ハ一人ノ兒子丁ヲ遺シテ死シタリ然ルニ丙モ亦其先死シタル戊ノ兒子癸庚ノ二子ヲ遺シテ死シタリトセハ丙ノ孫癸ハ死者ノ第三級ニ位シ乙ノ兒子丁ハ第二級ニ居ルト雖モ俱ニ并列シテ相續ヲ爲シ得可キナリ何トナレハ名代相續ハ恩惠ヲ以テ等級ノ差異ハ自然消滅スル者ナレハナリ即チ財産ノ分派ハ各族ニ因テ之ヲ爲シ半ハ乙ノ兒子丁ニ分與シ半ハ丙ノ孫癸ニ傳與ス可シ  
 第三(或ハ代理ハ死者ト同等級ノ卑屬親等ヲシテ相續セシムル結果ニ至ルアリ云々)○例之ハ爰ニ甲ノ息子乙丙有リ乙ハ其一子丁ヲ遺シ丙ハ其孫戊癸ヲ遺シテ死去シ其後チ甲モ亦死シタリ此時乙ノ

兒子丁ハ丙ノ孫戊癸ト俱ニ相續ヲ爲ス可キナリ然レモ或ハ駁シテ曰ク孫ハ死者ニ對シテ皆ナ同級親タリ故ニ自己ノ權ニ因リ相續ヲ爲ス可シ焉ソ名代相續ノ補助ヲ要センヤト○曰ク抑名代相續ヲ允許スルハ財産ヲ人員ニ配分スル不正不義ナル結果ヲ防止スルカ爲メナリ例之ハ今爰ニ甲ハ乙丙ノ息子ヲ有セリ其中乙ハ一人ノ兒子ヲ有シ丙ハ十人ノ兒子ヲ有セリトセン然ルニ若シ乙及ヒ丙ハ其父ヨリ後存スル時ハ其財産ヲ等分シ各其半部ヲ相續ス可シ今乙丙俱ニ先死シタリト想像センニ此時其兒子等カ自己ノ權ニ因リ祖父ノ相續ヲ爲シ財産ヲ各人ニ配分スルトセハ如何ナル結果ヲ生スルカ即チ各兒子ハ十一分ノ一ノミヲ相續ス可シ然ル時ハ丙ノ十子ハ過分ノ利益ヲ受クルト謂フ可シ是レ乙丙カ其父ヨリ先死スルカ爲メニ斯ノ如キ不義傷害ナル結果ヲ生スルニ非スヤ何トナレハ十子



ノ父ノ相續權ハ財産ノ半部ニ過キサルニ其十子ハ財産ヲ十一分シ其十ヲ相續スルハ是レ父ノ權ヲ超越スルカ故ナリ蓋シ名代相續ハ此ノ如キ不義ノ弊害ヲ豫防スト謂フ可シ何トナレハ名代相續ニ於テハ先死シタル兒子ノ子ハ其父カ死者ヨリ後存スル時ニ收取ス可キ部分ニ非サレハ收受スルヲ許サストナスカ故ナリ

〔九十八號〕 若シ各族ニ各人員ノ同數アル時ニ名代相續及ヒ遺物ノ分派ハ如何ス可キカ曰ク例之ハ甲カ乙丙二人ノ子ヲ遺シテ死シタリ其中乙丙ハ各二人ノ子ヲ有セリ然ルニ若シ乙丙カ其父ノ相續ヲ拋棄スルカ又兩人共相續ノ地位ヲ失スル旨ヲ宣告セラル、カ或ハ二人ノ中一人ハ相續ノ地位ヲ失ヒ他ノ一人ハ相續ノ拋棄ヲ爲シタル時ハ其兒子ハ自己ノ權ニ因リ甲ノ相續ヲ爲ス可シ而シテ其財産ハ各人ノ數ニ分配スル者トス故ニ各兒子ハ平等ノ部分ヲ受ク即チ本

例ニ於テハ四分ノ一ヲ受ク可シ若シ夫レ乙丙俱ニ死者ヨリ先死スル時ハ其兒子等ハ名代ヲ以テ相續ヲ爲ス可シ而シテ其財産ハ各族ノ數ニ分配ス即チ其半部ハ乙ノ二人ノ子ニ與ヘ他ノ半部ハ丙ノ二人ノ子ニ與フ可シ各兒子ハ確定ノ四分ノ一ヲ受取ルナリ然ラハ則チ各族ニ於テ死者ノ孫同數アル時ハ其死者ノ孫カ相續ヲナスハ自己ノ權ニ因ルカ又ハ代理ニ因ルカヲ辯明セサル可カラズ即チ其辯明ニ於テ二箇ノ便益アリ曰ク

第一 自己ノ權ニ因リ相續スル孫ハ其死者ヨリ贈與又ハ遺囑ニテ受取リタル物ヲ死者ノ相續ノ時ニ返還ス可シ然レ其父カ此名義ニテ死者ヨリ受取リタル物ヲハ返還セスシテ可ナリ然ルニ代理ヲ以テ相續スル孫ハ其父カ死者ヨリ贈與ノ名義ニテ受取リタル物ヲモ盡ク返還セサル可カラズ(第八百四十八條)



第二 今爰ニ四人ノ孫アリ此諸孫カ自己ノ權ニ因リ相續スル時ニ其中ノ一人カ之ヲ拋棄セハ其部分ハ他ノ三人ノ孫ニ付加ス可シ故ニ三人ノ孫各財產ノ三分ノ一ヲ受取ル可キナリ然ルニ其諸孫カ代理ヲ以テ相續スル時ハ其一人ノ拋棄シタル部分ハ拋棄者ノ兄弟ノミチ利ス可シ何トナレハ其兄弟ハ其族中ニ存スルヲ以テ其族ニ付與シタル部分即チ遺物ノ半部ヲ受取ル可キカ故ナリ(第七百八十六條)

是ニ由テ之ヲ觀レハ孫ハ自己ノ權ヲ以テ相續ヲ爲スカ又ハ代理ヲ以テ相續ヲ爲スカヲ區別セサル可カラズ即チ其區別ニ於テ三箇ノ益アリ曰ク

若シ自己ノ權ヲ以テ相續ヲ爲ス時ニハ

第一 人員ニ財產ヲ分派ス

第二 死者ヨリ父ニ贈與シタル物ヲ返還セス

第三 一人ノ孫ノ拋棄シタル部分ハ他ノ孫チ利ス而シテ代理ヲ以テ相續スル時ハ

- 第一 財產ハ各族ニ分派ス
- 第二 死者カ父ニ與ヘタル物ヲ返還スル義務
- 第三 拋棄シタル部分ハ拋棄者ノ族中ニ在ル者チ利ス

第七百四十二條

(九十九號) 夫レ名代相續ハ傍系親中先死シタル兄弟、姉妹ノ兒子ノ爲メニ之レ有ル可シ而シテ其名代相續ハ無限ナリトス即チ死者ノ姪、從孫、從姪孫ノ爲メニ名代相續アル可シ余カ前ニ卑屬親ニ附キ代理  
ブチヌブチアリエールズチヌブチ  
 ノヲチ説明セシカ之ヲ爰ニ適用ス可シ

第七百四十一條

(百號) (尊屬親ニ名代相續ハアラス云々) 例之ハ甲カ其祖父、兄弟、姉妹又ハ兄弟、姉妹ノ卑屬親ヲ遺留シテ死去シタランニハ何人カ相續ヲ



爲ス可キカ曰ク兄弟、姉妹又ハ其卑屬親ハ唯、獨リ相續ヲ爲ス可シ然  
 ルニ若シ祖父カ其息子ノ代理ヲ爲シ其孫ノ相續ヲ爲ストセハ祖父  
 ハ死者ノ兄弟、姉妹又ハ其尊屬親ト遺物ヲ共配ス可シ何トナレハ第  
 七百四十八條及ヒ第七百四十九條ニ據ルニ父ハ死者ノ兄弟又ハ姪  
 男ニ除却セラレサレハナリ○又一例ヲ掲ケンニ爰ニ死者カ其父  
 系ニ於テ死者ノ祖父ト其曾祖父トヲ遺留シテ死去シタリ此時ニハ  
 祖父ハ等親ノ第二級ニ位スルカ故ニ其系統ニ傳與スル遺留財産ノ  
 半額ヲ獨リ收取ス可シ是レ祖父ハ其第三級ニ在ル曾祖父ヲ除却ス  
 ルナリ然ルニ名代相續ヲ尊屬親ニ允許スルトセハ曾祖父ハ死者ノ  
 祖母ノ等級ヲ假リテ祖父ト共ニ相續スルヲ得可シ

〔百一號〕 兄弟、姉妹又ハ兄弟、姉妹ノ卑屬親外ノ傍系親ニ名代相續ハア  
 ラス云々○例之ハ甲カ從兄弟乙ト先死ノ從兄弟丙ノ兒子トヲ遺

留シテ死去シタランニハ誰カ相續ヲ爲ス可キカ曰ク乙之ヲ爲サン  
 蓋シ丙ノ兒子ハ自己ノ權ニ因リ乙ト共ニ相續ヲ爲スヲ得ス何トナ  
 レハ乙ハ等親ノ第四級ニ在ルモ丙ノ兒子ハ第五級ニ在レハナリ又  
 丙ノ兒子ハ代理ニテモ乙ト共ニ相續ヲ爲スヲ得ス何トナレハ其兒  
 子ハ死者ノ兄弟ノ子ニ非スシテ其從兄弟ノ兒ナレハナリ

〔百二號〕 轉與ト代理トヲ混雜ス可カラス彼ノ相續人カ其一身ノ爲メ  
 ニ開始スル相續ヲ自己ノ相續人ニ遺留スル時ニ所謂ル轉與ナル者  
 アリト謂フ例之ハ乙カ甲ニ相續シテ其相續人丙ヲ遺留シテ死去シ  
 タランニハ乙ハ其遺留財産ヲ丙ニ轉與シ併セテ甲ノ相續ヲ丙ニ轉  
 與スル即チ是ナリ

今轉與ト代理トノ差異ヲ明解セン  
 第一 夫レ代理者ハ被代理者ノ權利ヲ有スルト謂フニ非ス若シ被



代理者カ死者ヨリ後存スル時ニハ被代理者カ保有ス可キ權利ヲ有  
スルト謂フニ在リ(八十七號第三項參觀然ルニ轉與ヲ受ル者ハ轉與  
者ノ爲メニ開始スルハ權利ヲ獲得スルニ在ルナリ

第二 代理ハ或ル人ノ利益トナル特權ナリ○而シテ轉與ハ然ラス  
何人タリヒ他ノ相續ヲ爲シ後チ死去シテ他ヨリ受得タル相續ヲ其  
相續人ニ轉與スルニ在リ斯ノ如クナルカ故ニ先死ノ息子ハ認了シ  
タル私生ノ子ヨリ代理サレスト雖モ(九十三號參觀)父ニ相續シタル  
息子ハ一身ノ爲メニ開始スル相續ヲ私生ノ子ニ轉與スルヲ得可シ

第三 人ノ相續ヲ辭却スル者ト雖モ其人ノ代理ヲ爲スヲ得可シ(九  
十四號參觀)然ルニ轉與ヲ受ケント欲スル者ハ必ス轉與者ノ相續ヲ  
承諾セサル可カラズ之ヲ轉與代理ノ差異トス

○第三款 卑屬親ニ授付スル相續

第七百四十五條

〔百三號〕

卑屬親ハ首先ニ相續ヲ爲シ他ノ相續人ヲ除却ス可シ卑屬親  
ハ如何ナル等親ナルニモセヨ卑屬親タルノ名義ヲ以テ最近親ノ血  
屬親ト雖モ之ヲ除却ス可シ(訴訟式第二百十七號參觀)例之ハ爰ニ甲  
カ其父ト其息子ノ兒子トチ遺留シテ死シタリ息子ハ其相續ヲ拋棄  
シタル時死者ノ孫ハ第二級ニ居ルト雖モ第一級ノ父ヲ除却ス可シ  
往昔ノ法律カ嫡男ニ授付セシ特權ハ今日ニ於テ廢滅セラレタルカ  
故ニ卑屬親ハ皆チ其尊屬親ノ相續ニ同等ノ權利ヲ有シ其父母ノ中  
一方チ異ニスル時ト雖モ同様ナリ○然レヒ或ル種ノ財產ト殊別事  
項トニ關シテ嫡男ノ地位ニ眞ノ特權在ルコト有リ例之ハ貴族ヲ維持  
センカ爲メ法律カ貴族ニ授付スル財產ハ嫡男ノ地位ニ因テ永遠ニ  
卑屬親ニ傳與スルカ如キ是ナリ(九百十五號參觀)

〔百四號〕

正出ノ子ト爲リタル兒子即チ私生ノ子ト正出トハ正出ノ子  
爲スヲ謂フ以下倣之

卑屬親ニ授付スル相續



ト同一ノ權ヲ有スルナリ(第三百三十三條)今養子ニ此例ヲ適用セン  
但シ下ニ差異アル可シ即チ正出ノ子ハ其父母ノ血屬親ニ相續ス可  
シト雖モ養子ハ養父ノ血屬親ニ相續スルノ權無キ是ナリ(第三百五  
十條)

〔百五號〕 養子ノ兒子ハ其父ノ養父ニ相續スルヲ得可キカ曰ク余ハ然  
ラスト思考スルナリ蓋シ其兒子カ養父ニ相續スルノ能力ヲ有セン  
ニハ必ス死者ノ血屬親ナラサル可カラス然ルニ余ハ法律上ニ於テ  
養父ト養子ノ兒子トノ間ニ血屬親ノ關係ヲ定メタルヲ見ス抑養子  
ヲ爲ストテ兩個ノ家族中ニ血屬親ノ關係ヲ設クルニ非スシテ兩個  
ノ家族中ノ兩人ニ血屬ノ關係ヲ設クル者ナリ故ニ養子ノ血屬親ト  
養父ノ血屬親トハ全ク其關係外ノ人ナリ是ヲ以テ養子ノ血屬親ト  
養父トノ間ニハ些少モ血屬親ノ關係ヨリ生スル効驗ヲモ有セサル

者トス

然レモ或人ノ說ニ曰ク蓋シ養子ヲ爲スノ趣意タル一箇ノ家族ヲ設  
ケン事ヲ欲スルニ在リ然ラハ則チ養子ヲ爲スノ人ハ養子ノ後胤ヲ  
以テ法律上ノ卑屬親ト爲サンコトヲ允許スル者ニ非スヤト曰ク其思  
想ノ誤謬タルハ既ニ法文上ニ明カナリ若シ養父ト養子ノ兒子トノ  
間ニ子孫ノ關係ヲ結成セシナラハ其血屬親ノ關係ヨリ互ニ雙務ヲ  
ル養育ノ義務ヲ負擔セサル可カラス然ルニ此義務タルヤ養父ト養  
子ノ間ノミニ存スルモ他ニ存セサルヲ如何センヤ(第三百四十五條)  
是レ其卑屬タルヲ得サル所以ナリ

又曰ク養父ト養子ノ兒子トノ間ニ禁婚アルハ即チ血屬親ノ關係ア  
ルヲ證據トスルニ非スヤ曰ク否ナ夫レ禁婚ハ些少モ關係ナキ養父ト  
養子ノ血屬親トノ間ニヌラ之レ有リ而シテ法律ニハ其人等ニハ血

卑屬親ニ授付スル相續



族親上些少ノ關係ヲ有セスト云ヘリ然ラハ則チ唯、此兩箇ニ禁婚アル所以ハ弊醜ヲ思慮スルノ故ニ出タルナリ  
 或人曰ク又養子ノ兒子ハ養父ノ姓氏ヲ被ムルニ因リ互ニ血族親ノ關係アリトセリ曰ク養子ハ養父ノ父ノ姓氏ヲ被ムルモ法律上養子ト養父ノ兒トノ間ニハ些シモ血族親ノ關係ヲ結成セサルハ何ソヤ夫ノ養子ノ兒子カ養父ノ姓氏ヲ被ムルハ是レ養父ノ血族親タルノ故ニ非ス蓋シ兒子ハ其父ノ姓氏ヲ被ムルト云フノ原則ニ據リ養子ノ兒子ハ其父ノ姓氏ヲ被ムルナリ且又養子ノ兒子ハ其父カ養子トナラサル以前ニ生誕シタル者ナル時ハ其兒子ハ養父ノ姓氏ヲ被ムラサルナリ斯ノ如クナルカ故ニ養子ノ兒子カ其父ノ姓氏ヲ被ムルニハ其父カ養子トナリタル以前ニ生誕シタル子ト其後ニ生誕シタル子トチ區別セサル可カラス故チ以テ概シテ養子ノ子ナレハトテ其

父ノ姓氏ヲ被ムランヤ蓋シ此區別タルヤ專恣ナル者ト謂フ可シ  
 余ハ謂ハントス比論又ハ擴論即チ論理ヲ推擴チ以テ養子ノ兒子ニ相續ノ權ヲ有セシムルヲ得サルナリト蓋シ法律ハ其權ヲ許與スルヲ欲スルナラハ之ヲ法文ニ明記スルナラン例之ハ我子ナリト確認シタル私生ノ子ノ兒子ハ其父ノ死スル時ニハ其遺物ヲ相續シ得可キチ明言スルカ如キ是ナリ(第七百五十九條參觀)然ルニ養子ノ兒子ニ於テハ斯ノ如キ明言アラサルナリ唯、其兒子カ父ニ相續スル時ハ養父カ兒子ノ父ニ贈與シタル財産ヲ保有スルノ權利ヲ法律上ヨリ許與セラル、ノミ(第三百五十一條參觀)夫レ養父ノ尊屬親、兄弟、姉妹チ除却シテ養父ノ財産ヲ獲得スルノ權利ト此保有ノ權利トノ間ニ緊要ナル差異アルナリ故ニ第二ノ權利アルモ第一ノ權利アリト云フヲ得ス又最モ正確ナル反面論チ以テ之ヲ察スルニ法律ハ第二



物ニ明言シテ第一物ニ默止スルカ故ニ法律上ニハ第二ノ權利モ第一ノ權利ヲ許與セサルナリト謂ハサル可カラス

〔附言〕 裁判辭令ハ本文ノ説ト相違セリ千八百六十八年五月三十日ノ「ナンシ」上等裁判所ノ判決ト千八百六十九年十月十日ノ大審院受理局却下文等ヲ參觀ス可シ

余輩ノ説ニハ養子ノ兒子ハ自己ノ權ニ因ルモ又代理ニ因ルモ養父ニ相續スルヲ得ス何トナレハ余輩カ上ニ開陳スルカ如ク(九十號)代理ヲ以テ相續ヲ爲スニハ死者ノ相續ニ本身固有ノ相續權ヲ有セサル可カラサレハナリ

〔百六號〕 第七百四十五條ニ卑屬親カ第一級ニ在リ而シテ自己ノ權ヨリ相續ヲ爲ス時ニハ財產ヲ等分シテ之ヲ其人數ニ分配ス可シ云々ト有リ○此法文ハ正確ナラストス即チ法文ニハ而ト記載アレトモ

之ヲ又ノ字ニ變換セサル可カラス蓋シ卑屬親ハ自己ノ權ヨリ相續ヲ爲ス時ニハ常ニ財產ヲ人數ニ分配ス可シト雖モ其財產ヲ人數ニ分配スルヲ有ルハ單ニ卑屬親カ第一級ニ在ル時ノミニ非ス又卑屬親カ最遠親ニ在テ最近親ノ卑屬親ノ尙ホ未タ生存スルカ爲メニ代理ヲ爲シ得可カラサル時モ亦財產ヲ人數ニ分配ス可シ例之ハ甲カ生存ノ兒子乙ト丙トヲ遺留シタリ乙丙ハ相續ヲ拋棄スルカ又ハ相續ノ地位ヲ失スルヲ以テ除却セラレタリト想像セン此時ハ乙丙ノ兒子ハ自己ノ權ヨリ相續ヲ爲スモ代理ヲ以テスルニ非ス蓋シ乙丙ハ尙ホ未タ生存スルカ故ニ被代理者タルヲ得サルナリ是ヲ以テ余ハ謂ハントス卑屬親ハ自己ノ權ヨリ相續ヲ爲ス時ハ財產ヲ等分シ即チ之ヲ人數ニ分配シ而シテ卑屬親カ代理ヲ以テ相續ヲナス時ニハ財產ヲ各族ニ分配ス可シト



〔百七號〕 蓋シ最近親ノ血族親ハ他ノ血族親ヲ除却ス可シトノ規則ハ代理ヲ以テ等親ノ差異ヲ消滅シ得可カラサル時ニ適用ス可シ例之ハ甲カ乙丙二人ノ兒子ヲ遺留シタリシニ其中ノ一人乙ハ兒子丁ヲ有スル者ニシテ相續ヲ拋棄シタリ此時拋棄者ノ兒子丁ハ其父ノ等親ヲ假用スルヲ得サルヨリ其伯父丙ニ除却セラル可シ而シテ其伯父丙ハ死者ノ最近親ナル血族親タル地位ヲ以テ獨リ相續ヲ爲ス可シ

○第四款及ヒ第五款 尊屬親及ヒ傍系親ニ授付スル相續

〔百八號〕 佛蘭西民法ニハ兄弟、姊妹又ハ兄弟、姊妹ノ卑屬親ノ前ニ尊屬親ヲ記載セリ是レ其順序ノ宜シキヲ得タリト謂フ可カラス何トナレハ尊屬親ハ兄弟、姊妹又ハ其卑屬親ノ前ニ相續ヲ爲スニ非ス却テ兄弟、姊妹其卑屬親ハ尊屬親ヲ除却ス即チ父母外ノ尊屬親ヲ除却スル者ナレハナリ是ヲ以テ兄弟、姊妹ハ直ニ卑屬親ノ後ニ記載セサル可

第七百四十八條第七百四十九條第七百五十條及第七百五十一條

〔百九號〕 第壹 特權アル傍系親即チ兄弟、姊妹又ハ兄弟、姊妹ノ卑屬親

○兄弟、姊妹又ハ其卑屬親ハ卑屬親ノ缺ル時ニ相續ヲ爲ス可シ  
蓋シ兄弟、姊妹又ハ其卑屬親ハ其系統ニ屬スル傍系ノ親ノミナラス其系統外ノ傍系親ヲ除却ス可シ故ニ異父ノ兄弟ハ其系統ノ傍系親即チ母系ノ傍系親及ヒ其系統ニ屬セサル傍系親即チ父系ノ傍系親ヲモ除却ス是レ傍系親ニ傳與シタル相續ハ之ヲ二分シテ一ハ父系ニ傳與シ他ハ母系ニ傳與スルト云フノ原則ノ例外ナリト知ル可シ  
(第七百條〇八十三號參觀)  
又此の人ハ其系統ノ尊屬親及ヒ他ノ系統ノ尊屬親即チ一言セハ父

尊屬親及ヒ傍系親ニ授付スル相續



母外ノ尊屬親ヲ除却ス可シ故ニ異母ノ兄弟ハ母系ノ尊屬親ヲ除却ス是レ又第七百三十條ニ記スル新例外ナリ

〔百十號〕 是等ノ人ハ父母ト共ニ相續ヲ爲ス可シ此時ニハ遺物相續ヲ二箇ノ平等ニ分テ其一ハ父母ニ歸屬ス而シテ父母ハ各四分ノ一ヲ有ス可シ其二ハ兄弟姊妹又ハ其卑屬親ニ歸屬ス可シ又父或ハ母ノ一人ト相續ヲナス時ニハ父或ハ母ハ四分ノ一ヲ收取シ其餘ハ盡ク兄弟姊妹又ハ其卑屬親ニ歸屬ス可シ○余ハ前ニ兄弟姊妹ノ卑屬親即チ其卑屬親ト記スルモ同意ナリト謂ヒタルヲ第七百五十一條ニハ兄弟姊妹ノ代理者ト記セリ蓋シ此代理者ナル語ハ法律上通常ノ意義ト異ナリ實際ニハ屢代理者ノ語ヲ卑屬親ノ意ニ用フルコトアリ法律上ハ此語ヲ其義ニ用ヒタルナリ此說第七百四十六條、第七百四十九條及ヒ第七百五十三條ニ明カナリ故ニ死者ノ姪男、姪女ハ死者ノ父又ハ其母

ト共ニ相續ヲ爲ス時ニハ假令ヒ自己ノ父ノ代理タルヲ得スト雖モ相續ノ四分ノ三ヲ收取ス可シ例之ハ甲カ其父ト兄弟一人トヲ遺留シ死去シタリ而シテ其兄弟ハ相續ヲ拋棄シタリトセハ其拋棄者ノ兒子ハ假令ヒ其父ヲ代理スルヲ得スト雖モ甲ノ父ト共ニ相續ヲ爲シ財產ノ四分ノ三ヲ相續スルヲ得可シ○第七百四十六條及ヒ第七百五十三條ニ記載スル死者ノ姪男ハ何レノ場合ト雖モ父母外ノ尊屬親ヲ除却スルコトハ是レ此語ヲ了知セサル可カラズ其所謂ル何レノ場合トハ即チ姪男カ其父又ハ其母ヲ代理シ或ハ其父又ハ其母ヲ代理シ得サル等ノ事項ヲ謂フナリ

第七百五十二〔百十一號〕 兄弟、姊妹又ハ其卑屬親ニ傳與スル相續ニハ(即チ前ニ說明セシ)許多ノ場合ニ隨ヒ全部ノ相續又ハ半部又ハ四分ノ三ニ分割スル相續凡テ兄弟、姊妹カ同父母又ハ異父又ハ異母ナル時之ヲ一言ス



レハ凡テ兄弟、姉妹カ同。一ノ婚姻ヨリ生誕スル時ニハ遺留財産ヲ人  
 數ニ分配ス可シ右ニ反スル場合ニ於テハ遺物ヲ折半シ其半額ハ父  
 系ニ屬シ半額ハ母系ニ屬ス可シ同。父。母。ノ。兄。弟。ハ。父。母。兩。系。ニ。於。テ。其。  
 分額ヲ收取シ異母ノ兄弟ハ唯、父系ニ於テ分額ヲ收取シ異父ノ兄弟  
 ハ唯、母系ニ於テ分額ヲ收取ス可シ例之ハ甲カ初度ノ婚姻ヨリ生出  
 シタル乙ナル兒子ヲ有セシニ又丙ト稱スル婦人ヲ娶リタリ其婦人  
 モ亦初度ノ婚姻ヨリ生シタル丁ナル兒子ヲ有セリ而シテ此甲丙ノ  
 婚姻ヨリ戊癸ノ兩兒子ヲ生誕シタリ戊癸ハ即チ同。父。母。ノ。兄。弟。ナリ  
 何トナレハ同一ノ父母ヨリ生誕シタルヲ以テナリ戊癸ハ乙ニ對シ  
 テハ異母ノ兄弟ナリ何トナレハ同一ノ父ヨリ生誕シタレハナリ  
 戊癸ハ丁ニ對シテハ異父ノ兄弟ナリ何トナレハ同一ノ母ヨリ生誕  
 シタレハナリ今爰ニ甲丙皆ナ死シ戊モ亦自己ノ兒子ナク死去シタ

リ此時戊ノ遺物ナル一萬二千フランノ金額ハ之ヲ折半シテ其半額  
 六千フランヲ父系ニ分與シ他ノ六千フランヲ母系ニ分與ス可シ癸  
 ハ死者ト同父母ノ兄弟ナルカ故ニ兩系統ニ屬セルヲ以テ異母兄弟  
 ナル乙ト共ニ父系ニ分與シタル六千フランヲ分配シ而シテ又異父  
 兄弟ナル丁ト共ニ母系ニ分與シタル六千フランヲ分配ス可シ然ル  
 時ニハ癸ハ都合六千フランヲ得可シ而シテ他ノ兄弟ハ唯、各自三千  
 フランヲ得ルノミナリ

〔百十二號〕 第貳 尊屬親○爰ニハ父母ノ身分ヲ有スル尊屬親ト父母  
 外ノ尊屬親トヲ區別セサル可カラズ  
 父母ノ身分ヲ有スル尊屬親ハ唯、卑屬親ニノミ除却セラル可シ然レ  
 モ亦兄弟、姉妹又ハ其卑屬親ト共ニ相續ヲ爲スヲ得可シ  
 兄弟、姉妹又ハ其尊屬親無キ時ハ父母ノ身分ヲ有スル尊屬親ハ其系

第七百四十六條  
 第七百四十四條  
 第七百四十五條  
 第七百四十六條  
 第七百四十七條  
 第七百四十八條  
 第七百四十九條  
 第七百五十條  
 第七百五十一條  
 第七百五十二條  
 第七百五十三條  
 第七百五十四條  
 第七百五十五條

尊屬親及ヒ傍系親ニ授付スル相續



統ニ在ル他ノ血屬親ヲ除却スルカ故ニ父ハ尊屬親及ヒ父系ノ傍系親ヲ除却シ母ハ尊屬親及ヒ母系ノ傍系親ヲ除却スル者トス  
 若シ父母後存スル時ハ其父母ハ各、相續ノ半額ヲ收取ス可シ若シ父母ノ中一人先死スル時ハ相續ヲ二箇ニ平分シ其一ヲ父系ニ歸屬シ其他ヲ母系ニ歸屬ス可シ後存スル父又母ハ其系統ニ歸屬スル半額ヲ收取ス可シ而シテ曾祖父ハ其他ノ半額ヲ收取シ曾祖父無キ時ハ他系ノ傍系親ノ中最モ近親ナル者之ヲ收取ス可シ然レモ後存スル父又母ハ其系統外ノ傍系親ニ歸與スル財産ノ入額所得權ヲ有スルヲ得可シ○例之ハ甲カ自己ノ父ト其先死シタル母ノ父トヲ遺留シテ死シタリトセハ其父ハ相續ノ半額ヲ收取ス可シ而シテ他ノ半額ハ母系ノ曾祖父ニ屬ス可シ今爰ニ甲アリ其父ト其先死シタル母ノ兄弟トヲ遺留シタル時ニハ財産ノ半額ハ父ニ歸屬シ其他ハ母系ノ

傍系親即チ本例ノ甲ノ母系ノ伯父ニ歸屬ス可シ然レモ父ハ其收取シタル半額外ニ其共ニ相續シタル傍系親ノ半額ノ三分ノ一ヲ入額所得ノ權ニテ有ス可シ

〔百十三號〕 父母外ノ尊屬親ハ下ノ人々ニ因テ除却セサル可シ第一、死者ノ卑屬親第二、死者ノ兄弟、姉妹又ハ兄弟、姉妹ノ卑屬親第三、死者ノ父又ハ母是ナリ

右ノ父母外ノ尊屬親ハ其系統ノ通常ノ傍系親ヲ除却シ而シテ父母、祖父母ヲ問ハス其尊屬親ト共ニ相續ナシ財産ノ半額ヲ收取ス可シ若シ是等ノ尊屬親ナキ時ハ其系統ニ在ラサル傍系親ト共ニ相續ナシ財産ノ半額ヲ得可キ者トス然レモ法律ハ父母ノ時ニ於ケルカ如ク父母外ノ尊屬親ノ系統ニ在ラサル傍系親ニ歸屬スル財産ノ三分ノ一ヲ入額所得權ニテ有スルヲ允許セサルナリ



各系統ニ於テ漸ク遠親ナル尊屬親ハ父母外ノ尊屬親ニ除却セラレ可シ何トナレハ尊屬親ノ爲メニ代理ヲ允許セサルヲ以テナリ〔百號參觀〕各系ニ歸屬スル遺物ノ半額ハ之ヲ再分セス其儘尊屬親又ハ最近親ナル傍系親ニ全ク屬ス可シ〔第七百三十四條參觀〕

〔百十四號〕 第參 兄弟、姉妹及ヒ兄弟、姉妹ノ卑屬親外ノ傍系親〇通常ノ傍系親ハ下ノ人々ニ因テ除却セラレ可シ第一、卑屬親第二、兄弟、姉妹又ハ其卑屬親第三、如何ナル等級ヲ問ハズ尊屬親ノ人々はナリ而シテ通常ノ傍系親ハ自己ト同一ノ系統ノ尊屬親ニ在ラサレハ除却セラレス故ニ他ノ系統ノ尊屬親ニ至テハ共ニ相續ヲ爲シ財產ノ半額ヲ得可シ其兄弟、姉妹又ハ其卑屬親トハ決シテ共ニ相續ヲ爲サス却テ兄弟、姉妹又ハ其卑屬親ハ通常傍系親ト系統ヲ同フスルト否トヲ問ハズ之ヲ除却ス可シ是ヲ以テ父系ノ傍系親ハ異父ノ兄弟ニ除却セ

ラレ又母系ノ傍系親ハ異母ノ兄弟ニ除却セラレ可シ〇余ハ爰ニ記應ス可シ傍系親カ父又ハ母ト共ニ相續ヲ爲ス時ハ父又母ハ其傍系親ニ歸屬スル財產ノ三分一ノ入額所得權ヲ有スルヲ得ルヲ〔百九號及百十二號參觀〕

傍系親ニ授付シタル財產ハ之ヲ二箇ニ分割ス一ヲ父系ニ授付シ他ヲ母系ニ授付スル者トス同父母ノ傍系親ハ父母兩系ニ於テ財產ノ分配ヲ受ク可シ然レモ異母ノ傍系親ハ父系ニ於テ異父ノ傍系親ハ母系ニ於テノミ其分配ヲ受ルノミ代理ハ爰ニ允許セサルナリ〔百一號參觀〕故ニ各系ニ於テ最モ近親ナル傍系親ハ凡テ他ノ者ヲ除却ス而シテ各系ニ歸屬シタル分部ハ之ヲ再別セス其全部最近親ノ傍系親ニ屬ス可シ

第七百五十五〔百十五號〕 第十二級以上ノ血族親ハ相續ヲ爲ス可カラズ父母兩系ノ



内一系ニ於テ相續ス可キ等級ニ在ル血族親無キ時ハ他系ノ血族親  
盡ク遺留財産ヲ相續ス可シ

○附録

尊屬親カ自己ヨリ贈與シタル物品ヲ相續スル事

第七百四十四〔百十六號〕

尊屬親ヨリ贈與ヲ受ケタル子又ハ卑屬親カ子孫無クシテ

死去シタル時ニ其贈與物カ尙ホ以前ノ儘ニテ現存スレハ其尊屬ノ

親他ノ親族ヲ除却シテ其物品ヲ相續ス可シ

其贈與シタル物品ヲ讓與シタル時尊屬親ハ其金額ヲ相續ス可シ且

ツ受贈者ヨリ他人ニ對シテ其物品ヲ復取ス可キ訴訟ヲ爲スノ權モ

亦其尊屬親ニ移轉ス可シ(第七百四十七條)

蓋シ法律ハ尊屬親カ自己ノ兒子ヲ亡ナフ悲哀ニ加フルニ自己ニ屬

セシ財産ニシテ且ツ其愛惜セシ物カ他人ニ移轉スルヲ見ルノ悲歎  
ヲ以テス可カラスト思考シ且ツ受贈者ノ相續ニ於テ尊屬親カ贈與  
シタル物品復取ノ事實ナカリシ時ハ尊屬親ハ一切其兒子ニ對シテ  
贈與ヲ爲サ、ル可シト思考シタルナラン

○第一節 贈與者タル尊屬親ノ權利ノ性質

〔百十七號〕 此權利ヲ稱シテ相續上ドラアドルツール又ハ法律上復得シニシセラールツレガールノ權利ト謂フ蓋シ

契約上復得ノ權ニ相對スル語ナリ

余カ不動産ヲ甲ニ贈與シテ相約スルニ若シ甲カ余ヨリ先死スル時  
ハ今彼ニ贈與スル財産ハ余ニ歸復ス可シト謂ハ、之ヲ契約上ノ復  
得トス蓋シ此贈與ハ受贈者ニ確定アンコンミターブルノ所有權ヲ移轉シタルニ非ス未  
定ノ所有權ヲ移轉シタル者ナリ而シテ受贈者ハ其所有權ヲ左ノ條  
件ニ因テ得ル者トス即チ若シ受贈者カ贈與者ヨリ先死スル時ニハ

贈與者タル尊屬親ノ權利ノ性質



所有權ハ贈與者ニ以前ヨリ存スル者ト思考スルノ條件是ナリ之ヲ再言スレハ贈與ハ解除ノ未必條件ニテ之ヲ爲シタル者ナリ是ヲ以テ若シ贈與者カ受贈者ヨリ先死スル時ニハ解除ノ未必條件ハ敗亡セルカ故ニ受贈者ノ權利ハ確乎トナリ其權利ハ廢棄ス可カラサル者トナル若シ又贈與者カ受贈者ヨリ後存スル時ハ未必ノ條件ハ成就スルカ故ニ贈與ハ既往ニ泯テ消滅スル者トス即チ贈與ハ既往ト將來トニ向テ存在セサル者トス故ニ物品ハ曾テ贈與セサリシ時ノ地位ニ復スルナリ(第千八百八十三條)故ニ贈與者カ財產ヲ復得スルハ相續人ノ地位ニ於テ相續ノ名義ヲ以テスルニ唯、贈與ハ曾テ無キカ如ク思考シ贈與者ハ以前ヨリ所有權ヲ保存シ受贈者モ亦之ヲ保有セサリシト看做スカ故ナリ蓋シ贈與者ハ所有權ヲ失ハサリシト看做スカ故ニ今財產ヲ復得スルモ新ニ所有者トナルニ非サルナ

リ

斯ノ如ク贈與ヲ解除スルノ効驗ハ雙方ノ間ノミニ生スルニ非ス又他人ニ對シテ之ヲ解除スルヲ得可シ何トナレハ受贈者ハ廢除シ得可キ所有者ナルカ故ニ廢除ス可カラサルノ權利ヲ他人ニ移轉スルヲ得サルカ故ナリ是ニ由テ左ノ結果ヲ生ス

第一 何レノ場合タルヲ問ハス受贈者ノ相續ノ時ハ贈與者ハ他人ノ手ニ於テ其贈與シタル財產ヲ復得スルノ權利アリ

第二 受贈者カ書入及ヒ土地ノ義務ヲ財產ニ設立スル時ニハ之ヲ除去シテ贈與者ニ復歸セサル可カラス

第三 贈與者ハ受贈者ノ遺物タル負債ヲ辨償スル事ナク贈與シタル財產ヲ復得ス可シ

第四 受贈者ノ所爲又ハ過失ニテ財產ノ本體ヲ失フ時ハ贈與者ハ



賠償ヲ要求スルノ權アリ

右ノ事項ハ即チ契約上復得ノ性質及ヒ其効驗ナリトス(第九百五十

一條及第九百五十二條參觀)

(百十八號)

若シ尊屬ノ親カ贈與チ卑屬ニ爲ス時ハ少シモ契約無シ

ト雖モ尊屬親ニ復得ノ權利アリ之ヲ法律上又ハ相續上ノ復得ノ事

項トス而シテ此事項ニ於テハ特別ノ規則アリ夫レ尊屬親カ復得ノ

權利ヲ約セスシテ贈與チ卑屬親ニ爲スハ自カラ廢棄ス可カラサル

ノ權利ヲ移轉スルナリ受贈者モ亦確定ノ權利ヲ獲得スルナリ然ル

ニ若シ受贈者カ先死スル時ニ其領收シタル財產ヲシテ其本體ヲ遺

物中ニ失ハサラシメハ恰モ契約上復得ノ事項ニ於ケルカ如ク其財

産ハ尊屬親ニ歸復ス可シ然レモ贈與ハ決シテ生存セスト看做スニ

非ス既往ニ泝テ消滅シタリト謂フニ非ス又尊屬親カ一度其所有權

ヲ失ハサリシト看做ス故ニ非ス蓋シ法律上ヨリ相續ノ名義ニテ財

産ヲ尊屬親ニ歸屬セシムルカ故ナリ尊屬親カ財產ヲ復得スルハ受

贈者ノ相續人トナリ受贈者ノ相續スルノ權利アルヲ以テナリ是ヲ

以テ第七百四十七條ニハ尊屬親ノ贈與シタル財產カ受贈者ノ遺物

中ニ其本體ノ儘ニテ存スル時ハ尊屬親之ヲ相續ス可シトスル所以

ナリ

蓋シ尊屬親カ其卑屬親ニ贈與シタル財產ヲ復得スル所以ハ相續人

ノ名義ヲ以テナリト云フ原則ヨリ左ノ條件ヲ生ス

第一 尊屬親ハ受贈者ノ生存スル時ヨリ其權利ヲ拋棄スルヲ得

ス蓋シ何人タリト雖モ未開ノ相續ヲ拋棄スルヲ得ス(第七百九十一

條參觀)

第二 尊屬親ハ未タ相續ノ開始セサル以上ハ其權利ヲ讓與スルヲ

贈與者タル尊屬親ノ權利ノ性質